

官報

號外 昭和十四年二月十五日

○第七十四回帝國議會衆議院議事速記録第十二號

昭和十四年二月十四日(火曜日)

午後一時十分開議

議事日程 第十一號

昭和十四年二月十四日

午後一時開議

第一 決議案(對ノ權益確保ニ關スル件)(町田忠治君外八十二名提出)

第二 競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第三 金資金特別會計法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第四 臺灣米穀移出管理特別會計法案(政府提出) 第一讀會

第五 短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第六 兵役法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第七 滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止ニ關スル法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

族院送付) 第一讀會

族院送付) 第一讀會

族院送付) 第一讀會

族院送付) 第一讀會

族院送付) 第一讀會

族院送付) 第一讀會

族院送付) 第一讀會

族院送付) 第一讀會

族院送付) 第一讀會

○議長(小山松壽君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(書記官朗讀)

一 今十四日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ

借地借家臨時處理法中改正法律案

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

青年學校教育費國庫補助法案

(以上二月十三日提出)

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

理容師法案

提出者

山川頼三郎君 中山 福藏君

高橋 義次君 一松 定吉君

東條 貞君

砂嶺法中改正法律案

提出者

原 玉重君 松永 東君

伊東下田間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

眞鍋 儀十君 高木条太郎君

津倉 龜作君

樺太ニ鯨人工孵化實施並禁漁區設定ニ關スル建議案

提出者

松浦周太郎君 手代木隆吉君

南雲 正朔君 深澤 吉平君

女性移住者養成道場設立ニ關スル建議案

提出者

伊藤 五郎君 森田重次郎君

(以上二月十三日提出)

一 昨十三日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出) 委員

辭任田川大吉郎君 補闕小田 榮君

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮リ致シマス、森林法中改正法律案

外一件委員長ヨリ日本會議中委員會ヲ開キタイトノ申出ガアリマス、之ヲ許可スルニ御異議アリマセス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス、日程第一、決議案ヲ議題ト致シマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス、贊成者山本厚三君

第一 決議案(對ノ權益確保ニ關スル件)(町田忠治君外八十二名提出)

決議案

帝國ノ權益ニ對スル「ソ」聯政府ノ暴戻ハ

近來彌甚シキヲ加ヘ正ニ根柢ヨリ之ヲ覆ヘサムトスルニ至レリ

政府ハ速ニ適切ナル對策ヲ講ジ斷乎之ニ臨ミ我カ權益確保上萬遺漏ナキヲ期スヘシ

右決議ス

(山本厚三君登壇)

○山本厚三君 私ハ對「ソ」權益確保ニ關スル決議案ニ付キマシテ提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス、説明ニ先ダチマシテ一應決議案文ヲ朗讀致シタイト存ジマス

決議

帝國ノ權益ニ對スル「ソ」聯政府ノ暴戻ハ近來彌甚シキヲ加ヘ正ニ根柢ヨリ之ヲ覆ヘサムトスルニ至レリ

政府ハ速ニ適切ナル對策ヲ講ジ斷乎之ニ臨ミ我カ權益確保上萬遺漏ナキヲ期スヘシ

右決議ス

本問題ハ國際上カラ申シマシテモ、又我カ國策ノ上カラ申シマシテモ、非常ニ重大ナ問題デアルト存ジマス、元來我ガ露領ニ對スル漁業權ト云フモノハ、御承知ノ如クニ日露戰役ニ於テ我ガ同胞十萬血肉ノ犧牲ニ因ルモノデアリマス、又北樺太ノ石炭石油ノ鑛業權ハ、實ニ尼港事件七百生靈ノ代價トシテ獲タル所ノ賠償權益デアリマス、我等ノ拂ヒマシタ所ノ此ノ貴キ犧牲ニ比ベマズレバ、殆ド幾分ノ一ニモ値セヌモノデハ

アリマスガ、我等ニ取リマシテハ、ソレダケニ最モ貴重ナル戰利品デアルト申サナケレバナリマセス、我等ハ旅順包圍戰ノ當時、又尼港殘虐ノ往昔ヲ追想致シマスル時ニ、今尙ホ血涙ノ禁ジ難キモノガアルノデアリマス、然ルニ此ノ貴キ權益ハ今日如何ナル狀態ニ在ルノデアリマセウ、近來「ソ聯」ノ之ニ對スル態度ヲ見マス、全ク常軌ヲ逸シマシテ、國際信義ヲ無視シ、有ユル不法不當ノ暴舉ヲ敢テシテ、正當ナル我が權益ノ行使ヲ不能ナラシメントシテ居ル狀態デアリマス、我等ハ從來時局ノ重大ナルニ鑑ミマシテ、多年隱忍自重シテ參ツタノデアリマス、併シナガラ若シ此ノ儘ニ押進シテ行キマシタナラバ、是等ノ權益ハ遂ニ自然消滅ニ歸スルノ外ハナイト存ジマス、斯クシテ若シ斯様ニ相成ツタナラバ、我等ハ何ヲ以テカ此ノ我等同胞十萬ノ生靈ニ應ヘルコトガ出来マセウ、勘忍モ程度ガアリマス、最早是マデト私ハ考ヘル(拍手)宜シク斷乎タル所ノ決心ヲ以テ、此ノ貴重ナル權益ノ確保ヲ致サナケレバナラスト存ジマス(拍手)元來本條約ハ大正十四年芳澤「カラハシ」ノ北京條約、即チ「ソ」國交ノ回復ニ關スル所ノ基本條約ニ依リマシテ、「ポーツマス」條約ヲ確認セシメ、更ニ昭和三年ニハ後藤新平伯ノ入露トナリ、廣田「カラハシ」協定トナリ、茲ニ初メテ「ソ」漁業條約ト云フモノノ確立ヲ見ルニ至ツタノデアリマ

ス、昭和十年ニ本條約滿期更新ニ際シマシテハ、商議ヲ重スルコト實ニ數十回、遂ニ昭和十一年末ニ至リマシテ、酒匂「カズロフスキー」極東部長ノ協定ガ成リ、既ニ我國デハ御批准ヲ經テ假調印ヲ濟マシ、將ニ正式ノ調印ニ至ラントシテ、「ソ」聯ハ日獨防共協定ヲ口實ト致シマシテ、遽ニ調印ヲ拒否シ、以テ今日ニ至ツタ次第デアリマス、爾來暫定協定ニ同ニ及ンダノデアリマスガ、今ヤ之ヲスラモ「ソ」聯ハ峻拒シテ應ジナイノデアリマス、殊ニ甚シキハ安定漁區、特別契約漁區等、特約ノ一切ヲ無視致シマシテ、全部ヲ公入札ニ付セント云フコトヲ發表シタノデアリマス、更ニ甚シキハ名ヲ軍事上ノ必要ニ藉リマシテ、沿海州其ノ他四十漁區ヲ禁止スル等、洵ニ露骨無遠慮ナル所ノ發表ヲ致シテ來リマシタ、我方ハ相變ラズ之ニ對シテ總テ合理ノ一方ノ交渉ヲ重ネマシタガ、更ニ今日ニ至ルマデ要領ヲ得ナイノデアリマス、是ニ於テカ我方關係漁業者ハ一大決心ヲ致シテ居ルヤウデアリマス、不當ナル三月十五日ノ入札ニハ一人モ絕對的ニ參加ヲシナイ、飽クマデ出漁ヲ敢行セントシテ、洵ニ悲憤ナル所ノ決意ヲ表明致シテ居ル現狀デアリマス

惟フニ我方北洋ノ權益ト云フモノハ單ニ戰爭ニ勝ツタ所ノ報酬、即チ普通一般ノ戰利品デハアリマセス、昔ヨリ多年我國漁民ノ往來經營シタ所デアリマシテ、千島樺太ハ申スニ及バズ、「カムチャツカ」半島、「オホーツク」、沿海州ニ至ル所ノ非常ニ廣汎ナル區域ニ互ツテ漁業ヲ營ミ來ツタノデアリマス、唯樺太ハ幕府末年ノ額勢ニ乘ジマシテ、千島ト交換ヲ餘儀ナクセラレタノデアリマス、自分ノモノト自分ノモノトヲ交換セシメラレタノデアリマス、往昔我が勇敢ナル北海ノ漁人ハ、扁舟ニ棹シテ、何等政府幕府ノ援助ヲ受ケズ、否、却テ當時ノ幕府カラハ禁制ヲセラレテ居リマシタカラ、此ノ禁制ヲ侵シテ北洋ニ航海ヲ致シ、露西亞政廳ノ迫害ヲ忍ビ、風浪、氷雪ト闘ヒツツ、北門ノ開拓ニ邁進シマシタ、其ノ勇氣ト云フモノハ洵ニ感謝感激ノ外ハアリマセス(拍手)就中歴史ヲ緝キマス、彼ノ高田屋嘉兵衛ノ如キ、錢屋五兵衛ノ如キ、又栖原屋角兵衛、是ハ今日モ現存シテ居リマスルガ、是等ノ剛膽ナル「パイオニヤ」ノ壯圖ハ、歴史ニ輝ケル所デアリマシテ、今日中南支攻略、「バイアス」灣上陸、殊ニ今回ノ海南島占據等ニ依リマシテ、今更ノ如クニ明ニセラレマシタ彼ノ八幡船ノ遠征、實ニ南支方面ヲ風靡致シマシタ所ノ八幡船ノ遠征ト劣ラナイ所、我が大和民族ノ意氣ヲ天下ニ示シタモノト存ジマス、正ニ今日ノ時代ニ於キマシテモ、懦夫ヲシテ起タシムルノ慨アルモノト私ハ存ズルノデアリマス(拍手)此ノ數百年ニ互リマスル所ノ先覺者達ノ努力ト犠牲ト云フモノガ、日清、日

露、「シベリヤ」出兵等ヲ經マシテ、初メテ茲ニ報ヒラレ、南樺太ヲ取戻シ、是等權益ヲ得ルニ至リ、漸次大漁場ヲ開拓シ、又別ニ領海外ニ沖取漁業ト云フ一大事業ヲ創始スル等、今ヤ生産額五千萬圓ヲ出デ、輸出二千萬圓ヲ超ユルノ盛大ナル事業トナツタノデアリマスルガ、此ノ間幾多先覺ノ士ガ、世ノ毀譽褒貶ヲ顧ミズ、我が北門鎮鎗ノ爲、權益擁護ノ爲、一身一家ノ利害ヲ忘レテ、國家ニ貢獻セラレタル所ノ偉大ナル功績ニ對シマシテハ、我等ハ絶大ノ感謝ヲ拂ハナケレバナラスト存ジマス(拍手)此ノ機會ニ一言申述ベルコトノ御許ヲ願ヒタイハ、會テ本議院ニ長ク議席ヲ有セラレタ堤清六、平出喜三郎ノ兩君デアリマスガ、堤君ハ北洋漁業ノ開拓者トシテ、平出喜三郎君ハ沖合漁業ノ創始者トシテ、其ノ功績ガ顯著ナモノガアリマスルカラ、此ノ機會ニ申上ゲテ置キタイト存ジマス(拍手)

更ニ一言附加ヘナケレバナラヌコトハ、北樺太鑛業權益ノコトデアリマスルガ、石油ニ於キマシテハ埋藏量實ニ三億餘噸ニ上ルト稱セラレテ居リマス、年産額最近二十六萬噸、油質殆ド米油ニ匹敵スルノ良質ヲ持ツテ居リ、一日ノ出油量率ハ世界ニ冠タリト稱セラレテ居リマス、今日ノ時局ニ於テ如何ニ此ノ權益ガ重大デアアルカト云フコトハ、申上ゲナクモ自明ノ理デアリマス、更ニ石炭年産二十萬噸、必要ニ應ジテバ

五十万、百万ノ増産ト云フコトモ、可能性
ガアルト稱セラレテ居リマス、是等ハ何レ
モ單ニ産業上ノ問題ナルニ止マラズシテ、
國策上極メテ重要ナル權益デアルト存ジマ
ス、然ルニ之ニ對スル「ソ」聯ノ態度ハ、如
何ニモ暴戾ヲ極メマシテ、一方ニハ國內法
ヲ盾ニ有ニル妨害ヲ加ヘ、勞働者ト物資ニ
對シテハ徹底的ノ彈壓ヲ加ヘ、殊ニ甚シキ
ハ邦人從業者ニ對シテ、不法慘酷ナル所ノ
拘禁刑罰ヲ科シマシテ、何事ニ付テモイヤ
ガラセヲ申シテ、我が權益ノ行使ヲ不可能
ナラシメ、自然消滅ニ至ラシメントノ底意
ニ出テ居ルコトハ、極メテ明瞭ナル所ノ事
實デアリマス（拍手）最近「アグネヴォ」坂井
組合石炭利權ヲ取消シタガ如キハ、其ノ最
モ顯著ナ事例ト申サナケレバナリマセス、

最早斯クナル上ハ、普通一般外交辭令ナド
ノ取交セラシテ居ツテハ、到底埒ノアツク問
題デハナイト私ハ考ヘマス（拍手）一體政府
ハドウシテ之ヲ解決ナサラントスルノデア
リマスカ、今議會ニ於テ本會議、豫算總會
ヲ通ジテ、政府ノ御意向ハ極メテ穩當デハ
アリマスルガ、吾々國民トシテ承服スルコ
トノ出來ル程度ノモノデハナイ、今少シク
強硬ナル態度ヲ御執リニナツテ然ルベシト
私ハ考ヘル（拍手）私共ハ「ソ」滿國關係ヲ
初メト致シマシテ、忍ブベカラザルコトヲ
忍ビテ來タコトガ、凡ソ年久シキモノガア
リマス、本件ハモト經濟の利害ノミニ局限

スル問題デハアリマセス、今日我國ガ北洋
一步ノ退却ハ、北門ノ護リ一步ノ後退ニア
ラズト、誰ガ言ヒ得ルコトガ出來マセウ（拍
手）政府ハ深く是等權益ノ歴史ト國策上ノ
重要性ニ鑑ミ、萬全ノ謀ヲ運ラセテ、此ノ
權益ヲ確保シ、以テ國民ノ期待ニ背カザラ
シコトヲ期セナケレバナラヌト存ジマス（拍
手）是レ即チ私共ガ本案ヲ提出致シマシテ、
政府ノ斷乎タル決意ヲ要求スル所以デ
アリマス（拍手）願クバ全會一致ノ提案デア
リマスルカラ、滿場一致御決議アランコト
ヲ切望致シマス（拍手）

○議長（小山松壽君）是ヨリ討論ニ入りマ
ス、通告順ニ依リ發言ヲ許シマス——深澤
豐太郎君

〔深澤豐太郎君登壇〕

○深澤豐太郎君 私ハ立憲政友會ヲ代表シ
テ本案ニ賛成ノ意ヲ表スルモノデアリマス、
露領北洋ニ於ケル漁業權ノ紛争ハ、幾たび
カ是ガ繰返サレテ來タノデアリマスルガ、
最近ニ於ケル紛争ノ發端ハ、申スマデモナ
ク酒匂「カズロフスキー」修正案ニ對スル、
露西亞ノ調印拒絕ニ始ツテ居ルノデアリマ
ス、而シテ相次イデ暫定協定ガ結バレテ、
遂ニ條約ノ滿期ニ至ツテ、所謂無條約狀態ニ
マデ推シ進メラレテ、今日ニ至ツテ居ルノ
デアリマス、私ハ勿論無條約時代ト云フ言
葉ハ當ラナイト思フ、基本トナルベキ「ボー
ツマス」條約及ビ「ソ」修好基本條約ハ、儼

トシテ存在ヲ致スノデアリマスルカラ、無條
約狀態トハ思ハナイノデアリマスルガ、其
ノ行使規定タル漁業條約ヲ缺如致シテ居リ
マシテハ、此ノ基本條約ノ行使ニ當ツテハ、
實力ヲ以テスル以外ニ方法ガナイノデア
リマス、私ハ是マデノ經緯ヲ顧ミテ、政
府モ國民モ深く考ヘテ見ナケレバナラナ
イモノガアルト思ヒマス、即チ「ソ」聯
ガ突如トシテ酒匂「カズロフスキー」成
案ノ調印ヲ肯ゼザル所以ハ、日獨防共
協定ノ締結ト云フ政治的理由ニ依ツテ、之
ヲ拒否致シテ居ルノデアリマス、尙ホ奇怪
千萬ナルコトハ、暫定協定ガ二回マデモ續
ケラレテ、遂ニ條約ノ期限滿期ニナルノヲ
待ツテ、今日ノ暴狀ヲ極メテ居ルノデアリ
マスルガ、其ノ中デ最モ注意シナケレバ
ナラナイ點ハ、先程提案者ノ説明ニアリマ
シタ通り、四十箇所ノ漁區ニ對スル一方の
閉鎖ノ行動デアリマス、是ハ事ハ多數ノ漁
區ノ中四十箇所ニ過ギナイノデアリマスル
ケレドモ、其ノ地域ハ殆ド「カムチャツカ」
半島ヲ除ク大陸一帯ニ對スル漁區ノ閉鎖ト
ナツテ居ルノデアリマス、「ボーツマス」條
約ニ於テハ其ノ第十一條ニ於テ「露西亞國
ハ日本海、オホーシク海及ベーリಂಗ海ニ
面スル露西亞國領地ノ沿岸ニ於ケル漁業權
ヲ日本國民ニ供センガ爲ニ日本國ト協定ヲ
ナスベキコトヲ約ス」ト明記致シテ居ルノ
デアリマス、然ルニ一方のニ此ノ「ボーツ

マス」條約十一條ノ中ニ於ケル沿海州ヲ初
メトスル大陸一帯ノ沿岸ニ對シテ我が漁場
封鎖シ、我が出漁ヲ禁止スル行動ニ出タコ
トハ、「ボーツマス」條約ノ大半ヲ自ら抹殺
シ去ツタモノト言ハナケレバナラナイヲデ
アリマス（拍手）是ハ光輝アル日露戰爭ノ歷
史ニ顧ミテ斷ジテ許スコトノ出來ナイ所デ
アリマス、尙ホ其ノ他ノ漁區ニ對シマシテ
モ、此ノ四十箇所ヲ除キマシタ二百四十七
箇所ノ安定漁區ハ、總テ之ヲ競賣ニ付スコ
トヲ宣言致シマシタ、競賣其ノモノハ漁業
條約ニ於ケル一ツノ陷穽デアツタト私ハ思
フノデアリマス、今尙ホ暫定協定其ノ他ニ
於テ政府ハ競賣ノコトヲ考慮致シテ居ルモ
ノト思ヒマスルガ、競賣ハ凡ソ自由經濟ノ
國ニ於テナケレバアリ得ナイ所ノモノデ
アラウト思フ、然ルニ露西亞ガ今日計畫經
濟デアルコトハ申スマデモナイ、ノミナラ
ズ企業ハ國營デナケレバ許サレナイ國柄デ
アリマス、假ニ露西亞ヲ自由經濟ノ下ニ於
ケル自由競爭デ入札スルモノト假定シテ
モ條約面ニ於ケル三十二錢五厘ノ換算率ハ
何事デアリマス、一例ニ過ギマセヌガ、私
ハ先年「モスコ」ニ行ツテ、朝飯ニ「パン」
ト卵ト「ハム」サラダ「ラ」食ベタラ、邦貨ニ換
算シテ百五圓ノ料金ヲ拂ハセラレタノデア
ル、又工手學校ヲ卒業スレバ一躍八百圓ヲ
以テ採用セラレテ居ル、故ニ露西亞ヲ留メ
價值ハ正ニ邦貨ニ換算シテ五錢以下ノ價值

價値ハ正ニ邦貨ニ換算シテ五錢以下ノ價值

シカナイモノト言ハナケレバナリマセス、此ノ五錢以下ノ價值シカナイ留ヲ以テ彼ハ入札ヲシ、我ハ三十二錢五厘ノ留ヲ以テ其ノ入札ニ應ジタ場合ニ、若シ彼ガ其ノ漁區ヲ奪取セントスルナラバ、假ニ自由經濟ノ下ニ於テモ露西亞人ガ此ノ漁區ヲ奪ヒ去ルコトハ易々タルモノト言ハナケレバナリマセス、況ヤ企業國營ノ下ニ於テ國營漁業ヲ標榜シ、或ハ個人デ入札スル者モ亦政府ノ命令ニ依ツテ入札ヲ致シテ居ル今日ノ場合、此ノ安定漁區二百四十七箇所ガ入札ニ付セラレタ一事ヲ以テ、此ノ全部モ亦彼ガ奪ヒ去ラント企テツツアルコトモ明瞭デアルト言ハナケレバナラナイノデアリマス（拍手）シテ見レバ沿海州ヲ初メ大陸ニ於ケル漁場全部ヲ閉鎖シテ「ボーツマス」條約ノ大半ヲ抹殺シ、今又安定漁區全部ヲ入札ニ付シテ、此ノ悉クヲ奪ヒ去ルニ至リマシテハ、「ボーツマス」條約、日「ソ」修好基本條約ノ全部ハ彼ニ依ツテ蹂躪シ去ラレルモノト言ハナケレバナラヌノデアリマス、私ハ此ノ事實ニ對シマシテ深く考ヘテ見ナケレバナラナイモノガアルト思フノデアリマス、況ヤ支那事變ニ關聯ヲ持ツ所ノ援蔭「グループ」ノ連鎖ノ一環ノ現ハレトシテ、此ノ事ガ吾々ノ眼前ニ展開シツツアルニ於テヤト言ハナケレバナラナイノデアリマス（拍手）漁業問題ニ對シマスル結論ハ留保致シマシテ、北樺太ノ石油石炭鑛業權ニ對ス

ル今日ノ有様ハ如何デアリマスカ、只今申サレマシタ通りデアリマスルガ、事ノソコニ至リマスルノニハ實ニ暴虐ノ限リガ盡サレテアルノデアリマス、之ヲ詳細ニ申上ゲルコトハ時間ヲ取リマスルカラ遠慮ヲ致シマスルケレドモ、石油問題ハ芳澤「カラハシ」條約ニ依ツテ、大正十四年六月我が政府ノ手ニ依ツテ創立セラレタ北樺太石油株式會社ガ之ニ當ツテ居リマス、此ノ石油會社ハ既ニ二千萬圓ニ増資ヲシテ、第七十議會ニ於テ成立致シタル助成ノ豫算ガ、此ノ事業ヲ助ケテ昨年度ハ一大躍進ヲ爲スベキ計畫ノ下ニアツタノデアリマス、然ルニ其ノ後ノ「ソ」聯政府ノ我が石油工業ニ對スル壓迫干涉ハ殆ド至ラザルナキ有様デアル、其ノ二三ヲ申上ゲレバ、利權契約ニ依ル從業員ノ割合ハ、技術家ハ邦人露人五〇%、從業者ハ邦人二五%露西亞人七五%トノ條約ニナツテ居ルニ拘ラズ、十年度ハ此ノ規定ニ依ツテ申入レタル邦人ノ七百五十人ノ入國ヲ彼ハ之ヲ拒絶シ、露西亞人ノ不足ノ勞働者ノ邦人ノ採用ニ付テモ亦之ヲ拒否シテ居ルノデアリマス、而シテ僅ニ所要勞働者ノ四分ノ一ノ入國ヲ許シテ、露西亞人勞働者ハ僅ニ六分ノ一ヲ提供致シタニ過ギナイノデアリマス、此ノ四分ノ一ノ邦人勞働者ト六分ノ一ノ露西亞人勞働者ニ依ツテ此ノ事業ヲ押進メテ居ルノデアリマスガ、其ノ成績ハ此ノ一事ヲ以テ知ルコトガ出來ルノデアリ

マス、或ハ利權契約ニ依ル二十五條ノ油ヲ送ル鐵管ノ敷設ヲ拒否シタリ、從業員ノ生活必需品ノ輸入ヲ故意ニ削減シテ許可ヲ與ヘズ、爲ニ配給ニ手違ヲ生ズレバ、鑛業所長ヲ違反ニ問ウテ之ヲ起訴セント致シ、醫療機械或ハ藥品ノ輸入スラ今日ハ拒絶ヲ致シテ居ル有様デアリマス、沿岸荷役地ノ貸與ヲ拒絶シテ、遂ニ折角持ツテ行ツタ試掘機械ノ陸揚ガ禁止セラレテ、事業ガ中止ニナツタ所モアル、材木ノ供給ハ二十九條ニ依ツテ確保セラレテ居ルニ拘ラズ、其ノ供給ヲ拒否シテ、昨年度ハ七千噸モ日本ノ内地カラ材木ヲ逆ニ樺太ニ持ツテ行カナケレバナラナイ有様デアリマス、三十四條ニ違反シテ無線通信所ノ閉鎖ヲ命ジタリ、或ハ採油作業場、技術建築物ノ建設ヲ禁止シタリ、些々タル火災ヲ口實トシテ六十五本ノ油井ヲ閉鎖致シマシタ、露人勞働者ニ付テハ突如四〇%ノ賃銀ノ値上ヲ要求シ、技術家ノ名稱ニ違反シタト稱シテ四万留ノ罰金ヲ科シタリ、微々タル酒保ノ犯罪ニ對シテ八万六千留ノ罰金ヲ科シタリ、拘引、留置、起訴、罰金、追放、國外退去、勤勉ナル露人ハ之ヲ罷免スルト云フガ如キ有様デ、正ニ恐怖政策ヲ以テ我が石油事業ニ臨ミツツアル有様デアル、遂ニ昨年度ハ從業員ノ大量引揚ヲ斷行シナケレバナラナイ有様ニ立至ツタノデアリマス、石炭ニ付キマシテモ亦同様デアル、此ノ迫害ノ有様ハ石油ニ對

スルト同巧異曲デアリマスケレドモ、モツト石炭業ハ甚シキ壓迫ヲ受ケテ、遂ニ一割ノ勞働者ヲ彼ノ地ニ殘シテ全部引揚ヲシナケレバナラナイ有様ニ立至ツタノデアリマス、殊ニ坂井組合ニ對シテハ先程申サレタ通りノ有様デ、坂井組合ハ商工省ノ認可ヲ得テ、將ニ八百万圓ノ北樺太炭業株式會社ノ創立ヲ見シトスルノ間際ニ至ツテ、其ノ利權ガ取消サレテ「ソ」聯政府ノ沒收スル所トナツタノデアリマス、斯ノ如キ有様デ北洋漁業ハ勿論、此ノ北樺太ニ於ケル石油石炭共ニ彼ハ一方的ニ之ヲ蹂躪シテ、我が權益ノ全部ヲ奪ヒ去ラント致シツツアルノデアリマス、私ハ事茲ニ至リマシテハオ五ニ重大ナル決意ヲ以テ之ニ臨マナケレバナラナイト思フノデアリマス

政府ハ此ノ事態ニ直面シテ、業者ガ漁業權ニ付テハ自由出漁ヲモ辭セズト云フ決意ヲ爲シテ居ルノニ對シテ、政府モ亦實力ニ依ル出漁ヲ辭スル所ニアラズト言ハレテ居リマス、實力ニ依ル出漁ハ勿論之ヲ避クルコトハ出來マセス、併シナガラ實力ニ依ル出漁ハ決シテ容易ナ事業デハナイノデアリマス、徳川時代ヨリ「ボーツマス」條約締結ニ至ルマデノ間ハ、謂ハバ武裝的自由出漁ノ時代デアリマス、アノ严寒不毛ノ地ニ荒天ヲ冒シテ出漁ヲシテ、遂ニ幾百千人々々ハアノ海ニ吞マレ、荒野ニ屍ヲ曝シテ居リマス、先年私ハ「カムチャツカ」ニ行ツテ、カ

ムチャツカ」東西ノ海岸隨所ニ此ノ古キ先達ノ遺跡ヲ發見スルニ苦シマナカツタノデアリマス、大正十年、十一年ノ自由出漁ニ於テモ、亦警備ノ任ニ當ル海軍ノ御勞苦ハ非常ナルモノガアツタト思ハレマス、其ノ犠牲ハ明ニ之ヲ物語ツテ居ルノデアリマス、併シナガラ今回ノ自由出漁ニ至リマシテハ到底其ノ比デハアリマセヌ、「カムチャツカ」半島ハ無人島デアリマスガ、此ノ無人島ニモ尙ホ日本人ニ對スル「ゲ・ペ・ウ」ノ壓迫ハ至ラザルナキマデニ行届イテ居ル、此ノ「ゲ・ペ・ウ」ノ防備スル我ガ漁場「カムチャツカ」ハ僻遠ノ地デハアリマスガ、沿海州ハ尙更ノコトデアリマス、此ノ漁場ニ對シテ無査證ノ旅券ヲ以テ上陸セント企テマスナラバ、即チ實力ヲ以テ自由出漁ヲ爲サント致シマスナラバ、其ノ自由出漁ハ正ニ敵前上陸ノ覺悟ヲ以テ致サナケレナライノデアリマス(拍手)敵前上陸ハ敢テ恐ルル所デハアリマセヌ、併シ到ル處ニ林立致シテ居ル煙突、到ル處ニ建設セラレテ居ル罐詰工場、此ノ工場ニ關スル條約モ亦滿期ニナツテ居ル、六箇月ノ出漁期間ヲ經レバ、一人、二人ノ番人ヲ殘シテ引揚ガテ來ナケレバナライニ處ニ、此ノ重大ナル工作物、財産ヲ置イテ吾々ハ引揚ガテ來ルノデアリマス、自由出漁ハ實力ヲ以テ之ヲ爲スベシ、併シ放置致シテ來ル財産ハ何ヲ以テ之ヲ擁護致スノデアリマセウカ、漁業ニ付テノ自由出漁ノ難點ハ

其處ニアルノデアリマス、樺太ニ對シテハ何ヲ以テ之ヲ擁護スルカ、私ハ此ノ場合敢テ重大ナル決意ヲ爲サナケレバナラスト言フ所以ハ、敵前上陸ヲ、冒シテ自由出漁ヲスルナラバ、外ニ豫メ何カ方法ガナケレバナリマセヌ、北樺太ノ此ノ重大ナル利權ハ、大正九年五月二十四日、想起シテモ慄然タル彼ノ尼港事件ニ因ル我ガ保障占領ニ依ツテ樺太ニ開拓セラレタル事業デアリマス、保障占領中ニ石油ノ探鑛ヲ爲シ石炭ノ探鑛ヲ爲シ、此ノ保障占領還付ノ代償トシテ、北樺太ニ於ケル是等利權ハ確保致スコトガ出來テ居ルノデアリマス、而シテ今其ノ利權ノ全部ハ抹殺シ去ラレントシテ居ルノデアリマス、「カムチャツカ」ニ於ケル漁業ガ日露戰爭ノミニ因ツテ得タル利權デナイコトハ勿論デアリマス、吾々ノ先覺者ガ長イ間開拓シ、而シテ發達シ來ツタ事業デアルコトハ申スマデモアリマセヌガ、「カムチャツカ」、沿海州其ノ他ニ於ケル漁業權モ亦日露戰爭ニ因ル一ツノ成果デアリマス、併シ「セント・パウロ」ニ軍艦旗ガ飄ツタ日露戰爭ノ代償トシテモ之ヲ見ルコトガ出來ルノデアリマス、「カムチャツカ」ニ於ケル漁業權ハ、日露戰爭ノ時ニ、首都「セント・パウロ」ニ飄シタ軍艦旗ノ代償トモ見ルコトガ出來ル、北樺太ニ於ケル利權ハ、尼港事件ノ保障占領ノ代償トシテ得タモノデアルトスレバ、之ヲ解決スルノ途ハ一ツシカア

リマセヌ、名ハ自由出漁デアツテモ、實力ヲ以テ之ヲシナケレバナライトシタナラバ、宜シク帝國ハ此ノ漁區ハ一時的占據ヲ爲スベシ、北樺太ニ對シテハ再び保障占領ヲ斷行スベシト言ヒタイノデアリマス(拍手)此ノ占領地ヲ返還スル爲ニ得タル權益デアル以上、此ノ權益ガ蹂躪シ去ラレルナラバ、保障占領シタル地域ヲ再び保障占領スルコトガ正當ナル途デハアルマイカト思フノデアリマス、私ハ一觸即發ノ世界ノ大勢ニ顧ミテ、或ハ是ガ世界大戰ノ導火線タランカトモ思ハルルノデアリマスガ、今ハ「斷ジテ行ヘバ鬼神モ避ク」ト云フ時デアリマス、政府ガ斷ジテ是ガケノコトヲ行ハントスルナラバ、鬼神ハ避ケテ其處ニ途ハ自ラ開ケルト思フ、此ノ重大ナル決意ヲ爲スニアラザレバ「ボーツマス」條約ノ成果モ、尼港事件ノ賠償モ蹂躪シ剝奪シ去ラレルモノト致シタナラバ、宜シク此ノ重大ナル決意ヲ固メ、光輝アル權益ト利權トヲ確保スル爲ニ、周到ナル用意ト大膽ナル決心ヲ以テ事ニ當ツテ、之ヲ確保セラレントヲ政府ニ要望シ、本決議案ニ賛成ノ意ヲ表スル者デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 青木精一君

(青木精一君登壇)

○青木精一君 諸君、私ハ同志ヲ代表致シマシテ本決議案ニ賛成ヲ致ス者デゴザイマス、本案ノ對象トナツテ居リマスル所ノ露領漁業權、北樺太ノ石油石炭ニ對スル利權、此ノ問題ハ提案者及ビ深澤君ノ申サル通り、我ガ國民ノ忘レントシテ忘ルルコトノ出來ナイ重大ナル國家的ノ權益デアリマス、然ルニ今日此ノ際本案ノ有スル内容ノ如キ決議案ヲ帝國議會ニ於テ審議シ、決議シナケレバナライト云フヤウナ事態ガ起ツテ來タコトヲ私ハ甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス(拍手)此ノ權益ハ權益事業ノ性質カラ言ヘバ三大權益ト言ヘマスルガ、併シ之ヲ左様ナル事業ノ性質内容カラ言ハズシテ、國家的ニ強ヒテ區分シテ見ルナラバ二大權益デアル、更ニ吾々ハ日本ノ北方ニ對スル所ノ國是ト云フ點カラ見ルナラバ、北方露西亞ニ對スル確固タル所ノ一大權益ト云フコトガ言ヘルノデア

ル、然ルニ此ノ歴史アリ、サウシテ意義深キ所ノ權益ニ對シテ、最近數年來「ソ」聯政府ガ兎角忍ビ難キ所ノ態度ヲ以テ臨ンデ來テ居ル、昭和十一年以來此ノ權益關係者ハ、一體此ノ權益ハドウナルモノカト云フコトニ付テ、窃ニ心配ヲ重ネテ來テ居ツタノデゴザイマス、然ルニ今ヤ此ノ權益ハドウナルモノカト云フ、唯消極的ノ不安ヲ以テ見送ツテ居ルコトノ出來ナイ事態ニ立至ツテ居ルノデアリマス、此ノ貴重ナル所ノ權益ヲ如何ニシテ確保シテ行クベキカト云フコトガ、我ガ非常時日本ニ課セラレタル所ノ重大ナル課題ト相成ツタノデゴザイマス(拍手)「ソ」聯ハ千九百二十八年、即チ產

業五箇年計畫ノ實行以來、「ソ」聯領土内ニ於ケル所ノ利權回收ノ政策ヲ進メテ來テ居ルノデアリマス、「ソ」聯領内ニ於ケル英米獨佛ノ資本家ニ渡シテアル所ノ利權ハ、政治的、經濟的壓迫ニ依ツテ段々之ヲ奪還致シ、回收致シテシマツテ居ル、極東露領ニ於キマシテモ、此ノ只今問題トナツテ居ル所ノ權益以外ニ、單ナル利權法ニ依ツテ認メラレテ居ツタ所ノ日本人ノ權益、最モ著名ナルモノハ、沿海州ノ森林權益、或ハ「オホーツク」ノ金鑛權益其ノ他數種ノ權益ガアリマシタガ、ソレ等ハハリ種々ナル所ノ政治的、經濟的、人的壓迫ニ依ツテ、殆ド全部ヲ回收サレテシマツテ抛棄シナケレバナラナクカツテシマツタ、此ノ國家的、歴史的ノ三大權益ニ對シテ「ソ」聯方唯涎ヲ流シナガラ眺メテ居ツタケレドモ、如何セシ此ノ三大權益ハソレノ基本條約ニ確認サレテ居ル所ノ權益デアラカシテ、輕々ナル所ノ回收策ハ實行セラレナイデ今日ニ及ンデ居ルノデアリマス、人ハ言フ、日獨防共協定ノシツ筈返シニ、斯様ナル所ノ權益ニ對スル侵害ノ行動ニ出タノデアルト言フガ、ソレモアリマセウ、日獨防共協定成立以來、殊ニ濃厚ナル所ノ色彩ト態度ヲ以テ臨ンデ來テ居ルノデゴザイマス、尤モ一種ノ國際的感情問題ガ絡マツテ居ルノデゴザイマスルガ、其ノ根柢ニ於テハ外國ニ對スル權益ヲ全部回收致シテ、サウシテ産業

五箇年計畫ニ依ツテ自國ノ手デ之ヲ開發シヨウト云フ意圖ガ動イテ來テ居ルコトハ事實デゴザイマス、併シナガラ如何ニ「ソ」聯ガ此ノ日本ノ握ツテ居ル所ノ二大權益ニ對シテ、之ヲ奪還シ、之ヲ回收シヨウトシテ掛ツテモ、是ハ「ソ」聯ノ思フ儘ニハナラナイノデアアル、シテハナラナイノデアアル、露領漁業權ハ明治初年以來今日マデ三たび基本條約ニ依ツテ確認セラレテ居ルノデアアル、「ボーツマス」ノ條約ニ依ツテ確認セラレ、而シテ大正十四年ノ廣田「カハシ」ノ日「ソ」基本條約ニ依ツテ、現在「ソ」聯政府ガ再確認ヲ與ヘテ居ル、是ハ天下周知ノ事實デアアルガ、更ニ之ヲ沿革的ニ題ツテ見マズレバ、明治八年ノ樺太千島ノ交換條約ノ中ニ、「ボーツマス」條約ノ條項ト殆ド違ハナイ程度ノ條約ガ成立ヲ致シテ居ルノデアリマス、即チ其ノ六款ノ第一條ニハ「日本船及商人通商航海ノ爲メ「ヲホック」海諸港及東察加ノ海港ニ來リ又ハ其海及海岸ニ沿フテ漁業ヲ營ム等渾テ魯西亞最懇親ノ國民同様ナル權利及特典ヲ得ル事」吾々ノ先輩ガ時ノ國內情勢ニ依ツテ樺太千島ノ交換ヲ致シタト云フコトハ、今日カラ之ヲ顧ミルト洵ニ遺憾ナルコトヲ感ゼザルヲ得ナイノデゴザイマスルガ、其ノ時ノ交換條約ニ「ボーツマス」ガ確認シタルト同ジ程度ノ、ヨリ以上ノ、最惠國約款ニモ等シイウナ條約ガ確認セラレテ居ルノデアアル、尙ホ明治八年ノ

此ノ條約ヲ確認スルニ至ラシメタル所ノ根柢ハ、二百年以來我ガ大和民族ノ北方發展、我大和民族ノ北洋ニ於ケル所ノ漁業發展ノ動カスベカラザル所ノ國民的實力ガ此處ニ至ラシメテ、サウシテ明治八年ニ於テ堂々ト此ノ交換條約ニ於テ露領漁業權益ト云フモノガ確認サレルニ至ツタノデアリマス、故ニ此ノ露領漁業條約ト云フモノハ、單ナル日露戰爭十萬生靈ノ代價ト解スルコトハ出來ナイ、歴史的ニ我ガ日本ノ北方發展ニ依ツテ築キ上ゲタル所ノ、我國自體ガ建設シタル所ノ權益デアアルノデアリマス(拍手)北樺太ノ石油石炭ノ權益モ、是ハ單ナル尼港事件ノ代價トカ、或ハ北樺太ノ保障占領ニ於ケル所ノ派遣軍撤退ノ一ツノ置土産トシテ出來タルモノデハナイノデアリマス、此ノ北樺太ニ對スル所ノ、我ガ國民ノ北方發展ノ足跡ト云フモノハ、是ハ如何ニカシテ吾々ハ維持シテ行カネバナラス、其ノ一ツノ印トシテ茲ニ二ツノ石油、石炭ノ權利ガ認めラレテ居ルモノト吾々ハ解釋シナケレバナラス、而モ此ノ石油、石炭、露領漁業此ノ三ツノ權益ガ資源ニ乏シキ我國ニ取リマシテハ缺クベカラザル所ノ重要ナル産業デアアルコトハ申サマデモカイノデアリマス、「ソ」聯ハ御承知ノ通り「ソ」聯革命以後ニ於テハ、有ユル舊時代カラノ、帝政時代カラノ國際條約ヲ破棄改訂ヲ致シテ來テ居ルケレドモ、此ノ露領漁業權ニ對シテハ一指ヲ染メルコト

ガ出來ズシテ、「ボーツマス」條約ヲ全面的ニ之ヲ確認シテ居ルデハナイカ、日本人ノ開拓シタル所ノ結果デナケレバ「日本人ノ開拓ヲ俟タナケレバ、世界三大漁場ノ一タル所ノ北洋漁場ガ今日ノ盛大ヲ致スコトハ出來ナイノデアアル、吾々ハ唯日本ガ之ヲ我が物ニシテ利用シヨウト云フヤウナ狭イ考デハナイノデアアル、此ノ北洋ノ寶庫デアアル所ノ水産漁業ヲ露西亞人ニ任シテ置イタルデハ、永久ニ開拓ノ機會ガナイノデアアル、我ガ大和民族ノ力ニ依ツテノミ之ヲ開拓シテ、世界ノ利用ニ供給スルコトガ出來ルノデアリマス(拍手)此ノ漁業條約ノ成行ハ洵ニ懸念ニ堪ヘザル所ノ狀況ニナツテ居リマスガ、其ノ交渉ノ經過ヲ密ニ見マスルノニ、ヤハリ此ノ露領漁業ニ對シテ「ソ」聯方觸手ヲ動カシテ、色々ナ手ヲ以テ之ヲ「ソ」聯ノ手ニ回收シ、基本條約ヲシテ有名無實ニ陥ラシメテヤラウト云フ意圖ガ十分讀メルノデアリマス、ソレハ日本人ニ依ツテ獲得セラレテ居ル北洋露領漁場ノ漁區ノ七三%ヲ占メテ居ル所ノ所謂安定漁區、此ノ安定漁區ヲ今回ノ新條約ニ於テハ禁止シ、サウシテ之ヲ總テ競争入札ニ掛ケヨウト云フ「ソ」聯側ノ主張デアアル、七三%ヲ占メル所ノ最モ有力ナル所ノ安定漁區ヲ取上ゲテシマウト云フノガ、「ソ」聯ノ意圖デアアルコトハハツキリ致シテ居ルノデアアル、之ヲ入札ニ掛ケ、競賣ニ掛ケラレルナラバ、是ハ昔年カ

ラズシテ露西亞ノ手ニ同收サレテシマフソ
デアル、安定漁區ト云フ此ノ取扱ヲスルヤ
ウニナツテ、廣田「カラハン」協定ニ依ツテ、
此ノ協定ガ出來タカラコソ初メテ日本ノ露
領漁業ト云フモノガ生命ヲ繫イデ居ルソデ
アル、明治四十一年カラ昭和三年マデノ間
ニ於ケル所ノ露領漁業ニ於ケル日露ノ勢力
ヲ比較シテ見ルトハ對二、即チ絕對優勢ヲ
我國ガ占メテ居ツタノニ對シテ、昭和五年
ニハ其ノ漁區ノ配分ガ五對五ニ下ツテシマ
ツタ、昭和十一年ニハ全然地位ガ顛倒ヲ致
シテ、四・八對五・二ト變ツテ來テシマツテ
居ル、此ノ間即チ紛糾ガ毎年續イテ、其ノ結
果廣田「カラハン」協定ノ安定漁區制度ト云
フモノガ茲ニ現ハレテ來タノデアル、此ノ
安定漁區ヲ永久ニ吾々ハ支持シサケレバ、
露領ノ漁業權ト云フモノハ有名無實ニ終ラ
シメラレテシマフノデゴザイマス、而シテ
此ノ露領漁業ノ國家ニ貢獻致シテ居ル所ノ
其ノ狀態ハ、申上ゲルマデモナイコトデゴ
ザイマスガ、英國ニ對シテ年々三千万圓ノ輸出
ヲ維持シテ居ル、國際貸借上非常ナル貢獻ヲ
續ケテ來テ居ルノデアリマス、其ノ他國內ノ食
糧問題カラ言ツテモ、又東北六縣ヲ初メ、
新潟、石川、富山、北海道カラ年々二万ノ從
業員ガ出勤致シテ、此ノ權益事業ノ經營ヲ
致シテ居ルノデアリマス、斯様ナ狀態デ名
實共ニ此ノ露領漁業ト云フモノハ我國ニ取
ツテハ重大ナル權益デアルノデゴザイマス、

唯此ノ權益ヲ確保スルガ爲ニハ、非常ナル
所ノ外交上ノ難關ヲ突破シサケレバチアラ
イ事情ニ今日ハ立至ツテ居ル、此ノ重大ナ
ル權益ヲ民間會社ニ任シテ置クコトハ怪シ
カラスデハナイカ、斯ウ云フ感シヲ持ツ者
ガ若シモ官民一部ノ間ニアリトスルナラバ、
左様ナル所ノ感シヲ一掃セシメサケレバ、
本當ノ露西亞ニ對スル所ノ國民的力ハ起ツ
テ來ナイ、左様ナル考ヲ持ツ者ハナイ筈デ
アリマスルケレドモ、若シ左様ナル意見ガ
アルナラバ、必ズシモ是ハ民間會社ニ經營
サシテ置カナクトモ宜シイ、其ノ經營主體
ハ如何様ナル所ニ之ヲ變更致シテモ敢テ差
支ハナイノデアリマス、若シ現在ノ代行會
社ガイケナイト云フナラバ、更ニ改善セラ
レタル所ノ代行會社ニ之ヲヤラセルガ宜シ
イ、ソレデモ尙ホイケナイト云フナラバ、
ソレコソ政府ハ一大決心ヲ定メテ、北洋全
體ノ漁業經營ヲ政府ノ直接監督管理ノ下ニ
置ク所ノ國策會社ニ、之ヲ編成替ヲ致スコト
ハ當然デアルト私ハ思フノデアリマス(拍
手) 農林省ニハ此ノ國策會社ニ編成替ヲス
ルト云フヤウナ考ガアリ、腹案ガアル筈デ
アル、此ノ時局ニ於テ、此ノ時局ノ壓力ヲ
以テ初メテ此ノ國策ガ農林省ニ依ツテ踏切
レル筈デアル、何故之ヲヤラスカ
最後ニ私ハ申上ゲマスガ、此ノ權益ヲ確
保スルガ爲ニハ最早問題ハナイノデアル、
政府ノ腰一ツデアル、露西亞モ日本ノ態度

ヲ探ルベク斯様ナル所ノ舒餘曲折ノ手段ヲ
執ツテ居ル、日本ノ態度ガハツキリ致シ
テ腰サヘ強硬ニナレバ、露西亞ノ之ニ對ス
ル所ノ壓力ト云フモノハ、自然ニ消散シテ
シマフノデアル、露西亞ガ惴惴外交、權略
外交ヲスルコトハ、今日ヲ以テ始マツタノ
デハナイ、是ハ傳統的ノ露西亞ノ外交政策
ト言ツテ宜シイ、サウシテ強情デ粘リ強ク
テ飽クマデモ粘リ付ク、此ノ露西亞ノ國民
性ト云フモノヲ無視シテ、此ノ權益問題ノ
確保ハ出來ナイノデアル、併シナガラ最後
ノ土壇場ニ至ツテ他愛モナク約變ヲ致スコ
トモ、是モ露西亞國民性ノ持味デアル、故
ニ頑強ニ腰ヲ強クシテ、根氣負ヲシナイヤ
ウニシテ、之ヲ押ノ一手デ露西亞ニ對抗ヲ
致シテ居レバ宜イノデアル、總理大臣ヲ初
メ外務大臣、陸海軍大臣ニ此ノ腰ガアルカ
ドウカト云フコトガ即チ今日ノ問題ナノデ
アル(拍手)ドウカ政府ニ於キマシテハシツ
カリ腰ヲ定メテ、サウシテ霞ヶ關のノアノ
型ニ箝ツタ所ノ外交振リデナク、眞劍ニ此
ノ問題ヲ貫徹スベク努力セラレルナラバ、
私ハ從來ノ露領漁業權ノ紛爭歴史ヲ回顧ス
ルト共ニ、今回ノ此ノ紛糾モ敢テ我が目的
ヲ貫徹スルコトニ於テ、必ズシモ絶望デナ
イト云フコトノ自信ヲ持ツ者デゴザイマス、
唯徒ニ形式的ナ交渉バカリヲヤツテ居ツテ
ハ、何時マデ經ツテモ向フノ頑張りニ我國
ガ押サレ氣味ニナツテ居ル、今日ノ狀態ハ

即チツレデアル、有田外務大臣ハ此ノ露領
權益問題ニ對シテハ不思議ナ因縁ヲ持ツテ
居ル、昭和十一年ニ將ニ新條約ノ調印ヲ爲
サントスル所ノ一日カ二日前ニ日獨防共協
定ガ成立シタ爲ニ、此ノ問題ガ紛糾シ始メ
タノデアル、又今日有田外相ガ此ノ問題ノ
解決ノ責任ヲ背負ツテ居ルノデゴザイマス
ガ、此ノ經過カラ見テ有田外務大臣ノ責任
ハ二重ノ責任ヲ負ウテ居ルモノト私共ハ思
フ(拍手)有田外務大臣バカリニ任ス譯ニハ
行カナイ、ドウカ政府全體ガ協力ヲ致シテ、
何處マデモ此ノ問題ヲ眞直グニ解決ヲスル
ト云フコトニ努力ヲセラレタイノデアル、
若シ此ノ問題ガ不結果ニ終ルヤウナコトガ
アリマスレバ、今日支那建設ヲ中心ト致シ
マシテ、其ノ國際的日本ノ環境ト云フモノ
ハ著シク壓迫ヲ加ヘラレルノデゴザイマス
カラシテ、問題ハ權益問題デアルケレドモ、
此ノ結果如何ト云フコトハ、實ニ我が國運
ノ前途全體ニ對スル所ノ關係ヲ及ボシテ來
ルノデゴザイマス、政府ノ肚ヲシツカリ決
メラレテ、此ノ問題ニ對シテハ輕々ナル所
ノ處置ヲ執ラナイデ、十分ニ周到慎重ナル
所ノ態度ヲ以テ、飽クマデモ目的ノ貫徹ニ
努力セラレンコトヲ私ハ希望致シマス(拍
手)
○議長(小山松壽君) 渡邊泰邦君
(渡邊泰邦君登壇)
○渡邊泰邦君 私ハ此ノ決議案ニ對シマシ

テ社會大衆黨並ニ東方會ヲ代表致シマシテ……(笑聲、拍手)贊意ヲ表スル者デアリマス、北洋ノ權益ハ邇レバ日本ノ民族ガ二百年ニ亙ル非常ニ歴史ノ深イ權益デアリマシテ、單ナル一産業部門ノ問題トシテハ、此ノ歴史ハ餘リニモ因縁ガ深過ギルノデアリマス、殊ニ二万人ノ勞働者ガ年々從事致シマシテ、家族ヲ入レマスルト二十万人ニ餘ル、ソレ等ノ人々ノ生活問題モ包含セラレテ居ルノデアリマス、現今ノ「ソ」聯當局ノ方針ト解シマスベキモノハ、執拗ニ此ノ問題ニ食ヒ下ガリマシテ、日本ニ對シイヤガラセノ連發ニ依ツテ、此ノ問題ヲ紛糾ニ陥ラシメ、根本的ニハ日本ノ有スル權益ヲ漸次縮小セントスルノ意圖アルコトハ、極メテ明瞭ニ看取セラレルノデアリマス、最近北樺太ニ於キマスル彈壓、其ノ壓迫ノ如キハ既ニ前三者ニ依ツテ縷々申述べラレテ居リマスルカラ、私ハ茲ニ縷説ヲ避ケマスルガ、眼モ當テラレナイ事實ハ幾多吾々ノ眼前ニ展開サレテ居ルノデアリマス、此ノ問題ニ對スル理論、此ノ問題ノ見透シニ對スル方法ハ、既ニ前三者ニ依ツテ論ジ盡サレテ居リマスカラ私ハ蛇足ヲ加ヘマセスガ、唯歴史的ノ必然性ト其ノ落著ク先ヲ示唆シテ、當局ノ斷乎タル處置ヲ促サントスル者デアリマス(拍手)「ソビエト」聯邦ハ今日ノ日本ノ地位ガ複雑ナル國際的ノ氛圍氣ニアルヲ奇貨居クベシト爲シテ之ニ乗ジテ、我が國

民ノ決意ハ牢固トシテ拔ケベカラザルモノアルコトヲ察知セズ、横車ヲ押シテ日本ノ外交ノ軟弱ノ程度ヲ測ラントスルモノデアアルコトヲ私ハ信ズル者デアリマス(拍手)政府ハ事理ヲ盡シテ彼等ノ反省ヲ求メ、落著ク先ニ落著クグラウト云フコトヲ、屢言明セラレテ居ルノデアリマスルガ、私共カラ見ルト甚ダ手緩イト言ハナケレバナラス、日本政府ノ今日マデノ慰勸鄭重ナル外交ハ、紳士ノ外交デアリマスルガ、是マデ屢、列國ヲシテ日本與シ易シトノ感情ヲ懷カシメ、其ノ誤解ニ出發シテ彼等ノ暴慢ヲ助長セシメタコトハ、一再ニシテ止マラナイノデアリマス(拍手)其ノ結果全國民ノ憤激ヲ買ツテ、遂ニ實力行使ノ已ムヲ得ザル所ニマデ立至ラシメタコトハ、現ニ今日ノ例トシテ吾々ハ眼前ニ見テ居ルノデアリマス、即チ度ヲ過ギタル謙遜卑屈ナル左顧右盼ハ、却テ日本ニ取ツテ惡化ノ原因コソスレ、決シテ好イ結果ヲ齎スモノデナイト云フコトヲ銘記セラレマシテ、ドウシテモ此ノ問題ハ國民ノ權益トシテ斷乎確保スル信念ヲ示サレンコトヲ切ニ要望スル者デアリマス、若シ言葉ノ上デ解決出來ナカツタナラバ、力ノ回答ヲ與ヘル以外ニ方法ハナイ、力ノ回答ヲ與ヘルコトハ、「ソビエト」ノミナラズ、支那事變ニ對シテ、動モスレバ第三國ガ日本ノ實力ト信念ヲ疑フテ居ル、ソレ等ノ人ニ對シテモ、此ノ力ノ回答ハ彼等ニモ普

遍的ニ返事ヲ與ヘルモノト看做サナケレバナラスノデアリマス(拍手)無敵ノ日本陸軍ハ伊達デ飾ツテ居ルノデハアリマセス、浦鹽ヲ中心ニ潛水艦ガアル、組立潛水艦ガアルサウデアリマスガ、恐ルル必要ハナイ、是ハ吾々ダケガ恐レナイノデナクシテ、コシナモノハ大洋ニ出テ活動出來ナイト云フコトハ、既ニ世界ノ常識デアアルコトヲ思フノデアリマス、今日ノ日本ノ實力ハ彼等ヲ顧慮スル必要ハナイ、況ヤ正義ハ吾等ニアルノデアリマス、政府ハ斷ジテ逡巡スルコトナク、ハツキリト世界ノ檣舞臺ニ立ツテ、吾々ハ斯ノ如キ事ヲ斷行スルノダト云フ勇氣ヲ以テ國民ヲ指導シ、斷乎トシテ「ソビエト」聯邦ニ對セラレシコトヲ切ニ要望致シマス(拍手)有田外務大臣ハ外務省ノ外務大臣デハナク、國民外交ノ一員トシテ、所謂國家ノ總力ノ反映タル一ツノ日本國民ノ代表トシテ、強ク而モ聰明ニ此ノ問題ヲ善處セラレンコトヲ切望致シマシテ、本決議案ニ贊意ヲ表スル者デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽) 道家齊一郎君 遍的ニ返事ヲ與ヘルモノト看做サナケレバナラスノデアリマス(拍手)無敵ノ日本陸軍ハ伊達デ飾ツテ居ルノデハアリマセス、浦鹽ヲ中心ニ潛水艦ガアル、組立潛水艦ガアルサウデアリマスガ、恐ルル必要ハナイ、是ハ吾々ダケガ恐レナイノデナクシテ、コシナモノハ大洋ニ出テ活動出來ナイト云フコトハ、既ニ世界ノ常識デアアルコトヲ思フノデアリマス、今日ノ日本ノ實力ハ彼等ヲ顧慮スル必要ハナイ、況ヤ正義ハ吾等ニアルノデアリマス、政府ハ斷ジテ逡巡スルコトナク、ハツキリト世界ノ檣舞臺ニ立ツテ、吾々ハ斯ノ如キ事ヲ斷行スルノダト云フ勇氣ヲ以テ國民ヲ指導シ、斷乎トシテ「ソビエト」聯邦ニ對セラレシコトヲ切ニ要望致シマス(拍手)有田外務大臣ハ外務省ノ外務大臣デハナク、國民外交ノ一員トシテ、所謂國家ノ總力ノ反映タル一ツノ日本國民ノ代表トシテ、強ク而モ聰明ニ此ノ問題ヲ善處セラレンコトヲ切望致シマシテ、本決議案ニ贊意ヲ表スル者デアリマス(拍手)

○道家齊一郎君 私人只今議題トナリマシタ決議案ニ對シテ第二控表代表シテ贊成ノ意思ヲ表明スル者デアリマス、漁業權ノ何タルカニ付テ、又「ソビエト」ノ態度等ニ付キマシテハ、前者ニ於テ縷々述べラレタ所デアリマスルカラ、私ハ贊成ノ意ヲ表スル經過ノ上ニ於テ、重複スルカモ知レマセスガ、簡單ニ申述べテ政府當局ノ決意ヲ促ス者デアリマス(拍手)

抑、我が北洋漁業ノ歴史ハ既ニ十六世紀ニ發シテ居ルノデアリマス、慶長四年ノ松前藩時代ニ始ツタ所ノモノデアツテ、北洋漁業ノ發展ハ我ガ民族ノ北方開拓ノ歴史デアアルノデアリマス、幾百年ノ間或ハ風浪ト闘ヒ、或ハ不當ナル所ノ彈壓ニ耐エテ、サウシテ幾多ノ尊キ犠牲ヲ拂ツタ結果デアリマス、而シテ此ノ既得權ハ、既ニ我が國運ヲ賭シタル所ノ日露ノ大會戰ニ於テ、勝利ノ代價トシテ更ニ之ヲ確保シタモノデアリマス、言ヒ換ヘレバ吾々ハ血肉ヲ以テ此ノ權益ヲ買ツタノデアリマス(拍手)我國ニ對シテ「ポーツマス」條約ハ其ノ漁業權ノ確保ニ調印シタノデアリマス、其ノ後大正十四年一月彼ノ芳澤「カラハン」條約ニ依リマシテ、更ニ之ヲ確認セシメタノデアリマス、是ハ「ソ」聯ノ重大ナル條約上ノ義務ニ屬スル、我國ノ確乎不動ノ權利デアアルコトハ喋喋ヲ要シナイノデアリマス、目下其ノ漁業ハ北洋全體ヲ通ジテ約一億ヲ算スルノデアアル、「ソビエト」ノ關係ニ於テ約四五千萬圓ニ上ル所ノ漁獲高デアアル、サウシテ前者モ述べラレマシタヤウニ、其ノ従業員、勞働者ハ約二萬ニ垂ントシテ、家族ヲ入レレバ六十萬噸、實ニ是ハ世界ノ最大ナル所ノ

組織の十一ノ體系ヲ成シタ權利デアルノデアリマス、我ガ輸出貿易モ此ノ漁業權ヲ失フナラバ、重大ナル影響ヲ蒙ルコトハ御承知ノ通りデアリマセウ、然ルニ「ソ」聯ハ此ノ漁業施行細則ガ彼ノ國內法ニ依ツテ定メラレタコト云フ所ノ理由ノ下ニ、彼ハ勝手ナ解釋ヲ行ツテ我ガ權益ヲ壓迫シツツアル、當時國內法ニ於テ制定スルコトハ問題デアルト云ツタデアリマスガ、「ソ」聯ハ之ニ對シテ自己ノ正義ヲ主張シテ、斯ル事ノナイコトヲ保障シタニモ拘ラズ、今日彼ハ勝手ナ解釋ヲシテ居ルハ一體何デアルカ、ソレハ私我ガ政府當局ノ處置其ノ當ヲ得ナカツタニ依ルモノト思フノデアリマス、兎ニ角斯様ナルコトヲ今論ジテモ致シ方ナイノデアリマスガ、彼等ハ機ガアル毎ニ吾等ノ權益ヲ侵害セントシテ居リマス、漁區ノ如キモ競賣制度デアルコトヲ幸トシテ、彼等ハ政府ガ個人ノ假面ヲ被ツテ不當ナル高價ヲ以テ漁區ノ入札ヲ圖リ、漸次我ガ權益ヲ侵害シツツアリマス、現行條約ノ施行サレマシタ昭和三年ニ於テハ、我ハ八〇%以上ノ權利ヲ持チ、彼ハ二〇%以下デアツタ、其ノ漁區ノ數ニ於テ我ハ二百五十五デアツタ、彼ハ僅ニ四十二デアツタモノガ、最近ニ於テハ如何デアリマセウカ、全ク其ノ主客ヲ顛倒スルニ至ツタ、我國ハ三百八十六、「ソ」聯ハ四百九ヲ算スルニ至ツタノデアリマス、ソレノミナラズ我國ニ對スル所ノ迫害ハ、

有ユル方向ヲ通ジテ益、強烈極ムル一方デアアル、例ヘバ漁區ノ一方ノ閉鎖ヲスルカ、或ハ漁船ハ不法ヲ拿捕ヲ行フトカ、或ハ監督官ガ不法行為ヲ敢テスルカ、一々枚舉ニ違アリマセウ、ソレハ恰モ滿洲事變ニ於テ我等ガ被ツタ權益ノ侵害ト比較スルニモ餘アルモノデアリマス、而シテ彼ハ改訂期ニ於キマシテ其ノ調印ヲ言フ左右ニ託シテ延期ヲ致シ、遂ニ外交當局ノ軟弱ナル所ノ態度ニ依ツテ今日マデ至ツタコトハ、既ニ述ベラレタ通りデアリマセウ、彼等ノ目的ハ我ガ權益ノ剝奪デアアル、サウシテ終ニハ之ヲ壊滅セントスルニアルコトハ言フマデモナイコトデアリマス、遂ニ最近ニ至ツテ十二月ノ二十八日「トウワフ」外務人民委員ハ、我國ガ北鐵關係ノ支拂ヲ履行シナイト云フコトヲ口實ニ、條約ノ締結ニ應ゼザルコトヲ由出タノデアリマス、サウシテ彼ノ壓迫ハ獨リ漁業權ノミナラズ、石油ノ問題、石炭ノ採掘權ニト及ンデ居ルノデアリマス、我國ニ取ツテ石油ガ如何ニ重大デアルカハ今更申述ベルマデモナイ、何ガ故ニ斯ル狀態ヲ政府ハ安閑トシテ居ラレカ、政府ハ頗ル樂觀的態度ヲ執ツテ居ラレカ、政府ハマセウカ、此ノ條約ハ何トカスレバ結末ガ著クカノ如ク考ヘテ放任シテ居ラカ、今日ノ如キ狀態ニナツタ、此ノ漁業權ハ吾等ノ血肉肉デ買ツタ以上、政府ハ決意ヲシテ貴ヒタイ、此ノ權益ハ吾等ノ血肉肉ヲ以テ

モ斷乎トシテ守ラナケレバナラスト云フコトヲ決意シテ貴ヒタイ(拍手)彼等ノ不遜ナル態度ノ原因ヲ考察スルニ、先ヅ第一ニ私ハ當局ノ軟弱ナル外交政策ヲ舉ゲザルヲ得ナイノデアリマス、第二ニハ次第ニ完備シツツアル「ソ」聯ノ軍備デアアル、而シテ第三ニハ日支ノ事變、而シテ第三國ノ態度デアアルノデアリマス、吾々ハ内閣ニ對シテ國民總親和ナドト云フ御念佛ノヤウナモノヲ要求シテ居ルノデハナイ、吾々國民ハ左様ナモノヲ要求シテ居ルノデハナイ、何ヲ要求シテ居ルカト云フト、從來ノ如キ軟弱政策ヲ清算スルト云フコトニアル、吾々ハ政府ニ強ク之ヲ警告致シマス、元來我國ノ政府ノ態度ハ甚ダ外交ニ於テ軟弱デアアル、嘗テ滿洲事變ノ勃發當時「ソ」聯ニ對シテ吾々ノ執ツタ行動ハ何ヲ物語ルデアリマセウカ、アノ乾念子ニ於ケル砲艦ノ砲撃ハ何ヲ意味スルカ、彼ハ何ガ故ニ沈黙シタカ、第二ニ最近ニ起ツタ所ノ張鼓峰ノ事件ハ如何ニシテ解決シタデアラウカ、常ニ是ガ「ソビエト」ノ態度デアアル、彼ハ押セバ退キ、退ケバ押シテ來ル、是ガ「ソビエト」ノ傳統的國民外交デアアルノデアリマス、吾等ハ此ノ外交ヲ能ク知ラナケレバナラス、私ハ外務當局ガ獨リ「ソ」聯ニ對スルソミナラズ、甚ダ軟弱ナル態度ヲ以テ今日諸國ニ對シテ居ラレコトヲ甚ダ遺憾トスル者デアリマス、獨リ今日ニ其ノ軟弱ナル態度ガ始ツタモノデハナ

イ、一例ヲ申上ゲルナラバ驚クベキ事例ガアル、私ガ嘗テ歐洲ヲ廻ツタ時ニ「ハンブルグ」ノ市長ニ會ヒタイト云ツタ所ガ、外務省ノ當局ハ何ト云フカ、「ハンブルグ」ノ市長ハ是ハ一國ノ王様ダ、サウ君簡單ニ會ヘナイ(簡單)ト呼フ者アリ(笑聲起ル)ソシナ馬鹿ナコトハナイ、彼等ハ一週間モ二週間モ其ノ面會ニ日ヲ要シテ、躊躇逡巡ヲシテ居ル、何トナレバ敬意ヲ表スルノダト云フ、倫敦ノ市長ニ會ヒタイト云フト、一週間待ツテ呉レト云フ、サウシテ外交上ノ事ハ調ベテ居ルカト云フト、何ニモ調ベテ居ナイ、「アタシ」方ガ餘程能ク調ベテ居ル、一々之ヲ述ベルト長クナリマスガ、私共ハ總テノ方面ニ於テ此ノ外交ノ刷新ヲ要求スルモノデアアル、此ノ刷新ガ目下ノ我ガ日支事變ノ解決ノ上ニ於テ缺クベカラザル所ノ必要ナル條件デアアルト思フノデアリマス、今ヤ世界ハ舉ゲテ一大變革期ニ際會シツツアル、政治、經濟、思想、外交ニ於テ、大キナ轉回ヲ爲シツツアルコトハ御承知ノ通りデアアル、經濟ニ於テハ國防經濟、即チ統制ヲ中心トスル經濟本位ニ變リ、自由主義ヲ清算シツツアル、思想ニ於テモ國家主義流行ノ時代デアアル、外交ニ於テハ何デアアルカト云フト、力ヲ背後トシタ所ノ強硬外交デアリマス、果シテ日本ノ外務當局ハ、此ノ新時代ノ躍進國家ノ執ツテ居ル所ノ政策ニ相應シイ行動ヲ執リツツアルデアラウ

カ、「エチオピア」ニ對スルアルノ伊太利ノ行動、獨逸ノ行動、之ヲ思ヒ合セタナラバ、我が外交ガ如何デアルカハ判斷ニ苦シマザル所デアリマセウ、今日ノ外交方針ハ大膽デナクチャナライ、サウシテ日「ソ」問題ノ解決モ、今回ノ廣東ノ攻略ノ如ク其ノ有終ノ美ヲ收メナケレバナラス、是ニハ強硬デナクチャナラス、是ニハ力ガナクチャナラス、今日ハ力ガ權利ノ時代デアル、吾々ハ力ニ依ツテ最後ノ權利ヲ把握シナケレバナラス、此ノ外交問題ノ解決モ、漁業權ノ解決モ、又最後ノ力ヲ以テ解決シナケレバナラスト思フデアリマス、簡單デアリマ

スガ、私ハ本案ニ賛意ヲ表スル者デアリマス

○議長(小山松壽君) 是ニテ討論ハ終局致シマシタ、採決致シマス、本案ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔議員起立〕

○議長(小山松壽君) 起立議員

〔拍手起ル〕

○議長(小山松壽君) 仍テ本案ハ全會一致可決セラレマシタ 此ノ際外務大臣ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマス、之ヲ許シマス

〔國務大臣有田八郎君登壇〕

○國務大臣(有田八郎君) 只今ノ對ソ權益確保ニ關スル決議ニ付キマシテ、此ノ際政府ノ決意ヲ表明致シテ置キタイト思フノデアリマス、政府ト致シマシテハ是等ノ權益

確保ノ爲、從來努力ヲ怠ラナカツタノデアリマスルガ、目下ノ情勢ニ照シマシテ、更ニ一段ノ努力ヲ傾注シ、適切ナル對策ヲ講ズルニ於テ、其ノ最善ヲ盡サンコトヲ期スル次第デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 日程第二、競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案第一讀會ヲ開キマス 櫻内農林大臣

第二 競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案 競馬法第八條第一項ノ規定ニ依リ日本競馬會ガ政府ニ納付スベキ金額ハ同項ノ制限ニ拘ラズ其ノ賣得金ノ額ノ百分ノ十一・五以內ニ於テ命令ノ定ムル金額トス

前項ノ規定ニ依ル政府ニ納付スベキ金額ト競馬法第九條ノ規定ニ依ル賣得歩合金額トノ合計ハ賣得金ノ額ノ百分ノ十八ヲ超ユルコトヲ得ス

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

○議長(櫻内幸雄君登壇)

○國務大臣(櫻内幸雄君) 只今議題トナリマシタ競馬法ノ臨時特例ニ關スル法律案ノ提出ノ理由ヲ申上ゲタイト存ジマス、今次支那事變ノ推移ニ對處シ、併セテ最近ニ於ケル競馬施行ノ實況ニ鑑ミマシテ、

此ノ際競馬法ニ依ル政府納付金ニ關シ所要ノ改正ヲ加フルノ要アリト認メマシテ、右ニ關シ過般馬政調査會ニ對シテ諮問ヲ致シ、其ノ答申ニ基キ立案致シタモノデアリマシテ、競馬法ニ依ル政府納付金率及ビ之ニ關聯スル勝馬投票券ノ賣得金ニ對スル控除率ニ關シ、臨時的ニ必要ナル改正ヲ加ヘントスルモノデアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラシコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、軍馬資源保護法案外一件ノ委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ 日程第三、金資金特別會計法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス 石渡大藏大臣

第三 金資金特別會計法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

金資金特別會計法中改正法律案 金資金特別會計法中左ノ通改正ス

第三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ規定ニ依リ本資金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般會計又ハ他

ノ特別會計ノ歳入ニ繰入レ當該會計ノ歳出トシテ拂出スベシ

第四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本資金ハ本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要ナル金額ヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ金、國債、產金振興債券、日本產金振興株式會社株式(額面總額二千五百萬圓ヲ限ル)又ハ勅令ノ定ムルモノニ運用スルコトヲ得

第五條中「一般會計」ノ下ニ「又ハ特別會計」ヲ加フ

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣石渡莊太郎君登壇〕

○國務大臣(石渡莊太郎君) 金資金特別會計法中改正法律案ニ付テ説明致シマス、現下ノ時局ニ顧ミマスルニ、產金ノ増加ヲ圖リ、國際收支ノ改善ニ努ムルコトハ、喫緊ノ要務デアルト存ジマスル所、是ガ爲ニハ金資金ノ運用範圍ヲ擴張致シマシテ、從來ノ金、國債、產金振興債券又ハ日本產金振興株式會社株式ニ對スル運用ノ外、勅令ノ定ムルモノニモ運用シ得ルコトトスル等ノ必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ協賛ヲ與ヘラシコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外二件ノ委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第四、臺灣米穀移出管理特別會計法案、第一讀會ヲ開キマス——石渡大藏大臣

第四 臺灣米穀移出管理特別會計法案

(政府提出) 第一讀會

臺灣米穀移出管理特別會計法案

臺灣米穀移出管理特別會計法

第一條 臺灣總督府ニ於テ米穀ノ移出ヲ管理スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歳入ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 本會計ニ據置運轉資本ヲ置キ其ノ金額ハ五百萬圓トシ漸次臺灣總督府特別會計ヨリ繰入ルルモノトス

第三條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ金額ハ二千五百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四條 本會計ニ於テハ米穀ノ賣渡代金、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ米穀ノ

買入代金、米穀ノ買入賣渡加工貯藏及運搬ニ關スル諸費、借入金ノ償還金及利子、一時借入金ノ利子其ノ他諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

第五條 米穀ノ買入數量ノ増加其ノ他避クベカラザル事由ニ因リ生ジタル豫算ノ不足ヲ補フ爲歳出豫算ニ豫備費ヲ設クルコトヲ得

第六條 本會計ノ歳出額ハ其ノ實際ノ歳入及據置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルコトヲ得ズ

第七條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルベシ

第八條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第九條 本會計ニ於テ決算上過剩ヲ生ジタルトキハ之ヲ積立ツベシ

本會計ニ於テ決算上不足ヲ生ジタルトキハ前項ノ規定ニ依ル積立金ヨリ之ヲ補足スベシ

第十條 本會計ノ積立金ハ之ヲ臺灣ニ於ケル農業ノ調整、開發及助長ノ爲必要ナル費途ニ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ本會計ノ積立金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ臺灣總

督府特別會計ノ歳入ニ繰入レ臺灣總督府特別會計ノ歳出トシテ拂出スベシ

第十一條 本會計ノ積立金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第十二條 本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第十三條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調整シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ之ヲ提出スベシ

第十四條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ昭和十四年度ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣石渡莊太郎君登壇)

○國務大臣(石渡莊太郎君) 臺灣米穀移出管理特別會計法案ニ付テ説明致シマス、臺灣總督府ニ於テ米穀ノ移出管理ノ爲ニ行ヒマスル米穀ノ買入賣渡、加工又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ、之ヲ他ノ會計ト區分シテ經理スルヲ適當ト認メマス所、是ガ爲特別會計ヲ設置スルノ必要ガアリマス

ノデ、此ノ法律案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上速ニ協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——岡野龍一君

(岡野龍一君登壇)

○岡野龍一君 私ハ只今提案致サレマシタ臺灣米穀移出管理特別會計法案ニ對シテ、數點ノ疑義ヲ質シタイト思フノデアリマス、主トシテ拓務大臣、之ニ關聯致シマシテ陸軍大臣、農林大臣ヨリモ御答辯ヲ煩

シタイト思フノデアリマス、又財政の見地ヨリ質問致シマスル點ニ付テハ、石渡大藏大臣ノ御答辯ヲ煩シタイノデアリマス、諸君、此ノ移出米管理法案ナルモノハ、昨年六月八日小林總督ガ帝國「ホテル」ニ於テ、事態ノ樂觀ヲ許サザルヲ看取セラレマシテ、都下ノ新聞記者ヲ集メラレテ御聲明ニ相成ツタノデアリマスガ、其ノ趣旨ヲ要約致シマスルト斯ウ云フノデアリマス、第一點ハ、島内ノ米價ヲ適正ナラシメ米作偏重ノ傾向ヲ矯メル、第二點ハ、軍事上或ハ國策經濟上、帝國領土内ニ於テ自給ヲ必要トスル國家の有用作物ノ栽培ヲ獎勵シ、農家經濟ノ安定向上ヲ期ス、第三ハ管理事業ノ剩餘金ヲ以テ積極的ニ農業生産力ノ増進ヲ圖リ、農産資源ノ開發利用ヲ促進スル、斯様ニ述べラレテ居ルノデアリマス

私ハ此ノ故ニ、先づ第一點ト致シマシテ、戰時食糧政策ノ見地ヨリ質疑ヲ致シタイト思フノデアリマス、事變以來一年有半我國ハ前古未會有ノ國難ニ直面シナガラ、國民ハ忍ブベカラザルヲ忍ビ、有ユル困苦缺乏ニ堪ヘツツアルノデアリマスケレドモ、何トナク國民ノ間ニ餘裕ガアリ、不安、焦燥

ノ氣分ノナイノハ何ガ故デアリマセウカ、言フマデモナク食糧問題、吾々ノ最モ大切ナ食糧ニ不足ヲ缺イテ居ナイト云フコトデアリマス、有ユル物資ニ對シマシテ統制ガ行ハレ、此ノ統制ノ爲ニ轉業失業、有ユル困苦ヲ國民ハ嘗メツツアリマスケレドモ、大事ナ國民生活ノ安定ニ最モ大切ナル食糧ニ對スル統制ヲ受ケテ居ナイト云フコトハ、我國ノ一大強味デナクテハナラスノデアリマス、諸君、歐洲大戰當時交戰各國ガ開戦後間モナク、其ノ食糧ニ統制ヲ加ヘタト云フコトハ、諸君御承知ノ通りデアリマスケレドモ、之ヲ想ヒ起ス時ニ今更ノ如ク食糧農産物ノ重要性ヲ痛感セザルヲ得ナイノデアリマス、二月ノ「農政」ニ農政ノ權威者安藤博士ガ引例サレテ居リマスケレドモ、歐洲大戰ノ直後英國ノ「ヘンリー・リユース」ガ其ノ著「平時及戰時ニ於ケル食糧供給」ト云フ書物ノ緒言ニ於テ、斯ク述ベラレテ居ルノデアリマス、食糧ハ古今ヲ通ジテ平時ニ於テ缺クベカラザル物資タルト共ニ、戰時ニ於ケル最モ重要ナル兵器デアル、戰時ニ於ケル最モ重要ナル兵器デアルト述ベテ居ルノデアリマス

〔議長退席、副議長著席〕

更ニ殺人器ハ原始時代ノ投石器、弓矢ヨリ近代ノ銃砲、水雷、爆彈、毒瓦斯ニ至ルマデ、人智ト科學ノ進歩ニ依リ著シク變化セルモ、戰争ヲ決定セシムルニ最モ有力ナル

モノハ飢饉、食糧ノ不足デアルコトハ普佛戰争ニ於ケル巴里市、最近ノ大戰ニ於ケル獨逸ガ適例デアルト「ヘンリー・リユース」ハ述ベテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク此ノ食糧生産物ノ大切ナルコトハ、殊ニ米穀ノ大切ナルコトハ、今更喋々ヲ要シナイノデアリマス、然ルニ聖戰第三年ニ入りマシタ所ノ今日、吾々ハ戰時食糧問題ニ付十分警戒ヲ致サネバナラスノデアリマス、即チ昭和十四年度ノ需給推算ニ於テ、當初八百萬石ノ次年度持越ガ豫想セラレテ居リマシタケレドモ、第二回豫想ニ於テ是ガ殖ニマシテ、九百七十萬石ノ次年度持越ガ豫想セラレテ居ルノデアリマス、併シナガラ決シテ之ヲ以テ安心スルコトハ出來マセヌ、ナゼカト云ヘバ米穀ノ消費量ガ年々著シク増大シテ居ルノデアリマス、即チ昭和十一年ニハ七千三百萬石デアリマシタノガ、昭和十二年ニハ七千九百萬石、昭和十三年ニハ八千萬石ニ殖ニテ居ルノデアリマス、更ニ本年度ハ八千萬石ヲ遙ニ突破スルト云フコトハ是ハ常識デアリマス、更ニ戰時食糧對策、即チ支那事變ガ或ル時期ニ解決ヲ致シマシテモ、十年、二十年ノ長期建設ト云フコトヲ考ヘル上ニ於テハ、吾々ハ今後十年、二十年先ノ食糧問題ヲ解決スルコトヲ心掛ケナケレバナリマセヌ、人口問題ノ權威デアリマス所ノ上田博士ハ、十年後ニハ内地ダケデ八千四百萬石、二十年後ニハ九千二百萬石ノ消費量

ヲ増大スルト云ツテ居ルノデアリマスケレドモ、私ヲ以テ言ハシムレバ、是ハ平時ノ計算デアツテ、事變以來ノ戰時、今後ノ長期建設ト云フコトヲ考慮セラレザル平和的ナ計算デアリマスルガ故ニ、更ニ増大スルト云フコトハ是ハ火ヲ賭ルヨリモ明カデアリマス、更ニ朝鮮モ僅カデハアリマスルケレドモ、消費量ヲ増シテ居リマス、過日ノ委員會ニ於ケル大野政務總監ノ言明ニ依リマスルト、一昨年ハ朝鮮ヨリ滿洲ニ僅カ五萬石出テ居リマスルケレドモ、昨年ハ二十九萬石、殆ド六倍ニ相成ツテ居ルノデアリマス、之ヲ抑ヘテ居ルガ、若シ之ヲ抑ヘラレナイナラバ三十萬石、四十萬石、五十萬石ヲ突破スルト云フコトハ、私ハ當然デアラウト思フノデアリマス、更ニ今日ハ東亞經濟「プロット」云フコトガ喧シク言ハレテ居リマス、即チ我が日本ダケノ食糧問題デハアリマセヌ、滿洲、支那、即チ我が經濟圈内ニアリマスル所ノ東亞一體ヲ考ヘテ、東亞ト云フ大局ニ立チテ食糧問題ノ解決ヲ圖ラナクテハナリマセヌ、諸君、滿洲ハ今年々々米モ小麥モ五六十萬石ノ不足ヲ告ゲテ居リマス、支那ハ米ニ於テ四百萬石乃至五百萬石、小麥ニ於テ二百萬石ヲ不足致シテ居ルト言ハレテ居ルノデアリマス、殊ニ支那ノ東亞新秩序ノ建設ニ當リマシテ、都會ハ破壊セラレ、農村モ疲弊困憊致シテ居リマス、此ノ農村ニ向ツテ、先ヅ米ヲ供給スルコトガ宜

撫工作上何ヨリモ彼等ノ人心ヲ捉ヘルコトデアアル、是ガ宜撫工作ノ唯一ノ策デアルトサヘモ言ハレテ居ルノデアリマス（拍手）

竊テ我國ノ狀態ヲ見マスト云フト、支那事變ハ言フマデモナク目下進行中デアリ、隨テ事變以來農村青年ノ應召、軍馬ノ徵用、是等ニ依ツテ勞働力ノ不足致シタコトハ言フマデモアリマセヌ、又十六年マデノ生産力ノ擴充ニ依リマシテ、軍需工場ニ農村カラ引張ラレル、少クトモ都會ニ止ツテ、農村ニ歸農スベキ人間ガ減ルト云フコトモ、是ハ勘定ニ入レナケレバナリマセヌ、而モ一面ニ於テハ滿洲移民ノ獎勵ヲ致サレテ居リマシテ、滿洲ニ對スル我が農民ノ進出ト云フコトガ考ヘラレテ居ルノデアリマス、殊ニ昭和十二年度ハ十一年度ニ比較致シマシテ、二萬二千五百八十六戸ノ農家ノ減少ニ相成ツテ居リマス、昭和六年以來農家ノ戸數ハ減少ノ一途ヲ辿リツツアルノデアリマス、斯ノ如ク消費量ガ著シク増大スルニ反比例シテ、國內ノ食糧生産方面ノ農村ノ勞働力ノ不足、滿洲ニ對スル進出、軍需工業方面ヨリノ勞働力ノ吸引、有ユル惡條件ガアリマス爲ニ、餘程食糧問題ノ確保ニ付テハ農林當局、臺灣當局、朝鮮當局ハ頭ヲ用ヒラレナクテハナラスト思フノデアリマス（拍手）即チ此ノ點ニ關シマシテ農林省ガ今マデノ態度ヲ改メテ、三百萬石ノ増産計畫ヲセラレ、朝鮮ニ於テ四十萬圓ノ豫算ヲ

計上シテ、二百萬石ノ増産計畫ヲセラレル
ト云フコトハ、洵ニ時宜ヲ得タモノト致シ
マシテ、私ハ其ノ態度ニ敬服セザルヲ得ナ
イノデアリマス、併シナガラ拓務大臣、臺
灣當局ニ私ガ申上ゲタイコトハ、今回提案
セラレマシタ所ノ移出米管理案ナルモノハ、
今日ノ時勢ノ變化ヲ見ザル、即チ時勢ノ變
化以前ノ案デアリマシテ、今日ノ戰時食糧
對策ト致シマシテハ、矛盾逆行ノ嫌ヒハナ
イカ、時代ニ逆行シテハ居ラヌカ、此ノ點
ヲ拓務大臣ニ御尋致シタイノデアリマス、
而モ拓務大臣ハ同ジ主管デアリマス所ノ朝
鮮ニ於テハ、増産計畫ヲ認メテ居ラレル、
サウシテ滿洲ノ移民進出ト云フコトニ力ヲ
入レテ居ラレル、然ルニ臺灣ニ於テノ米減
産ノ傾向ヲ來スベキ臺灣米移出管理案ヲ出
サレル所以ハ、何處ニアルノデアリマスカ、
此ノ點ニ對シテ世上多クノ疑ガアリマスカ
ラ、私ハ贊否何等決シテ居リマセヌデ、白
紙デアリマスケレドモ、世上疑ガアル以上
ハ、其ノ疑ヲ解カレル責任ガアラウト思フ
ノデアリマス(拍手)米作ヲ抑制スル時代ト
云フモノハ今日過ギマシタ、昭和七年ニハ
外地米ノ輸入制限ヲ實施スルカドウカ、昭
和八年ニハ米穀統制法ニ依ツテ米ヲ統制シ
ヨウ、昭和九年ニハ米穀ノ供給過剩ガ問題
トナツタ、即チ一月三十一日ノ議會開會中
ニ、農林當局ガ發表セラレタ前年度ノ實收
高ハ七千八百二十萬石ニ上ツテ、空前ノ豐

作デアリ増收デアツタ、此ノ事ガ問題ニナ
ツタ、即チ昭和七年八年九年ノ時代ト今日
トヲ混同セラレル所ニ、錯覺ガアルノデハ
ナイカ(拍手)之ヲ私ハ指摘致シマシテ反省
ヲ求メ、且ツ之ニ對スル御意見ヲ承リタイ
ノデアリマス、拓務大臣ニ對シテハ朝鮮デ
ハ増産ヲ認メ滿洲ニハ移民ヲ獎勵セラレ、
臺灣デハ減産ノ傾向ヲ有スル、此ノ矛盾ガ
豫算總會ニ於テモ問題ニナツタガ、之ニ對
シテ如何ナル御考ガアルカドウカ、世ノ疑
ヲ御解キ願ヒタイノデアリマス

之ニ關聯致シマシテ櫻内農相ニ一言御尋
致シテ、御意見ヲ承ルコトガ出來マスレバ
幸デアリマス、今日我國ノ農村部落團體ハ
眞ニ報國ノ熱誠ニ燃エ、犠牲奉公ノ念旺ン
デアリマシテ、所謂隣保相扶ケ、能ク銃後
護國ノ實ヲ舉ゲツツアルコトハ、大臣モ御
認メノコトト思フノデアリマス、併シナガ
ラ物ニハ限度ガアリマス、事變ガ長期ニ互
ルニ從ヒマシテ、今ヤ漸ク人的資源ノ不足
ヲ感ジツツアルノデアリマス、而シテ部落
實行團體ニ於キマシテハ色々ナコトヲ中央
カラ命令サレマシテ、日夜是ガ對策ニ苦心
慘澹致シテ居ルノデアリマス、今日農村方
面ニ於キマシテ部落團體ニ對スル助成金ガ
問題ニナツテ居リマスガ、此ノ助成金ニ付
テ農林大臣ハ如何ニ御考慮ナサツテ居ルノ
デアリマスカ、此ノ事ニ付テノ御所見ヲ承
リタイノデアリマス

次ニ此ノ管理案ト特用作物問題ニ付キマ
シテ、拓務大臣及ビ陸軍大臣ノ御所見ヲ承
リタイト思フノデアリマス、此ノ管理案ハ
要スルニ米作偏重デアルカラ、此ノ米作偏
重ヲ抑ヘルト云フ、即チ米ヲ作ルコトヲ抑
ヘル、其ノ代リ國家有用ノ材デアアル特殊作
物、曰ク黑麻、曰ク苧麻、曰ク苧麻、廣義
ニ申シマスナラバ甘蔗モアリマセウ、甘藷
モアリマセウ、棉花モ入りマセウ、軍事上
必要ナル特用作物ヲ作ルト申サレテ居ル、
私ヲ以テ言ハシメレバ、又世間疑フ所
デハ、此ノ特用作物ノ耕作ト云フコトハ、
此ノ管理案ヲ以テシナクテモ指導獎勵ニ
依ツテ其ノ目的ヲ達シ得ルト思フノデア
リマスガ、如何デアリマスカ、私ハ此
ノ特用作物ガ年々増産致サレテ居ルト云フ
コトノ資料ヲ、此處ニ澤山持ツテ居リマ
ス、ケレドモ是ハ委員會デ御尋致シマス、
後ニハ兵役法其ノ他大事ナ法案ガ控ヘテ居
リマスカラ、成ベク簡略ニスル爲ニ省キマ
スガ、甘蔗ノ問題ニ付テモ此處ニ資料ガア
リマス、苧麻モアリマス、苧麻モアリマス、
黃麻モアリマス、唯一點此處デ陸軍大臣ニ
質問致シマスル關係上、申上ゲネバナラヌ
ノハ、此ノ管理案ニ依ツテテナイト特用作
物ノ獎勵ガ出來スト申サレテ居リマスケレ
ドモ、此ノ苧麻ハ軍事上必要ナモノデアリ
マス、此ノ苧麻ハ昭和十一年ニハ僅ニ三百
十一町歩、臺灣流ニ申シテ三百十一甲デア

リマシタノガ、二年後ノ昭和十三年ニハ八
千町歩ニ増大シテ居ルノデアリマス、此
事ハ指導獎勵其ノ宜シキヲ得タ結果デア
リマス、即チ此ノ苧麻ニ付キマシテハ、是
ハ軍事上必要ダ、又此ノ非常時ニ必要ガカ
ラ、オ前達農民ハ愛國苧麻トシテ苧麻ノ増
殖ヲ圖レト云フヤウニ獎勵ヲナサツタ爲
ニ、僅カニ箇年ノ間ニ三百町歩ガ八千町歩
ニナツタノダ、然ルニ何ヲ好ンデ此ノ管理
案ガ必要ナノカ、是ガ臺灣ノ農村ニ於ケル
疑デアリマス、此ノ點ニ對シテ拓務當局ノ
御答辯及ビ陸軍大臣ノ御答辯ヲ煩ハシタ
イ、即チ特用作物ノ増産ハ今回ノ管理案
ニ依ラズトモ、臺灣當局ノ指導獎勵ニ依ツ
テ十分デアアル、即チ殖産局、各州ノ勸業課
其ノ他ノ能力ヲ總動員致サレマスナラバ、
立派ニヤツテ行ケル、斯ウ云フノデアリマ
ス、特用作物ハ又軍事上必要ナルコトハ認
メマスガ、其ノ指導獎勵ニ依ツテ目的ヲ達
シ得ルト思フガ、ドウデアリマスカ、管理案
ニ依ツテ米作ヲ抑制セザレバ、目的ヲ達シ
得ズト軍部當局ハ御考ニナルカドウカ、若
シモ軍事上下ウシテモ、愛國苧麻ガ必要ダ、
苧麻ガ必要ダト言フナラバ、オ前ノ所ハ是
ダケヤレト云フヤウニ、反別ヲ強制的ニ割
當テテ行ケバ、軍事上必要ナ苧麻、苧麻等
ハ充シ得ルト考ヘマスガ、如何デアリマス
カ、是ハ私ノ疑ノミナラズ、此ノ疑ガ臺灣
島民ノ間ニ充滿シテ居リマスガ、軍部當局

ハ如何ニ考ヘラレマスカ、此ノ一點ヲ御尋致シタイノデアリマス、若シ此ノ管理案ニ依ツテ米作ヲ抑ヘテマデモ、特用作物ヲヤラナケレバナラスト軍當局ガ御考ニナルナラバ、非常時ニ於ケル食糧問題ニ對シテ片手落デハナイカト云フ疑ガ、附ケ加ヘラレルノデアリマスガ、此ノ點モ重ネテ御尋致シタイノデアリマス

次ニ石渡大藏大臣ニ御尋致シマス、財政上ノ問題デアリマス、即チ臺灣移出米管理特別會計ニ於キマシテ、此ノ豫算ヲ見マスト利鞘一石ニ付キ四圓ト相成ツテ居ルノデアリマス、而シテ半箇年ノ豫算ニ賣拂諸費ガ五百六十餘萬圓、検査費ガ十萬餘圓、調査費ガ四十八萬餘圓、創業費ガ八十三萬餘圓、其ノ他合計八百萬圓ニ近イ支出ヲ豫定セラレマシテ、利益金ガ百九十餘萬圓ニ相成ツテ居リマス、此ノ中ニ損失補償ノ爲ニ積立テテ置ク、又一部ハ臺灣當局ガ常ニ口ニセラレマス所ノ農村還元デアリマス、之ヲ百九十四萬圓餘ノ利益ト見込シテ居ラレマス、即チ内地ニ於ケル米穀特別會計ニ於テモ莫大ナル損失補償ヲ致シテ居ルコトハ、天下周知ノ事實デアリマス、併シナガラ是ハ農民ノ救済ト云フ意味ニ於テ、莫大ナル負擔ヲ國庫ガ致スノデアリマスカラ、言譯ハ立ツノデアリマス、然ルニ臺灣米ノ管理案ニ於テハ、農民カラ一石ニ付キ四圓ダケ

安ク取上ゲテ、サウシテ利益ガナカツタ時

ニハドウ辯解ナサルノデアリマスカ、私ハ是ハ重大問題ダト考ヘルノデアリマス、而モ此ノ値段ハ植付前ニ發表セラルト言フ、然ラバ植付前ニ既ニ今度ノ米ハ幾ラデ買上ゲテ貰ヘルト云フコトガ、ハツキリ分ルノデアリマスカラ、米ガ出來タガ、モウ將來値上リノ望ミハナイ、暴落モ致シマセヌケレドモ、値上リ見込ガナイ爲ニ、皆一時ニ賣渡申込ガ殺到スル、賣ツテ置ク方ガ宜シイ、賣ラズニ自分デ貯藏シ、自分デ保管シ、自分デ金利ヲ持ツコトヨリモ、之ヲ賣渡シテ置ク方ガ利益デアルト云フコトハ、火ヲ賭ルヨリモ明カデアリマス、ソコデ一時ニ賣渡申込ガ殺到スル場合ニ、之ヲ拒絕サレルナレバ是ハ重大ナル社會問題デアリマスカラ、ヨモヤ拒絕ハナサルマイ、拒絕セズシテ是等ヲ一時ニ抱込ムトスルト、是ガ貯藏、是ガ金利、是ガ保管等ノ點ニ對シテ私ハ相當ナル疑ヲ持ツテ居ルノデアリマスガ、特別會計ヲ主管致シテ居ラレマスル大藏大臣ハ、此ノ私ノ財政的ノ質問ニ對シテ自信ガアラレマスカドウカ御所見ヲ承リタイノデアリマス、又拓務大臣、臺灣當局ニ於キマシテハ、此ノ米ノ貯藏設備等ニ付テ具體的ニ相當大掛リノモノヲ要スルト思ヒマスガ、之ニ對スル御用意ガアルノカドウカ、吾々ノ安心ノ行キマシヤウニ、又満足致シマスルヤウナ、親切ナル御答辯ヲ煩シタイト思フノデア

アリマス

次ニ農民ニ及ボス惡影響、經濟的壓迫ニ對シテ私ハ所見ヲ述ベテ、御意見ヲ承リタイノデアリマス、臺灣總督府當局ハ事態ヲ簡單ニ考ヘテ居ラレマス、洵ニ輕ク扱ツテ居ラレマスケレドモ、此ノ管理案ナルモノハ、臺灣ニ於テ生産費ニ少シ經濟事情ヲ斟酌シテ値デ米ヲ買上ゲテ、之ヲ内地ニ持ツテ來テ時價賣ルト言ハレル、サウスルト一石ニ對シテ其ノ利鞘ガ四圓ト致シマスト、一千万石ノ生産中約半額ノ五百万石ノ移出米ニ付テ、四五ノ二千万圓ト云フ減收ニナルノデアリマス、又一物一價ノ原則ニ依リマシテ、移出米ガ下レバ臺灣内地ニ於ケル米ノ値段ガ下ルト云フコトモ、是モ亦當然ト言ハネバナリマセヌ、假ニ私ノ所說ニ誤リナシトスレバ一千万石ニ於テ一・四ノ四、四千万圓ノ減收ヲ見ルノデアリマス、是ハ重大問題デアルト思フ、若シモ此ノ衆議院議員選舉法ノ布カレテ居リマスル内地ニ於テ、石四圓値引ヲシテ買フ爲ニ農民ニ影響ヲ及ボスト云フコトデアレバ、私ハ重大問題ダト考ヘテ居ルノデアリマス(拍手)又是ガ直チニ甘蔗ノ買收價格ニ影響ヲ及ボスノデアリマス、即チ今日マデ臺灣ニ於テハ米糖相剋ノ言葉ガアリマス、米ト甘蔗トガ相剋ヲ致ス、例ヘバ製糖會社ノ方デハ、米ガ高ケレバ隨テ甘蔗ノ値段ヲ高ク買フ、米ガ安ケレバ甘蔗ヲ安ク買フノデアリマ

ス、ソコデ農民ノ方ハ製糖會社ガ無理ヲ言ウテ安ク買フナラバ賣ラナイ、米ヲ作ルハ斯ウ云フ手ガアツタノデアリマスケレドモ、之ニ依ツテ米作ヲ抑ヘルトスレバ、製糖會社トノ關係ニ於テ非常ナル不利ヲ受ケマス、即チ私ノ言フ所ハ、米ガ下レバ、隨テソレヲ基準トシテ買上ゲラレル甘蔗ノ値ガ下ルガ、其ノ影響ハザツト常識的ニ私ガ聽イテ見マスト、一箇年ニ八百万圓乃至一千万圓ノ損害ダト云フノデアリマス、洵ニ重大ナル關係ガアルノデアリマス、半面臺灣ノ財政膨脹ノ問題デアリマス、是ハ昭和十二年度ニハ一億五千万圓、昭和十三年度ニハ一億八千万圓、本年度ハ飛躍致シマシテ二億三千万圓、是ダケノ膨脹ヲ致シテ居リマスノデ、膨脹ノ爲ニ負擔ガ過重セラレルト云フコトハ言フマデモナイ事デアリマス、即チ島民ノ經濟生活ノ安定、向上ヲ圖ルト當局ハ言ハレマスケレドモ、此ノ四千万圓ノ影響、甘蔗ノ値下リニ依ル八百万圓乃至一千万圓ノ差額、更ニ一面財政膨脹ニ依ル負擔ノ過重、是等ヲ思ヒ合セマス時ニ、私ハ洵ニ氣ノ毒ニ堪ヘナイノデアリマス、即チ農民ニ對スル經濟的ノ壓迫ヲ、私ハ深憂セザルヲ得ナイノデアリマスガ、此ノ點ニ對シテ私ガ餘リニ杞憂ニ過ギテ居ルカドウカ、親切明快ナル御答辯ヲ煩シタイノデアリマス

更ニ拓務當局及ビ臺灣當局ハ、米穀管理

ノ剩餘金ハ、之ヲ水利事業其ノ他ノ土地改良事業、耕地防風林ノ設置等、土地生産力増進ノ施設、農事試験機關、農業經營指導機關ノ擴充ニ充當スルカラ、農民ニ還元スルト言ハレル、併シナガラ農民カラ取上ゲテ置イテ、之ヲ還元スルコトガ善政デアリマスカ、既ニ臺灣統治ノ方針ニ依ツテ、新附ノ民ニ對シテハ、一般行政費ヲ以テ水利ガ必要ナラバ水利ヲ爲シ、土地ノ改良ガ必要ナラバ、土地ノ改良費ヲ惜シ氣モナク出シテコソ、眞ノ內臺一如デアリマセスカ、即チ斯ノ如キモノハ一般行政費カラ出スノガ至當ト思フガ、何ヲ苦シンデ管理案ナルモノヲ以テ、農民カラ取上ゲテ、其ノ金ヲ以テ還元スルト云フコトヲ言ハレルノデアリカ、私ハ其ノ理由ガ薄弱ダト思ヒマスガ、如何デゴザイマセウカ

更ニ私ハ管理案ガ臺灣統治ニ及ボス影響ニ付テ、質疑ヲ致シタイト思フノデアリマス、我國ノ臺灣統治ハ、歴代ノ總督ニ依ツテ開明サレテ居ル如ク、一視同仁デアアル、內臺一如デアアル、內臺無差別デアアル、臺灣ハ外地デアアルケレドモ、固ヨリ大日本帝國ノ構成體デアリマス、内地ガ頭又ハ胴體デアレバ、臺灣、朝鮮ハ手デアリ、足デアアルト云フ譬ハ識者ガ常ニ口ニ致シ、一般國民ノ常識ト相成ツテ居ルノデアリマス、内地人モ、臺灣人モ、朝鮮人モ、地域の區別ハゴザイマスケレドモ、日本帝國ノ有機的構

成分子デアリマス、隨テ共存共榮、苦樂共受ノ原則ノ適用ハ、此ノ三者ノ間ニ差別ガアツテハナリマセヌ、差別ナク適用サルベキデアリマス、大局的ニ見テ、米穀統制法ノ恩澤ニ依ツテ内地ノ農家ガ助カレバ朝鮮モ助カル、又臺灣農家モ内地農家同様助カレルト云フコトガ、當然デナクテハナラヌト思フノデアリマス(拍手)農民ノ不當利得云々ト云フコトヲ叫バレマスケレドモ、又米作偏重ト云フコトヲ言ハレマスケレドモ、内地ハ臺灣米ノ補充ニ依ツテ、朝鮮米ノ補充ニ依ツテ、今日マデノ食糧問題ヲ解決致シテ居ル、私ラシテ言ハシメレバ米作偏重ニアラズ、臺灣總督ノ米作ニ對スル偏見デハナイカト反問セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)又天惠ヲ蒙レル一部ノ領土ガ我國ニアルト致シマスレバ、其ノ天惠ヲ蒙ツテ居ルモノヲ嫉視セズ、之ヲ抑ヘズ、東北其ノ他ノ水準ニ達セザルモノノ「レベル」ヲ上ゲルト云フコトガ、善政ノ極致デナクテハナラヌト思フノデアリマス(拍手)臺灣島民ノ氣持ハ如何デアリマセウカ、無論彼等ハ言ヒマス、吾々ハ熱ト光ノ天惠ニ依ツテ、天然自然ノ條件ニ恵マレテ居ルカラ、吾々農家ハ幸福デアアル、洵ニ有難イ、薯モ能ク出來ル、甘蔗モ能ク出來ル、米モ一毛作ノミナラズ二毛作モ出來ル、非常ニ彼等ハ幸福ヲ享受シテ居リマス、故ニ彼等ノ納稅成績ヲ御覽下サイ、臺灣ハ一億八千万圓ノ豫

算カラ二億二千万圓ニ躍進シテ居リマス、隨テ財政膨脹ヲ來シテ、負擔ハ益々彌ガ上ニモ増徴スルノデアリマスケレドモ、彼等ノ納稅成績ハ、全體的ニ見マシテ納期前ニ納メラレテ居リマス、滯納處分ト云フモノハ殆ドナイト言ツテモ宜イ位デアリマス、此ノ點ニ付テハ本會議デナクトモ、委員會ニ於テモ質問シ、又御答辯ヲ得タイト思ヒマスカラ、此處デハ御答辯ハ要リマセヌガ、彼等ノ納稅成績ノ良イコトハ、私ハ範トスルニ足ルト考ヘテ居ルノデアリマス、更ニ彼等ハ光ト熱ノ幸福ヲ感ジテ居レバコソ、購買力ヲ持ツテ居ルノデアリマス、即チ彼等ニ底力ヲ與ヘテ居ルト云フコトハ、非常時日本ノ大局カラ見テ、ドレ程力強イコトデアルカ分ラヌノデアリマス(拍手)彼等ハ内地ヨリ小麥、乾魚、鹽魚、綿織物、各種紙類、木材、絹織物、肥料、清酒、燐寸、麥酒、鐵材、機械類等ヲ移入シテ消費シツツアルノデアリマシテ、昨年ノ統計ニ依リマスレバ二億七千七百餘萬圓、即チ三億萬圓ニ近イ日本内地ノ商品ヲ購買シ、消費致シテ居ルノデアリマス、即チ有機的經濟機構下ニ於テ、直接間接ニ相互ニ貢獻シ合ウテ居ルノデアリマス、臺灣ノ底力ガ減ジ、臺灣ノ民力ガ涸渇致シマスレバ、日本ノ商品、内地ノ商品ノ賣行ガ惡クナルト云フコトハ、火ヲ賭ルヨリモ明カデアリマセヌカ(拍手)

更ニ非常時ニ於ケル臺灣島民ノ熱誠ニ付テ一言致シタイトデアリマス、彼等ハ此ノ非常時ヲ認識シ、皇民化運動ノ效果モアツタデアリマセウケレドモ、臺灣ニ於ケル金獻運動ハ半箇年ナラズシテ三千五百萬圓ニ達シテ居リマス、日本ノ金獻運動、日本ノ民間ノ金動員ガ幾ラデアルカド云フコトハ承知シテ居リマスガ、是ハ申シマセヌ、秘密ニスル方ガ宜イデセウ、ケレドモ臺灣ニ於テハ三千五百萬圓ヲ突破シテ居リマス、更ニ國防獻金デゴザイマスガ、此ノ非常時ニ於テ陸海軍ニ獻金致シマシタ臺灣島民ノ熱誠ハ、六百萬圓ニ達シテ居リマス、人口五百六十萬ノ臺灣ニ於テ六百萬圓、人口二千二百萬ノ朝鮮ニ於テ七百萬圓、内地ニ於テ七千五百萬圓ヲ陸海軍ニ獻金シテ居ルノデアリマスガ、五百六十萬島民ノ臺灣ニ於テ、六百萬圓ノ陸海軍國防獻金ヲ致シテ居ルト云フコトハ、即チ底力ガアリ、民力ガ休養セラレテ居ル證據デアリマセヌカ、折角是程ノ底力ノアルモノヲ、米作偏重ノ名ニ依ツテ之ヲ抑ヘル理由何處ニアリヤ(拍手)支那事變ガ假ニ一時的ノ結ヲ結ビマシテモ、我國ノ長期建設——第一期ガ十六年マデ、次ハ第二期、第三期ト云フ風ニ、吾ハ二期三期ノ計畫ヲ持タナケレバナラヌト云フコトヲ想像致シテ居ルノデアリマス、此ノ秋ニ方ツテ長期建設ヲロニシナガラ、斯ノ如キ統治上惡影響ヲ及ボスカノ施設ヲ

ナサルト云フコトハ、私ハ不可思議千萬ト言ハナケレバナラスト思フノデアリマス(拍手)此ノ戰時ニ於キマシテ、臺灣カラ通譯、人夫ト致シマシテ、出征致シマシタ島民ハ相當居リマス、此ノ人數ハハツキリ知ツテ居リマスケレドモ申シマセヌ、併シ要スルニ臺灣島民ノ心ヲ捉ヘテ、非常時日本ニ協力セシメテ、所謂平沼首相ノ總親和ノ實ヲ舉ゲルカ舉ゲヌカト云フ洵ニ重大ナル時ニ當ツテ、斯ノ如キ摩擦相剋ヲ起スガ如キ提案ヲセラレルト云フコトハ、如何デア

常ナル衝擊ヲ與ヘタコトハ事實デアリマス、表面平靜ニ見エテ居リマスケレドモ、内政的ニ、内在的ニ潛シテ居リマス人心ノ機微ヲ思フ時ニ、私ハ洵ニ憂慮セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)

フ風デアリマス、其ノ「ヒトラー」デサヘモ、立憲政治ハ國民了解ノ政治デナクチャナラスト云フノデ、議會ヲ斯ノ如ク扱ツテ居リマスケレドモ、「ヒトラー」ト政治博覽會ト云フモノハ有名デアリマス、即チ「ヒトラー」ハ到ル處ノ都市ニ於テ、模型ヲ以テ、寫眞ヲ以テ、其ノ他統計ヲ以テ「ヒトラー・ナチス」ノ天下ニナツテカラ、産業ハ是程勃興致シタ、貿易ハ是程振興致シタ、失業者は是程無クナツタ、轉業者ハ是程出來テ居ルト云フ風ニ言ツデ、議會ニ於テハ專制ノ如ク扱ヒマスケレドモ、國民ニ對シテハ直接ニ了解ヲ得ツツ、彼ノ信頼ヲ増シ、結束ヲ固メ、而シテ新興獨逸ヲ建設シツツアルデハアリマセヌカ、臺灣ニ於テハ一人ノ代議士ヲ持チマセヌカ、若シモ臺灣ニ五十人ナリ百人ノ代議士ガアリマシタナラバ、此ノ問題ハ議會ノ大問題トナラウト私ハ思フノデアリマス(拍手)アノ專制獨裁ノ如ク思ハレテ居ル「ヒトラー」ニシテ既ニ斯ノ如シ、臺灣當局ハ速ニ反省セラレ、又吾々ノ疑、臺灣五百六十萬民ノ疑ヲ、本會議ニ於テ又ハ委員會ニ於テ、帝國議會ヲ通ジテ天下ニ闡明セラレ、以テ彼等ノ心ニ暗影ヲ留メルコトナク、東亞新秩序建設ノ萬全ヲ期セラレンコトヲ冀ツテ、質疑ヲ終ル次第デゴザイマス(拍手)

質疑中、拓務大臣ニ對スル御質問ハ、大臣ガ只今貴族院ニ出席シテ居リマスカラ、私カラ一應御答辯ヲ申上ゲテ置キマス、若シ十分ノ満足ガ得ラレナイ場合ハ、他日大臣カラ直接御答辯申上ゲル機會ガアラウト思ヒマス

ラ、私ハ之ヲ質シテ見タイノデアリマス(拍手)非常時ニ直面致シマシテ、臺灣ノ金獻ガ非常ナ底力ヲ見セ、半年ナラズシテ三千五百萬圓ヲ突破シ、全國民感激ノ標的トナツテ居リ、又臺灣ノ財政ヲ見ル時ニ、非常時局ヲ反映致シマシテ、非常ナ膨脹ヲ見セテ居リマスケレドモ、膨脹ニ依ル所ノ負擔ノ過重ヲ厭ハズ、臺灣島民ガ熱誠ヲ披瀝致シテ居リマスル今日、今回ノ管理案ナルモノハ、私ハ其ノ民心ニ及ボス影響鮮少ニアラズト考ヘザルヲ得ナイノデアリマス、延イテハ東亞新秩序建設ノ聖業ノ達成ノ爲ニ、一抹ノ不安ヲ感ゼザルヲ得ナイノデアリマス、臺灣ノ人口ハ只今申上ゲル通り五百六十萬人、是ガ農業者ハ總人口ノ五四%デ、其ノ人口ノ大半ヲ占メテ居ルノデアリマスルガ、此ノ大半ヲ占メテ居ル大多數ノ農民ニ、非

アナタ方ハ皇民化運動ナルモノヲナサツテ居リマス、皇民化運動トハ何デアリマスカ、臺灣人ノ服ヲ禁止セラレルトデアル、寺廟ノ撤廢デアリマス、其ノ他風俗習慣ヲ一日モ早ク形ノ上カラ皇民化シヨウト云フ手段デアリマス、物事ハ精神的ニ内カラ行ク場合ト、形カラ行ク場合トガゴザイマスカラ、之ヲ私ハ拒否スル者デハゴザイマセヌ、之ヲ嗤フ者デハアリマセヌ、併シナガラ根本ハ臺灣島民五百六十萬ノ心ヲ把握スルコトデナクチャナラヌ、現内閣ハ總親和ヲ主張セラレ、又外務大臣ハ東亞建設ニ對シ大愛ヲ以テ臨ムト言ハレテ居リマス、又總理大臣ハ皇道ヲ以テ臨ムト言ハレテ居リマ

ス、其ノ皇道トハ何デアリマスカ、各、其ノ處ヲ得セシメ、天下一人トシテ其ノ處ヲ得ザル者ナカラシムルト云フノガ、是ガ皇道ノ極致ナルモノデナクチャナラスト私ハ思フ(拍手)

アノ獨裁專制ノ標本ノ如ク考ヘラレテ居リマスル所ノ「ヒトラー」ハ、議會ハ之ヲ蹂躪シ、政府即議會、政府其ノモノガ議會デアルト云フノデ、議會ヲ開クト云フト、彼自ラ演説ヲシテ置イテ、既ニ閉會、散會ト云

拓務省ニ關シマシタ御質問ノ先ヅ第一ハ、此ノ制度ガ實施サレタ曉ニハ臺灣米ガ減産シハシナイカ、生産米ガ減ジハシナイカト云フ趣旨ノ御質問デアツタヤウデゴザイマ

スガ、御承知ノ通り此ノ制度ハ急激ナ増産ハ之ヲ避ケテ居ルノデゴザイマス、ケレドモ一定年次ノ生産目標ヲ立テマシテ、内地ノ農林省トモ能ク協議ヲ盡シマシテ、サウシテ逐次米ノ増産ヲ圖ルト云フノガ本案ノ趣旨デゴザイマスカラ、決シテ減産スルト云フ心配ハナイト思フノデアリマス(アナタニハ分ラヌ)「ハツキリ言ヘ」其ノ他發言スル者アリ」又是ガ爲水利施設ノ改善ヤ、開墾、干拓等ノ事業モ積極的ニ施設ヲ加ヘルコトニナルノデアリマシテ、作付面積ト云フモノハ寧ロ擴大スル、多クナル積リデアルノデアリマス、ソコデ實際ニ付キマシテハ反當リノ增收等モ出來マスノデゴザイマスカラ、減産ノ心配ハナイト申上ゲテ宜シイノデアリマス

第二ノ御質問ハ、特用作物ハ此ノ制度以外ノ方法デモ獎勵ガ出來ルデヤナイカ、蓖麻、苧麻、黃麻ト云フヤウナモノハ、此ノ

○政府委員(寺田正君) 只今岡野君ノ御

只今岡野君ノ御

制度ヲ設ケヌデモ、當然行ケルノデハナイ
カト云フ御話デゴザイマシテ、現ニ此ノ莖
麻ノ如キハ、愛國莖麻トシテ獎勵サレマシ
タ爲ニ、三百万圓ガ八千万圓ニナツタ、之
ヲ見テモ當然此ノ方法、此ノ制度ニ依ラズ
シテ、特用作物ノ獎勵ハ出來ルデヤナイカ
ト云フ御趣旨デアツタヤウデアリマスガ、

是ハ御承知ノ通り、全ク精神的ニ愛國心ノ
發揚ニ憑ヘマシテ、所謂愛國莖麻トシテ大
イニ獎勵致シマシタ結果、斯ノ如ク作付反
別モ増シテ參リマシタケレドモ、是バカリ
デハ中々サウ收穫ヲ確保スルト云フコトガ
困難デアリマスカラ、茲ニ制度ヲ設ケマシ
テ、此ノ特用作物ノ獎勵ニ付キマシテハ、
其ノ對抗作物ト見ルベキ米ノ價格ノ適正デ
アルコトヲ圖リマシテ、サウシテ此ノ特
用作物ノ獎勵ニモ當リタイト思ツテ居ル所
デアリマス、又政府ガ石四圓モ普通ノ市價
ヨリ値下デ買收スルトナレバ、非常ナ收益
ニナツテ來ルデハナイカ、ソナ儲ケヲシ
テドウスルカト云フヤウナ、御話デゴザイ
マシタガ、ソレハ少シ計算ガ違ツテ居ルノ
デアリマス、只今ノ計畫デハ石約二圓以內
ノ値下デ買上ゲルコトニナツテ居ルノデア
リマスカラ、岡野君ノ仰シヤツタヤウナ
大變ナ收益ヲ擧ゲルト云フコトハナイ
ノデアリマス、隨ヒマシテ、農家ノ經濟
ヲ壓迫スル、若クハ非常ニ低價デ以テ買上
ゲルト云フコトハ、斷ジテナイノデゴザイ

マスカラ、其ノ點ハドウカ御諒承ヲ願ヒタ
イノデアリマス

ソレカラ米ヲ買上ゲタナラバ、ソレヲ貯
藏スルニ付テノ倉庫ナドハドウスルカト云
フ御話デゴザイマシタガ、御承知ノ通りニ
玄米ヲ以テ買上ゲマスカラ、一時ニハ殺到
シテ參ラスノデアリマス、漸次此ノ買上ヲ
致スノデアリマスカラ、倉庫等モサウ非常
ナ準備ハ必要ハナイノデゴザイマスガ、ソ
レデモ産業組合其ノ他從來カラノ倉庫ガゴ
ザイマスカラ、是等ヲ利用致シマスレバ十
分デアルノミナラズ、現ニ十四年度ノ豫算
ニ於キマシテ相當ノ倉庫建築費ヲ計上シテ
アル次第デゴザイマス

次ハ農民經濟ノ壓迫トナラスカト云フ御
趣旨ノヤウデゴザイマシタガ、此ノ制度ノ
實施ハ漸進的ニ之ヲ處置致スノデアリマシ
テ、サウシテ今申上ゲマシタ石二圓弱ノ政
府ノ收益ト云フモノハ、之ヲ擧ゲテ農業生
産部門ノ改善ニ使用致シマスカラ、農業經
營ノ多角化、集約化ト云フコトヲ促進致シ
マシテ、漸々逐ウテ農業經濟ノ安定向上ヲ
齎シマシテ、窮極ニ於テハヤハリ農家ノ福
祉ヲ増進シテ、農業經濟ヲ充實スルト云フ
此ノ趣旨ガ貫徹サレルモノト思フノデゴザ
イマス

一時ノ目的ノ爲デハナグシテ、所謂永遠ノ
島民ノ福利ヲ増進スルト云フコトヲ主眼ト
シテ居ルノデゴザイマス、ソレニ臺灣ガ天
然ニ持ツテ居リマス生産ヲ擴張強化シテ、
サウシテ帝國全體ノ福祉ニ寄與シタイト云
フノガ此ノ趣旨デアリマスカラ、此ノ制度
ノ制定ノ趣旨ヲ能ク島民ガ諒解ヲ致シマシ
タナラバ、寧ロ島民ハ臺灣ニ生活シテ居ル
ト云フ、詰リ一ツノ自負ヲ増進致シマシテ、
所謂內臺一如ノ精神ニ基キマシテ、統治上
ノ心配等ハナカラウト思フノデゴザイマシ
テ、サウ云フ點等ニ付キマシテモ、特ニ注
意致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、ソ
レダケノヤウデアツタト思ヒマスガ、若シ
マダアリマスナラバ更ニ御答致シマス

（國務大臣板垣征四郎君登壇）
○國務大臣（板垣征四郎君） 只今ノ私ニ對
スル御質問ハ、軍需物資ガ却テ減產ヲスル
ノデハナイカト云フヤウナ意味ノ御質問ノ
ヤウニ承リマシタ、是ハ減產ヲシナイ、増
加ヲスルト云フコトニ付テハ、只今拓務當
局カラ答辯ノアツタ通りデアリマス、要ス
ルニ陸軍ト致シマシテハ戰時食糧問題、竝
ニ此ノ軍需物資生産擴充ノ見地カラ本案ヲ
適當ト認メ、其ノ成立ヲ希望スルモノデア
リマス

（國務大臣櫻內幸雄君登壇）
○國務大臣（櫻內幸雄君） 岡野君ノ私ニ對
スル御質問ハ、今日部落ニ於テ農事關係者
ガ非常ナル努力ヲ致シテ居ルケレドモ、既
ニ勞力ノ不足ヲ來シテ居ツテ、非常ナ困難
ヲ來シテ居ルノデアルガ、之ニ對シテ其ノ
活動ヲ増スノニハドウ云フ對策ガアルカ、
又補助ヲスルカドウデアルカ、斯ウ云フヤ
ウナ御質疑デアツタト思ヒマス、現在ノ農
村ノ狀態ニ付キマシテハ、從來屢、申上ゲタ
通り、我ガ農家ノ人々ガ非常ナル努力ヲサ
レテ居ルコトニ對シマシテハ深ク敬意ヲ表
スル所デアリマス、就中部落單位ニ於テ實
行組合其ノ他ノ人々ガ一團トナツテ働イテ
居ラレルコトハ、吾々モ洵ニ感謝致シテ居
ル所デアリマスガ、之ニ對シテ政府ガ如何
ナル助成ヲ致スカト云フコトニ付キマシテ
ハ、今日ニ於キマシテモ所謂共同施設ノ
大部分ハ、此ノ實行組合ノ力ヲ借りテ致
シテ居ルノデアリマシテ、ソレニ對スル
所ノ補助、助成ト云フモノヲ相當見テ支出
致シテ居リマス、併シナガラ現在ノ實情カ
ラ見テ其ノ程度デ目的ヲ達スルコトガ出來
ルカドウデアルカ、尙ホ一層之ニ對シテ考
慮ヲ拂ハナケレバナラヌデハナイカト云フ
コトニ付キマシテハ、私共深ク岡野君ニ同
意ヲ表スル譯デアリマス、此ノ點ニ付キマ
シテハ目下研究考慮ヲ致シテ居ルノデアリ
マスガ、只今ノ所デハ未ダ是ト云フ成案ヲ
持ツテ居リマセヌ、併シナガラ今日マデ
豫算面ニ現ハレタ所ニ於キマシテモ、可ナ
リ多數ニ上ツテ居ルノデアリマシテ、或ハ

動力ノ共同利用デアルトカ、畜力ノ共同利用デアルトカ、或ハ勞力ノ移動調整デアルトカ、共同作業デアルトカ、勤勞奉仕デアルトカ、總テ是等ニ對シテハ、多少ナリ共補助ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、其ノ補助、助成ニ付キマシテハ、相當效果ガアルト考ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ今後ニ於キマシテモ十分ニ此ノ問題ニ對シマシテハ、研究致シタイト考ヘテ居リマス

更ニ根本ノ問題ニ付キマシテ——或ハ是ハ私デハナカタクカトモ思ヒマスケレドモ、此ノ米穀政策ニ對シテ増産ノ計畫ニ付テノ御意見ガアツタト考ヘテ居リマス、此ノ件ニ付キマシテ拓務當局カラ話ガアリマシタ

如ク、今後ノ臺灣米ニ付キマシテハ、農林拓務兩省ノ關係者ニ於テ、將來一定ノ増加率ノ計畫ヲ立テマシテ、臺灣ノ米ノ收穫ガ順次増加致スヤウナ相談ヲ致シテ居リマス、朝鮮ニ付キマシテハ固ヨリ臺灣ト内地ノ如ク今回計畫サレタ一元化的ナ方策ガマダ決定致シテ居リマセズガ、緊密ナ連絡ヲ執ツテ増産計畫ヲ立テテ居ル次第デアリマス、内地ニ於ケル所ノ増産計畫ニ付キマシテハ、今極力力ヲ盡シテ居ル次第デアリマス(拍手)

〔政府委員松村光三君登壇〕

○政府委員(松村光三君) 只今ノ岡野君ノ御質疑ニ對シマシテ、大藏所管ニ關スル部分ニ付キマシテ御答申上ゲマス、本案ハ臺

灣ニ於ケル重要産業ノ調整ヲ圖リ、其ノ健全ナル發達ヲ期スル爲ニ立テラレタルモノデアリマシテ、買上價格ノ決定等ニ當リマシテハ、其ノ趣旨ニ合スルヤウニ適正ヲ期スル考ヘデアリマス、又納入組合ヲ作テシメテ、漸次ニ買上ゲタモノヲ内地ニ移出スルノデアリマスルカラ、内地ノ米穀需給調節特別會計ニ於ケル如キ、保管等ノ爲ニ特ニ損失ヲ加ヘルコトハナイト考ヘテ居リマスルガ、尙ホ此ノ案ノ施行ニ當リマシテハ、十分ナル注意ヲ以チマシテ萬遺漏ナキコトヲ期シタイト考ヘテ居リマス

○副議長(金光庸夫君) 三善信房君

(三善信房君登壇)

○三善信房君 私ハ臺灣米ノ移出管理ニ付キマシテ、極ク簡單ニ政府當局ノ所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、食糧問題ガ國民生活ノ上ニ重要ナルモノデアリマスルコトハ、今更申上ゲルマデモナイコトデアリマス、農林大臣ハ屢、或ハ豫算總會ノ席上、或ハ分科會等ニ於キマシテ、我國ノ食糧政策ニ於テハ別段支障ノナイヤウニ述ベテ居リマシマスルガ、私ハ現在ノ農林省ノ企テテ居ラルル程度ノモノデハ、果シテ時局下ニ於テ生産ノ確保ガ出來ルヤ否ヤト云フコトニ頗ル疑問ヲ持ツ者デアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ特ニ農林當局ノ御考慮ヲ願ツテ置クノデアリマスルガ、只今本法案ト關聯シマスル臺灣米ノ移出管理ハ、臺灣カ

ラ我國ニ來ル米五百万石程度ノモノヲ臺灣總督管理ヲスルト云フコトガ、其ノ問題ニナツテ居ルノデアリマス、其ノ管理ガ適當デアルカドウカト云フコトガ、私共ガ質サントスル所ノ問題デアリマス、臺灣ハ御承知ノ通りニ、氣候風土ガ農業ニ適シテ居リマスル關係上、臺灣ノ産業ハ農業ヲ中心トシテ發達致シテ參ツテ居リマス、明治三十三年ニハ僅ニ二十万石、二百万石ノ米デアツタノガ、現在デハ四十五万石、約五十万石ニ達シテ居ルノデアリマス、是レ固ヨリ其ノ土地ガ最も農産物ニ適シテ居ルノト共ニ、當局ノ指導獎勵モ其ノ適當ヲ得タ結果デアルト信ズルノデアリマス、而シテ内地、朝鮮、臺灣ハ産業上特ニ緊密ナル連繫ヲ保ツテ、適地適産、以テ國家ノ全體の見地ニ立チマシテ、國運ノ進展ニ貢獻セネバナラスト思ヒマス、今回臺灣米ノ移出管理モ此ノ趣旨ニ依リテ設ケラレタモノデアルト深ク信ズル者デアリマス、然ルニ若シ移出管理ヲ實施セラレマシタガ爲ニ、臺灣農民ノ農家經濟ヲ壓迫シテ、農民ノ生活ニ不安ヲ來スヤウナコトガアツタナラバ、絕對ニ避ケナケレバナラスト信ズルノデアリマス、支那事變以來五百万石ノ臺灣島民ハ時局ノ重大性ニ鑑ミマシテ、一致協力シテ至誠報効ノ誠ヲ盡シテ居リマス、此ノ島民ニ對シテ經濟上ノ大ナル打擊

ヲ與ヘルヤウナコトハ、絕對ニ避ケナケレバナラスト思フノデアリマス、臺灣農民ガ現在心配シテ居リマスノハ、此ノ法案ガ實施サレマシタ後ニ臺灣ノ米ガ非常ニ下リハシナイカ、或ハ臺灣ノ米ノ生産ノ制限ヲスルノデハナイカ、或ハ臺灣ノ農家ノ收入ガ非常ニ激減スルノデハナイカ、此ノ三ツガ臺灣島人ノ最も心配致シテ居ル點デアリマス、此ノ心配シテ居ル點ニ付キマシテ、此ノ議會ヲ通ジテ十分之ヲ臺灣島民ガ諒解スルヤウニ明示サレル必要ガアルト思ヒマス、斯様ニシテ政府ノ政策ニ臺灣ノ島民モ喜ンデ參加スルヤウニスルコトガ、最も政治ノ要諦ナリト信ズル者デアリマス(拍手)此ノ點ニ付キマシテ、特ニ此ノ法案ヲ實施シテモ臺灣ニ何等ノ苦痛ヲ與ヘナイ、寧ろ臺灣ノ農民ハ是ガ爲ニ幸福ニナツテ、經濟上非常ニ利益ヲスルト云フヤウナコトニ付キマシテ、十分諒解シ得ラルルヤウニ所見ヲ述ベテレンコトヲ希望致シテ置キマス、米穀ノ移出管理ノ目的ト致シマスル所ハ、米穀ノ移出管理ニ依リマシテ臺灣ノ米價ヲ適當ニ定メ、現在ノ米作偏重ノ傾向ヲ改メマシテ、軍事上又ハ國防上、此ノ國策遂行上我が國內ニ於テ自給ヲ必要トスル所ノ、或ハ甘蔗、或ハ棉、或ハ麻類ト云フヤウナモノヲ栽培シテ、所謂國家的ニ有用ナル作物ノ栽培ヲ獎勵スルト共ニ、一面管理ノ事業ニ依ツテ得ケル所ノ剩餘金ガアルト

致シマスルナラバ、之ヲ以テ積極的ニ農業生産ノ増進ヲ圖ル、農産資源ノ開發ヲ爲スト云フノガ、其ノ眼目デナケレバナラスト思ヒマス、之ヲ要シマスルニ、米作偏重ヲ改メマシテ、サウシテ他ノ作物ヲ一部栽培スルト云フコトニナリマスルガ、結局ハ之ヲ實行スル上ニ付キマシテハ價格ノ問題デアリマス、米ヲ高ク買上ゲラルルト云フコトニナリマスレバ、米ノ増産ハ從ツテ行ハレマス、米價ヲ安ク買ハルルト、隨テ米ノ産額ト云フモノハ減少致シマス、又米ヲ高ク買ハレマスルト、此處ニハ剩餘金ガナイヤウニナルカモ知レマセス、隨テ他ノ作物ノ栽培上ニ對スル所ノ有ユル施設ハ出來ナイヤウニナツテ參ルト思ヒマス、若シ非常ニ安ク米ノ買入價格ヲ決定セラレマスルト、剩餘金ガ幾ラカアリマスノデ、有ユル施設ニ對シテ經營ヲサルコトガ出來ルト思ヒマス、要スルニ政府ガ其ノ價格ヲ如何ニスルカト云フコトガ、其ノ重要デアルト思ヒマス、サウ致シマスレバ、果シテ政府ノヤル所ノ有ユル政策モ行ハレ、或ハ又其ノ米ノ増産或ハ減産等ニ付キマシテ影響致スノデアリマスカラ、之ヲ如何ニ調和シテ行カレシテ農民ニ知ラシメル、斯ウ云フヤウナ御

意思ノヤウデアリマスガ、果シテ作付前ニ米ノ價格ヲ決定セラレルトシマスルナラバ、何ニ依ツテ決定セラレルカ、恐ラク前年ノ米ノ生産費或ハ前期ノ生産費ヲ基トシテ、之ニ物價及ビ有ユル經濟事情ヲ參酌シテ決メラレルト思ヒマスケレドモ、其ノ生産費ハ其ノ米其ノモノノ生産費デナクシテ、前期ノ米ノ生産費、前年ノ米ノ生産費デアリマスカラ、茲ニ非常ナル相違ヲ來スノデアリマス、其ノ點ヲ如何ニ調和セントスルノデアリマスカ、米ノ價格ニ付キマシテ、我が内地ニ於キマシテモ、最低最高ノ價格ガ決メラレテアリマスケレドモ、今年ノ最高價格ノ如キ無理ナ決メ方ハナイト私ハ考ヘルノデアリマス、如何ニ私ガ考ヘマシテモ、或ハ物價ノ事情、或ハ經濟事情カラ考ヘマシテモ、少クトモ農村ノ米ノ最高價格ヲ前年ト同様ニ決メラレルト云フコトハ、常識カラ考ヘテドウシテモ私共ハ諒解スルコトハ出來マセス(ヒヤ／＼)唯政府ハ物價ヲ抑ヘル、上ゲナイト云フ方針ノ下ニ、米ノ値段ヲ去年ト同様ニ、最高價格ヲ決メルト致サレマスナラバ、是モ一應諒解ガ出來マス、若シ果シテサウデアルトスルナラバ、米ト其ノ他ノ農村必需品ノ價格ノ均衡ヲ取ルヤウニ、他ノ物價ノ引下ゲラシナケレバ均衡ガ取レナイト私ハ思フノデアリマス(拍手)ヒヤ／＼斯様ナ考ヲ以テ今回又臺灣ニ臨マルルト云フコトデアツタナラバ、

臺灣島民ノ受クル所ノ損害ト云フモノハ、蓋シ莫大ナルモノデアルト信ズルノデアリマス、隨テ臺灣米ノ買上價格ノ決定ニ對シマシテハ、適當ニ其ノ點ヲ考慮サレル必要ガアルト思ヒマスルガ、如何ナル考ヲ御持チニナルノデアリマスカ

尙ホ臺灣ニ於テハ全農産物ノ六割ガ米デアリマシテ、一割五分ガ甘蔗デアリマス、隨テ米ト甘蔗トガ臺灣ノ重要作物デアリマスルガ、今其ノ一ツノ米ニ對シテ統制ヲ加ヘラルルト致シマシタナラバ、他ノ甘蔗ニ對シテモ當然茲ニ一ツノ統制ヲ加ヘラルル必要ガアルト思ヒマス(拍手)之ニ對シテ如何ナル考ヲ御持チニナツテ居ルカ

尙ホ我國ノ米穀政策ヲ一貫シテヤル上ニ付キマシテ、臺灣ニ移出管理ヲナサレル所ノ朝鮮米ニ對シテハ、如何ナル考ヲ御持チニナツテ居ルカ、此ノ點ヲ併セテ御同致シマス、此ノ數項ニ涉リマシテ極ク簡單ニ申上ゲマシタケレドモ、大臣ノ答辯ハ十分私ガ理解スルヤウニ懇切丁寧ニ御願致シマス(拍手)

○國務大臣(八田嘉明君) 三善君ノ御質問ニ對シマシテ一應私ヨリ御答申上ゲタイト思ヒマス、農民ノ經濟ノ壓迫ニナラヌカト云フ點ニ付キマシテハ、只今御話モアリマシタガ、本案ハ主トシテ島内ノ米價ノ適正ヲ圖ツテ、一方ニ於テ重要産業ノ調和的發展ヲ期シテ、而シテ結局農家經濟ノ安定ヲ圖ラントスルニアリマスルノデ、一時本法ノ施行當初ニ於キマシテハ、或ル程度米ノ買上價格等ノ點カラ致シマシテ、多少ノ異動ヲソコニ生ズル譯デアリマスルケレドモ、結局本管理案ニ依リマシテ得タル所ノ收益ハ、之ヲ悉ク農業開發ニ對シマシテ還元致シマスル方針デアリマスルノデ、永遠ニ於テハ農民ノ經濟更生並ニ福利ノ増進ニ寄與スル所ガ極メテ多イコトヲ信ズル者デアリマス、殊ニ此ノ管理法案ノ趣旨ハ、只今モ御話ノアリマシタル通り、臺灣ノ天然ノ恵マレタル所ノ、此ノ熱帶的自然條件ヲ最も有效ニ利用致シマシテ、一方ニ於テハ適當ナル米產ノ發達ヲ圖リマスルト共ニ、現下並ニ將來ニ於テ必要デアリマスル所ノ重要農産物ノ發展ニ對シマシテ適當ナル考慮ヲ拂ヒツツ、此ノ目的ヲ達シタイト云フ關係デアリマスルノデ、農民經濟ノ壓迫トナルヤウナコトハ決シテナイト考ヘマスノミナラズ、結局其ノ反別ニ於キマシテハ、甚シイ増加ガアリマセヌデモ、多角經營及ビ集約經營ニ依リマシテ、寧ロ農家ノ經濟ハ十分ニ採算ガ取レルコトハ疑ナク存ジテ居ル次第デアリマス、隨ヒマシテ只今特ニ強ク御尋ノアリマシタル所ノ臺灣ノ統治上、殊ニ現在此ノ時局ニ際シマシテ、臺灣島民ノ時局ヲ認識シテ、此ノ國家ノ全局ニ寄與

尙ホ今回米ノ買入價格ニ對シマシテ、政府ハ作付前ニ買入ノ價格ヲ決定スル、サウシテ農民ニ知ラシメル、斯ウ云フヤウナ御

臺灣米穀移出管理特別會計法案 第二讀會

シテ居ル所ノ此ノ實際ノ狀態ニ顧ミマシテ、此ノ法案ノ結果ガ苟モ之ニ違反スル所ノ結果ヲ生ズルコトハ、洵ニ考ヘナケレバナラスト云フ點ニ付キマシテハ、臺灣總督府ニ於キマシテハ勿論、拓務省ニ於キマシテモ特ニ此ノ點ニ注意ヲ致シマシテ、萬違算ナキヲ期シテ居ル次第デアリマス、殊ニ本管理案ノ趣旨ガ徹底シテ、島民ニ理解セラレルニ至リマシタ曉ニ於キマシテハ、十分ニ此ノ點ガ明瞭ニナリマシテ、何等統治上ニ危惧ノ起ルコトハナイト堅ク信ジテ居ル次第デアリマシテ、今後トモ管理案ノ決定シマシタル曉ニ於キマシテハ、臺灣總督府ト共ニ、政府ニ於キマシテモ十分ナル理解、周知ノ方法ニ付テ遺憾ナキヲ期シタイト存ジテ居リマス。

又買入價格ニ付キマシテハ、只今御話モアリマシタ通り、是ハ中々御説ノ通り難カシイ問題デアルト存ジマスルガ、ヤハリ米穀ノ生産費、物價其ノ他ノ農村經濟事情ヲ參酌致シマシテ、大體ニ於テ前年同期ノ生産費ヲ基準ト致シテ居リマスルコトハ、洵ニ已ムヲ得ナイコトデアルト考ヘルノデアリマス、殊ニ此ノ臺灣米ノ管理ニ付キマシテハ、其ノ目的ガ他ノ重要農作物トノ關係ヲ最も適正ニ致ス關係上、其ノ他ノ重要農作物ノ價格ノ關係ヲモ考慮致シマシテ、買上價格ヲ適正ニ決定致シテ、急激ナル變化ヲ避ケルヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、只今

大體買入價格ニ付テハ左様ナ風ニ考ヘテ居リマス

尙ホ朝鮮ニ付テ御指摘ガアリマシタガ、臺灣ニ於キマシテハ、申スマデモナク臺灣ノ所謂天然ノ此ノ條件ニ適シマスルヤウニ、本管理案ヲ制定致シマシタルヤウナ關係デアリマシテ、臺灣ニ於テハ所謂多角的ニ重要農産物ト此ノ米作トヲ調節シテ參ルコトガ出來マスルケレドモ、朝鮮ニ於テハ申スマデモナク氣候等ノ關係ヨリ臺灣其ノ儘ノ同様ナル考ヲ以テハ朝鮮ニ於テハ行ハレナイカトモ考ヘマスノデ、此ノ點ニ付キマシテハ只今御話ノ點ニ付キマシテ十分今後ニ於テ考ヘ、内地ノ米穀政策トモ呼應致シマシテ、最善ノ將來ノ策ヲ考ヘタイト存ジテ居リマス

最後ニ米穀管理制度ト同時ニ此ノ甘蔗等ノ作付或ハ延イテハ糖業ノ方面ニ對シテ對策ヲ考ヘル必要ガアルノデハナイカト云フ點ニ付キマシテハ、政府當局ニ於キマシテモ十分此ノ點ニ付テハ考慮致シテ居リマス、特ニ律令ヲ設ケマシテ、甘蔗ノ作付ノ面積竝ニ甘蔗ノ買上價格ノ許可制度ヲ實施致シタイ考ヲ持ツテ居ルヤウナ次第デアリマス、一應私ヨリ御答申上ゲマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 前川正一君

(前川正一君登壇)

○前川正一君 只今ノ案ニ付キマシテ極ク簡單ニ理由ヲ申述べマシテ政府ノ御所見ヲ

承リタイト思フノデゴザイマス、只今政府カラノ御答辯ガゴザイマシタケレドモ、今回ノ臺灣米ノ移出管理法ニ依リマシテ、臺灣ノ米ノ相場ハ餘リ下ラナイ、隨テ減産トハナラナイト思フ、斯ウ云フヤウナ御答辯ガアツタノデゴザイマスルガ、是ハ論理的ニ見マシテモ、現實ノ農村ト云フ事情カラ見マシテモ、私達ハドウモ肯定シニグイノデゴザイマス、先ヅ此ノ點ニ付キマシテモツト明確ナ御説明ヲ得タイト思ヒマシテ、第一段ノ質疑ヲ致シタイト思フノデアリマス

平時ニ於キマシテモ其ノ國ノ領土ノ中デ、其ノ國ノ領土内ノ人口ガ其ノ領土内ノ食糧デ充サレルコトハ極メテ理想的ナコトデゴザイマスルガ、特ニ戰時ニ於キマシテハ、其ノ必要ガ尙ホ一層痛感サレルノデゴザイマス、先程岡野君モ言ハレマシタヤウニ、食糧ガ戰時ニ於テドレ程重要デアルカト云フ色々ノ引例モゴザイマシタ、實ニ其ノ通りデゴザイマス、既ニ御承知デゴザイマセウガ、戰時ニ於ケル所ノ米ノ消費量ト云フモノハ、實ニ驚クベキ増加ヲ致スモノデアリマス、日露戰爭當時ニ於キマシテハ、年々六百万石ノ米ノ消費増加ヲ致シマシタ、歐洲大戰當時ニハ五百五十万石ノ消費ノ増加ヲ致シテ居リマス、而モソレガ戰後ニ於テモ此ノ増加シタ數字ガ減退ヲシナイノデアリマス、吾々ハ斯ウシタ經驗ヲ持ツテ居ル、今回ノ事變ニ於キマシテモ戰線

ノ將士諸君ノ爲ニ、或ハ軍需工場ノ殷盛ト、都市ヘノ労働人口集中等ノ關係カラ致シマシテ、米ヲ主要食物ト致シテ居リマスル現在ノ私達ニ於テハ相當多クノ消費量ガ激増スルモノト見ナケレバナラスト思フノデゴザイマス(拍手) 然ルニ今年ノ米ノ需給推算ノ數字ヲ見マスルト、成程辻褄ハハツキリ合ウテ居リマス、ダガ先日ノ第二回ノ増收發表ガゴザイマシタケレドモ、米ノ相場ハ決シテ動カウトシテ居リマセヌ、出廻リ期ノ今日ニ於テハ、普通アラバ多少米價ハ下向クノデアリマスルケレドモ、依然トシテ最高價格ニ釘付ケラレテアル儘デアリマス、或ル一二ノ銘柄ノ如キハ最高價格ヲ突破シテ居ルモノサヘアルヤウナ狀態デゴザイマス(拍手) 日本ニ於ケル物資ノ中デ唯一ツノ強味ハ此ノ米デゴザイマス、國民ノ主要食物デアル所ノ米ノ問題ハ特ニ戰時ニ於キマシテハ絶對的ノモノデナケレバナラスト思フ、而モ是ハ物價問題ト極メテ「デリケート」ナ關係ヲ持ツテ居ルノデアリマス、米ノ相場ヲ「コントロール」致シマス爲ニ、政府ニ於キマシテハ、特ニ戰時ニ於テ手持米ヲ最も潤澤ニシナケレバナラストデハナイカト考ヘルノデアリマス(拍手) 又持越米ノ如キニ致シマシテモ、政府ノ發表シテ居リマスル所ノ數字ト、商人側ガ巷間デ傳ヘル所ノ數字トガハツキリ合ハナイ、果シテ今年ノ米ガ政府ニ於テ十分デアルト思ハレルノデア

リマセウカ、政府ハ萬一ノ不作ノ場合等ニ
備ヘマスル爲ニ、又ハ市場ノ人氣ヲ調整ス
ルト云ツタヤウナ立場カラシマシテ、特ニ
此ノ際ハ手持米ヲ潤澤ニシテ戴キタイト考
ヘルノデアリマス(拍手)然ルニ果シテ政府
ハ今年ノ此ノ米穀年度ニ於キマシテ、米ニ
於テハ斷ジテ不安ナシト、斯ウ云フ斷言ヲ
確信ヲ以テ致スコトガ出來ルカドウカト云
フコトヲ私達ハ疑フノデアリマス(拍手)斯
ウ申シマスルト云フト政府ハ言ハレルデセ
ウ、内地ニ於テハ三百萬石ノ増産ノ計畫ヲ
持ツテ居ルノダ、朝鮮ニ於テモ二百萬石ノ
増産計畫ヲ持ツテ居ルノダ、所ガ此ノ増産
計畫ガ私達ニハモット眞劍ニ考ヘテ見ナケ
レバナラスト思フコトガアルノデアリマス、
昨年ノ不作ノアリマシタ當時ニ、百姓ノ一
戸一戸ニ就テ調べ見タ時ニ、應召軍人ヲ
出シテ居ル、家族ノ手間ノ不足シタ家ニ於
テ特ニ不作ノ多カツタト云フ事實ヲ私ハ知
ツテ知ル(拍手)其ノ上ニ牛馬ハ戦線ニ徴發
サレテ居リマス、勞力ハ戦場ニ動員サレ又
ハ工場ニ吸收サレテ居ル、肥料ハ高イ、農
具ハ高イ、農業獎勵モ高クテ而モ不足デア
ル、斯ウ云フヤウナ惡イ條件ノ下ニ於キマ
シテ、内地三百萬石、朝鮮二百萬石ノ増産
ヲヤルト云フノデゴザイマスアレドモ、此
ノ増産計畫タルヤ多少ノ危險性ヲ持ツテ居
ル所ノ増産計畫デハナイカト云フコトヲ考
ヘルノデアリマス(拍手)勿論政府ニ於キマ

シテ音頭ヲ取ルナラバ、農民ハ、今日ノ時
局ヲ認識スル所ノ農民ハ、張り切ツテ増産
ニ從事ハスルデゴザイマセウガ、併シナガ
ラ農業ハ他ノ産業部門トハ違ツテ居ルノデ
アリマス、相當長イ期間ニ亙ラナケレバ、
初メ時イタ所ノ種ガ結實シナイヤウニ、其
ノ計畫ハ實現致シマセヌ、又農業機關ハ今
日ノ狀態デハテン／＼バラ／＼デゴザイマ
シテ、統一ガゴザイマセヌ、其ノ指導ニ於
キマシテモ相當困難ナルモノガアルノデハ
ナイカト云フコトヲ考ヘル、是ハ極メテ具
體のナ一例デゴザイマスルガ、本當ニ増産
ヲ政府ガ眞劍ニ御考ニナリマスルナラバ、
寧ロ現在ノ農林省ガ推薦シテ居リマス所ノ、
アノ獎勵品種、風ニモ弱ケレバ、蟲ニモ弱
イ、而モ肥料ヲ澤山食フヤウナ所ノ、唯味
ダケノ旨イト云ツタヤウナ獎勵品種ヨリモ、
其ノ地方ノ土壤、氣象、風土ニ適スル在來
種ノ品種ニ取換ヘテ、サウシテ抵抗力ノ強
イ品種ヲ以テ増收ヲ圖ルト云フコトガ、極
メテ簡單容易ナ増收方法デアリマス、而モ此ノ
上ニ肥料デアルトカ、農具デアルトカ云ツタ
ヤウナモノノ配給ハ、軍需品ノ其ノ次ニ來ル
所ノ重要ナモノトシテ、私達ハ農村ニ配給シ
テ貰ハナイト云フト、折角ノ此ノ増産計畫
モ效果ガナイノデハナイカト云フコトヲ考
ヘル、然ルニ現在政府ノ是等ニ對シマスル、
特ニ米ニ對シマスル方針ヲ色々考ヘテ見マ
スト云フト、先ヅ臺灣ニ於キマシテハ、只

今ノ案ハ机上デハ極メテ立派ナ案デゴザ
イマス、併シナガラ農民ノ心理カラ見マシ
テ、經濟的根據カラ見マシテ、今回ノ臺灣
米移出管理ト云フモノハ、私ハ決シテ是ハ
増産ヲ狙フモノデナイ、必ズヤ減産ヲスル
モノデアラウト云フコトヲ言ヒ得ルト思フ
ノデゴザイマス(拍手)一方ニ於テ戰時下ノ
食糧政策ノ重要性ヲ顧ミズニ、而モ米ガ年
ニ二回出來ル立派ナ土地ノ臺灣ニ於テ、米
ガ減産ニナルデアラウト云フヤウナ案ガ、
臺灣ニ於テ行ハレヤウトシテ居ル、内地ニ
於テハ増産三百萬石ハ先程申シタヤウナ理
由デ、極メテ危險性ガアルト思フノデゴザ
イマス(拍手)而モ現在唯配給ダケノ問題ヲ
内容トスル所ノ米穀會社法案ノ如キモノサ
ヘモ、今尙ホ宙ニブラツイテ居ルヤウナ狀
態デゴザイマス、支那ノ占據地域ニ於キマ
シテモ増産ノ指導ヲ講ゼラレテ居ルヤウデ
ゴザイマスルガ、是ハ中々急イデ間ニ合ハ
ナイト思フ、滿洲ニ於キマシテハ嚴重ナ統
制ニ依リマシテ、生産ノ統制マデガ行ハレ
テ居リマス、然ルニ朝鮮ニ於キマシテハ、
米ニ對スル所ノ大シタ統制のナモノハ、何
等見ルコトガ出來ナイノデゴザイマスハ實
ニ日本ト滿洲ト支那、此ノ東亞一體ヲ連ネ
テ考ヘテ見マスル時ニ、米穀政策ト云フモ
ノガ、各地々々デテン／＼バラ／＼デゴザ
イマシテ、何等一ツノ統一ガナイノデゴザ
イマス(拍手)日本ノ今日ノ經濟的領域ハ極メ

テ廣クナツテ參リマシタ、今マデノヤウナ
内地ダケノ方針デハ、一ツノ農林行政モ、
一ツノ米穀政策サヘモ、間ニ合ハナイ時代
トナツテ來タト思フノデゴザイマス、ドウ
カ此ノ際日滿支ヲ打ツテ一丸トシタ所ノ、
大キイ立場カラノ食糧政策ノ確立、特ニ日
本ト滿洲ト臺灣ト朝鮮トヲ通ジテノ増産計
畫ヲ含メタ所ノ、戰時米穀政策ノ搖ギナキ
確立ヲ緊急問題トシテ解決シテ戴キタイト
思フノデゴザイマス(拍手)斯ル理由ノ下ニ内
地、臺灣、朝鮮ヲ含メタ所ノ計畫のナ増産
方針ガ農林當局ニ於テオアリニナルカドウ
カ、此ノ點ヲ篤ト伺ヒタイト思フノデゴザ
イマス、尙ホ朝鮮カラ年々内地ニ八百萬石
ノ移出米ガ參リマスガ、是ハ先程モ拓務大
臣ノ御答辯ニ於キマシテ、朝鮮ニハ代作物
ガナイ、臺灣トハ條件ガ違フガ故ニ管理ヲ
ヤラナイト云フヤウナ御答辯ガゴザイマシ
タ、一應肯カレル點デハアリマス、併シナ
ガラ世間デハ朝鮮ニハ東拓ガアル、不在地
主ノ大キイノガ相當多イ、之ニ手ヲ著ケル
ノハ何ダカト云フヤウナ噂モ聞クノデゴザ
イマスガ、必ズシモ移出米管理ハ減産ヲ條
件トシナクテモ宜イノデアリマス、増産ト
云フコトヲ含メタ所ノ朝鮮米ノ移出管理若
クハ生産計畫ト云フモノガ、此ノ際ハツキ
リ立テラレルコトガ必要デハナイカト思フ
ノデゴザイマス(拍手)更ニ農林大臣ニ此ノ
點ヲ御尋ネスルノデゴザイマスガ、日本ト

滿洲ト支那ヲ通ズル所ノ、而モ統一アル綜合的ナ食糧政策ノ確立、出來マスナラバ今マデノ内外各地ノ個々別々ナ、部分的ナ統制ヲ一段ト強化統一致シマシテ、生産ヲ確保シ、米價ヲ安定シ、配給ヲ調整シ、中間利潤ヲ抑制シ、而モ内外地ノ米ノ對立ヲ緩和スルト云ツタウナコトヲ内容トスル、内外地一體ノ米ノ專賣實施ヲアルコトガ、此ノ際必要デナイカト思フノデアリマス(拍手)先日農林大臣ハ、生産カラ消費ヲ通ジテ一貫セル統制ガ必要アルコトヲ説カレマシテ、國民ハ相當期待ヲ致シテ居ルノデゴザイマス、出來マスナラバ此ノ際農林大臣カラ戰時下ニ於ケル所ノ食糧政策ノ方針ト、米穀專賣制度ニ關スル所ノ率直ナル御所見ガ承リタイト思フノデゴザイマス(拍手)

第二點デゴザイマス、今回ノ臺灣米移出管理ノ理由ハ、先程カラ縷々申サレテ居リマスカラ申上ゲマセヌガ、米價ノ適正ト、米作偏重ト、軍事上、國策上必要ナル所ノ特用作物ヲ増産スル爲ニヤルノダ、此ノ理由ハ極メテ明快デゴザイマス、適地適作ノ立場カラ、熱ト光ノ島臺灣ニ於キマシテ、其ノ氣候ト風土ニ適スル所ノ國策的ナ特用作物ヲヤルト云フコト、而モ海外ヨリノ輸入ニ俟ツテ居ツタ物ヲ大イニ栽培致シマシテ、國際收支ノ調整ニ役立テヨウトスルコトハ、今ノ場合極メテ必要デアリマシテ、銳意

是ガ促進ニ努力シナケレバナラヌコトハ當然デアリマス、事變以來現在マデノ臺灣ノ事情ヲ見マストキニ、先程カラ申サレマスヤウニ、臺灣島民ノ時局ニ對スル熱誠ナル愛國心ニ依リマシテ、此ノ政府ノ、若クハ臺灣當局ノ企圖サレマシタ所ノ特用作物ノ増産ト云フモノハ、相當素晴シイ勢デ以テ成功シテ來タト思フノデゴザイマス、臺灣島民ノ愛國心ニ懇ヘマシテ、之ヲ割當制ニ依ツテヤツテ貰フ、割當制デ此ノ増産ヲ計畫スル、斯ウ云フ方法ニ依リマシテデモ、現在ノ時局ガ必要トスル程度ノ特用作物ノ増産ガ吃度出來得ルト私共ハ考ヘルノデゴザイマス(拍手)現在臺灣島民ノ惧レテ居リマスコトハ、米價適正ト云フ名ノ下ニ於テ、米價ノ引下ガヤラレルノデハナйка、米作偏重ノ名ノ下ニ於テ、水田ガ甘蔗ノ畑ニ轉換サレルノデハナйка、而モ其ノ甘蔗ガ米價安ニ依ツテ同時ニ引下ゲラレルノデハナйкаト云フ點ナノデアリマス(拍手)管理米一石ニ對シテ二圓ノ利鞘ヲ取ラレルト云フ御話デゴザイマス、五百万石ノ移出米ニ對シテハ一千万圓トナリ、島内消費ノアトノ四百万石ニ對シテモ同ジク約一千万圓、ソコデ一千數百萬圓ノ收入減ガ農村ニ起ツテ參リマス、其ノ大部分ガ農民ニ轉嫁サレルコトハ、是ハ自明ノ理デアリマス、米ガ下リマス同時ニ他ノ作物モ下ル、勞働賃銀モ下ル、特ニ島民ノ心配スルコトハ、

米價ニ引摺ラレマシテ甘蔗ノ下ツテ來ルコトデアリマス、臺灣島民ハ此ノ米ト甘蔗デ生活ヲ維持シテ居ルノデアリマス、其ノ臺灣ニ於ケル二大農産物ガ共ニ手ヲ引キ合ツテ低下致シマシタ時ノ、臺灣ノ農民諸君ノ生活問題ヲ考ヘテ戴キタイ(拍手)之ニ對シマシテ總督府ハ製糖會社ヲ或點マデ取締ルノダ、今マデノ總督府令ヲ改正シテ、今度ハ委任立法デアアル所ノ律令ヲ以テ之ニ代ラスノダ、サウシテ甘蔗ノ作付面積モ認可ニスレバ、甘蔗ノ買上價格ノ最低値段モ決メルノダカラ心配ハ要ラナイト申サレマスガ、既ニ南洋ニ於ケル南洋興發ノ甘蔗ノ買收價格ノ一方の契約ヲ臺灣島民ハヨク知ツテ居ルノデアリマス、是等ノ過去ノ經驗カラ、臺灣島民ハ、此ノ律令ト云フモノニ對シテ餘リ期待ヲ持ツテ居リマセヌ、多クノ臺灣農民ハ依然トシテ不安ニ怯エテ居ルノデアリマス、既ニ此ノ農家ガ收入ヲ減少スルデアラウト云フコトヲ立證シテ、臺灣ニ於ケル勸業銀行ノ各支店ガ、畑デハアリマセヌ、甘蔗ト米ノ作ラレル水田デアリマス、其ノ價格ガ五%乃至六%モ低下シテ居ルコトヲ證明シテ居マス、是ハ簡單ナ一ツノ事實デゴザイマスガ、以テ立證スルニ足ルト思フノデアリマス、此ノ際拓務當局ガ臺灣島民ノコトヲ眞ニ考ヘテ戴キマスナラバ、今臺灣島民ガ製糖會社ヲ或ル程度ニ於テ抑制スルデアラウト思ハレル此ノ律令ガ、ド

ウ云フ内容ヲ持ツテ居ルノデアルカ、之ヲ此ノ際發表シテ戴キマシテ、臺灣島民ノ不安ト疑問トヲ解消シテ貰ヒタイト思フ者デゴザイマス(拍手)更ニ臺灣ニ於キマシテハ、今日既ニ阿片ト煙草ト樟腦ト鹽トノ外ニ酒マデガ專賣ニナツテ居ルノデアリマス、而モ相當ニ成績ヲ舉ゲテ居ルノデアリマス、此ノ際臺灣ノ地域の獨占事業デアリ、而モ米ト年中喧嘩シテ居ル砂糖ニ對シテ、米ヲ移出管理スルナラバ、臺灣ニ於ケル獨占事業デアアル製糖事業ヲ國營若クハ專賣ニスルト云フコトガ(拍手)臺灣統治ノ上カラ見マシテモ、國家經濟ノ上カラ見マシテモ、其ノ他色々ナル意味ニ於キマシテ極メテ有利ナコトダト考ヘルノデゴザイマス、此ノ二點ニ對シテ特ニ拓務大臣カラ明快ナル御答ヲ戴キタイト思フノデアリマス(拍手)

第三點ハ、臺灣總督府ノ文書ヲ見マスト、最近ノ臺灣ニ於ケル小作人ハ農耕地ニ安定ガ出來ナイ、生活ヲ脅威サレルコトガ夥シイ、地主モ小作人モ共ニ悩マサレテ居ル、小作爭議ハ協調團體ニ依ツテ解決ニ當ツテ居ル云々ト申シテ居リマス、又現ニ昨年三月末ノ調査ニ依リマスト、臺灣島内デ二千六百餘件ノ小作爭議ガ此時局下ニ於テ起ツテ居ルト云フコトハ、洵ニ遺憾千萬デゴザイマス、斯様ナ地主小作人ノ對立ノ下ニ於キマシテハ、恐ラク農民ハ土地ノ上ニ安定ガ出來ナイデセウ、隨テ生産力ガ相當弱メラレテ居ル

コトハ間違ヒゴザイマセヌ、併シナガラ殘念デハゴザイマスガ、斯様ナ小作爭議ト云フ事實ガ現存シマス以上ハ、何トカシテ此ノ解決方法ヲ考ヘナケレバナラスト思フノデアリマス、サウシテ臺灣ニ於ケル所ノ生産力ヲモット仲バスコトガ、今日ノ急務デアルト思フノデアリマス(拍手)此ノ爲ニ既ニ朝鮮ニ於キマシテハ、内地同様小作調停會ガゴザイマス、農地調整法ニ匹敵スル所ノ農地令ガゴザイマス、臺灣ニ於キマシテモ内地朝鮮同様、小作調停法若クハ農地調整法ト云フヤウナモノヲ、臺灣ノ實情ニ即シテ内容ニ於テ之ヲ實施致シマスコトハ、臺灣ニ於ケル所ノ生産力ノ擴充ト云フ見地カラ見マシテモ、臺灣ニ於ケル所ノ皇民化運動ノ上カラ見マシテモ、臺灣統治ノ上カラ見マシテモ、一「エボック」ヲ劃スルモノデアリマシテ、農民ヲシテ勇躍國策ニ殉ジ、今日ヨリモヨリ一層協力邁進セシムル所ノ、好キ結果ヲ生ムモノデハナカラウカト云フコトヲ考ヘラレルノデゴザイマス、此ノ點ニ對シマシテ特ニ拓務大臣ノ臺灣島民ヲ思フ所ノ心カラナル御答辯ヲ戴キタイト思ヒマス、以上三ツノ要點ヲ申述べマシテ、内容ハ簡單デゴザイマスルガ、ソレニ對スル政府當局ノ答辯ハ、成ベク詳細ニ伺ヒタイト思ヒマス、是デ私ノ質問ヲ終リマス、

〔國務大臣櫻內幸雄君登壇〕

○國務大臣(櫻內幸雄君) 只今ノ御質問ニ對シマシテ答辯申上ゲマス、第一點ハ現在ノ勞力ノ不足其ノ他ノ關係上、米穀ノ生産ガ減少スル憂ガアルガ、此ノ際ニ於ケル現在農林當局ノ施設デハ、其ノ生産ガ果シテ確保出來ルカドウデアルカ、又此ノ際ニ於ケル増産計畫トシテ多收穫ノ米種ヲ獎勵スルヲ考フ持ツテ居ルカ否カト云フコトノ御尋デアツクヤウニ思ヒマス

勞力ノ不足其ノ他ノ關係上、生産ガ容易ニ確保出來ナイト云フ事柄ニ付キマシテハ、憂ヲ同ジク致シテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ今回ノ豫算ニ於キマシテモ、幾多ノ施設ニ付テ御協賛ヲ仰イデ居ルノミナラズ、農家ノ總力ノ發揮ヲ願ツテ、其ノ力ニ依ツテ之ヲ補ツテ行キタイ、斯様ニ考ヘマシテ今日幾多ノ方法ニ付キマシテ、力ヲ盡シテ居ルヤウナ次第デアリマス、多收穫ノ問題ニ付キマシテハ、氣候風土ノ關係モアリ、色々事情モアリマスソデ、ソレ等ヲ調査致シマシテ、其ノ地方々々ニ依ツテ多收穫ノ獎勵ヲ致シタイト考ヘテ、目下試驗場其ノ他ニ於テ調査ヲ致サセテ居リマス

第二ノ點ハ日滿支ヲ一貫シタル所ノ生産計畫ヲ確立シテ、以テ食糧問題ヲ解決スルノ考ハドウデアルカト云フ御質問デアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテハ、既ニ企畫院ヲ中心ト致シマシテ相當ナル調査ヲ進メテ居リマス、隨ヒマシテ一日モ速ニ其ノ方策ヲ確立致シタイト今日心配致シテ居ル次第デアリマス、臺灣、朝鮮其ノ他内地外通ジマシテハ、既ニ米穀自給計畫ヲ確立致シマシテ、年々ノ需要ニ對スルダケノ今日相當ノ準備ヲ致シテ居ルノデアリマス、尙ホ專賣制度ヲ施行スルノ考ハナイカト云フ御話デアリマスガ、專賣制度ノ問題ハ多年當議會ニ於テモ問題ニナツテ居ル所デアリマスケレドモ、現在政府ト致シマシテハ米穀統制法ヲ十分ニ活用致シマシテ、今日ノ時代ノ要求ニ即應致シタイト考ヘテ居ルノデアリマシテ、只今專賣制度ヲ施行スルト云フヤウナコトハ考ヘテ居リマセヌ、右答辯申上ゲマス

〔國務大臣八田嘉明君登壇〕

○國務大臣(八田嘉明君) 臺灣ニ砂糖ノ專賣ヲヤル意思ハナイカ、斯ウ云フ御話デアリマスガ、砂糖ノ生産ハ申スマデモナク臺灣ニ於ケル所ノ最重要ナル産業デアリマシテ、是ガ消長ハ一ニ本島産業經濟ニ及ボス所洵ニ重大デアリマスソデ、政府ト致シマシテハ甘蔗栽培、製糖事業ニ對シマシテ、其ノ趨勢ニ十分留意致シテ居リマスコトハ御承知ノ通りデアリマス、而シテ是ガ專賣ニ付テドウデアルカト云フコトニ付キマシテハ、今直チニ之ヲ實行シ得ザルモノト考ヘマス、併ナガラ原料供給者デアリマスル所ノ農民ノ立場カラ、又一方ニ於テハ消費

者デアル所ノ大衆ノ立場カラ、十分ナル統制ヲ與フル要ガアルト存ジマス、政府ニ於キマシテモ先程申上ゲマシタ通り、今回ノ米穀管理制度ト關聯致シマシテ、適當ナル調整ノ方法ヲ講ジテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマス、尙ホ糖業令ノ内容ニ付テ、モット説明セヨト云フ御話デアリマシタガ、是ハ只今ノ所先程申上ゲマシタガ、作付豫想面積及ビ買上價格ノ認可制度ヲ考慮致シテ居ルモノガ、其ノ中心ヲ成シテ居リマス、適當ノ機會ニ更ニ詳細ニ付キマシテハ御答ヲ申上ゲタイト存ジテ居リマス、最後ニ臺灣ニ小作調停法或ハ農地調停法ノ如キヲ、實施スル意思ガナイカト云フコトニ付キマシテハ、現在御承知ノ通り業佃會ナルモノガ組織セラレテ居リマシテ、地主ト小作トノ間ノ協調ニ是ガ相當實シテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマス、將來ハ此ノ業佃會ヲ法制化致シマスルコト、或ハ又小作調停法ノ施行、小作法ノ制定等ニ付キマシテ、十分ノ考慮ヲ致シタイト存ジテ居リマス

○副議長(金光庸夫君) 是ニテ質疑ハ終了致シマシタ、本案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、朝鮮事業公債法中改正法律案委員ニ併セ付託シ、尙ホ委員ノ數ヲ二十七名ト爲シ、追加ノ委員ハ議長ニ於テ指名セラレシコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第五、短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——文部大臣荒木貞夫君

第五 短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案

短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中左ノ通改正ス

〔短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法〕
「現役小學校教員俸給費國庫負擔法」ニ改ム

第一條 師範學校ヲ卒業シタル市町村立小學校正教員ニシテ陸軍又ハ海軍ノ現役ニ服スル者ノ俸給ノ爲市町村ニ於テ要スル費用ハ國庫之ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依リ俸給費ヲ國庫ニ於テ負擔スル者ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ昭和十四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣男爵荒木貞夫君登壇〕

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 只今上程ニ相成リマシタ短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案ニ付キ御説明申上ゲ

庫負擔法中改正法律案ニ付キ御説明申上ゲマス、今般政府ハ本會議ニ兵役法中改正法律案ヲ提出致シテ居ル次第デアリマスガ、右兵役法ノ改正ニ伴ヒ短期現役兵ノ制度ガ廢止致サレコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、隨テ短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法モ、當然改メラレネバナラス次第デアリマス、御承知ノ如ク短期現役ニ服スル小學校教員ニ對シテハ、其ノ在營中教員タル身分ハ現職ノ儘トシ、俸給ハ三分ノ一ヲ支給シ來ツテ居ツタノデアリマスガ、是ガ理由ト致シマスル所ハ、小學校教員ハ國民教育ニ任ズベキ重責ニアリ、教員自ラ軍隊教育ヲ受ケ、其ノ得タル所ヲ國民教育ニ及ボシ、以テ次代國民ヲシテ國民ノ必任義務ヲ完全ニ履行セシムルノ重大ナル任務ヲ有スル點ニアルノデアリマス、今回兵役法ノ改正ニ依リ、短期現役兵ノ制度ハ之ヲ廢止セラレコトト相成ルノデアリマスガ、小學校教員ガ有スル此ノ國民教育上ノ重責ハ、短期現役兵制度ノ廢止ニ依ツテ消滅セザルノミナラズ、現時ノ國情ニ鑑ミル時ハ、益々其ノ重要性ヲ加ヘタルモノト考ヘルノデアリマス、此ノ故ニ短期現役兵制度ノ廢止後モ、師範學校卒業者ニシテ現役ニ服スル小學校正教員ニ對シテハ、其ノ身分取扱ハ從前通リトシ、其ノ俸給支給ニ付テハ、短期現役兵當時ノ待遇ト懸隔ヲ生ゼシメザルヤウ支給致シタイト考ヘテ居リマス、而シテ

其ノ俸給費負擔ニ關シテハ、市町村財政ノ現狀ニ照ラシ、從前通り之ヲ國庫ノ負擔ト爲スコトト致シタイト存ズル次第デアリマス、隨テ本案ハ兵役法改正ニ伴ヒ短期現役兵制度ノ廢止ニ依リ、改ムベキ點ヲ改正セントスルニ外ナラナイノデアリマス、何卒慎重御審議ノ上速ニ御協賛アランコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、軍用自動車検査法案委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第六、兵役法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——陸軍大臣板垣征四郎君

第六 兵役法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

兵役法中改正法律案

兵役法中左ノ通改正ス

第六條中「四年」ヲ「五年」ニ改ム

第七條中「五年」ヲ「七年」ニ改ム

第八條中「十二年四月」ヲ「十七年四月」ニ

「十一年四月」ヲ「十六年四月」ニ改ム

第十條 削除

第十二條中「六十日」ノ下ニ「(海軍現役兵ニシテ師範學校ヲ卒業シ小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ有スル者ニ在リテハ一年六十日)ヲ加フ

第十五條 削除

第十七條第三項中「前二項」ヲ「前項」ニ改メ同條第二項ヲ削除

第十八條中「第九條第一項及第十條」ヲ「及第九條第一項」ニ改ム

第三十三條 現役ニ適スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ體格等位ノ優劣ニ從ヒ徵集豫定者及其ノ徵集順序ヲ定メ各徵募區ノ配賦人員ニ應ジ現役兵、第一補充兵ノ順序ニ之ヲ徵集ス

前項ノ徵集順序ヲ定ムル場合ニ於テ體格等位同一ナル者ニ付特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ抽籤ノ法ニ依リ其ノ徵集順序ヲ定ムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ徵集スベキ者ノ屬スル兵種ハ各徵募區ノ配賦人員ニ應ジ其ノ身材、藝能及職業ニ依リ之ヲ定ム

現役ニ適スル者ニシテ現役兵又ハ第一補充兵ニ徵集セザル者ハ之ヲ第二補充兵ニ徵集ス

現役兵徵集豫定者ニシテ其ノ屬スル兵種定マリタル者ハ本人ノ願ニ依リ第一項及第二項ノ規定ニ依リ徵集順序ニ拘ラズ現役兵ニ之ヲ徵集スルコトヲ得

第三十八條 削除

第四十一條 徵兵検査ヲ受クベキ者ニシ

テ勅令ノ定ムル學校ニ在學スル者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ年齡二十六年迄ヲ限トシ其ノ徵集ヲ延期ス

前項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ニ對シテハ在學ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵検査ヲ行フ但シ一

ノ學校卒業ノ日ヨリ六月以内ニ他ノ學校ニ入學スル者ニ付テハ徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス

第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル期間満了ノ年ニ至ルモ在學ノ事由尙止マザル者ニ對シテハ其ノ年徵兵検査ヲ行フ

戰時又ハ事變ニ際シ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ徵集ヲ延期セザルコトヲ得

第四十五條第二項中「第二項」ヲ「第二項」ニ改ム

第四十九條 左ニ掲グル者徵集豫定者ト爲リタル場合ニ於ケル其ノ徵集順序ハ

第三十三條第五項ノ規定ニ依ル者ノ下位トシ其ノ他ノ者ノ上位トス

一 第四十六條第二項ノ規定ニ該當スル者
二 第四十七條ノ規定ニ該當スル者
三 第七十四條ニ規定スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者

四 第七十六條ニ規定スル罪ヲ犯シ刑

ニ處セラレタル者

第五十三條第一項中「第四十一條第三項若ハ第四項」ヲ「第四十一條第二項若ハ第三項」ニ「第六十六條第一項又ハ第六十七條」ヲ「又ハ第六十六條第一項」ニ、同

條第二項中「第十七條第一項又ハ第二項」ヲ「第十七條第一項」ニ改ム

第五十五條第二項中「服役第一年次」ヲ「初ル」

第五十六條第三項ヲ左ノ如ク定ム
前項ニ規定スル召集日數ハ特別ノ必要アル場合ニ限り五十日以内之ヲ延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第一項ニ規定スル召集回数ヲ一回宛減ズルモノトス

第五十七條第一項中「第一補充兵」ヲ「補充兵」ニ改ム

第六十二條第四項中「認ムル者ナルトギハ」ノ下ニ「召集期日若ハ召集年次ヲ變更シ又ハ」ヲ加フ

第六十七條 削除
第七十三條中「帝國外ノ地ニ在リテ帝國臣民ノ爲ニ設置シタル學校」ヲ「帝國外ノ地ニ在ル學校」ニ改ム

附則

本法ハ昭和十四年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十條、第十二條、第十五條、第十七條、第十八條、第三十八條、第四

十一條、第四十五條及第六十七條ノ改正規定竝ニ第五十三條ノ改正規定中第十七條、第四十一條及第六十七條ニ關スル部分ハ昭和十四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年三月三十一日ニ於テ現ニ第十九條ノ規定ニ基キ其ノ服役ノ期間ヲ延長セラレ居ル者ノ服役ハ第八條ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十四年十二月一日ニ於テ現ニ短期現役兵トシテ徵集セラレ未ダ入營セザル者及短期現役兵トシテノ服役ヲ終リタル者ノ服役ハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十四年十二月一日ニ於テ現ニ中學校又ハ從前ノ第四十一條ノ規定ニ依リ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校ニ在學スル者ニ對スル徵集ノ延期ハ其ノ者ガ現ニ在學スル學校ニ引續キ在學スル間ハ第四十一條ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

（國務大臣板垣征四郎君登壇）
○國務大臣（板垣征四郎君） 兵役法中改正法律案提出ノ理由ニ付テ説明致シタイト存ジマス

第一ハ服役、召集、在學徵集延期等、直接軍備充實ニ關係アル改正デゴザイマス、海軍關係ノ事項モゴザイマスガ、併セテ私カラ申上ゲマス、御承知ノ如ク現下内外ノ情勢ノ變化ハ、帝國軍備ノ迅速且ツ飛躍の充

實ヲ必須トスルニ至リマシテ、戰時所要兵力保持ノ爲ニハ、或ル程度服役期間ノ延長ヲ絕對ニ必要トスルニ至ツタノデアリマス、即チ陸軍ニ於キマシテハ補充兵役ヲ五年、海軍ニ於キマシテハ豫備役ヲ一年、後

備兵役ヲ二年延長致サネバナラスコト相成リマシタ次第デアリマス、又就中幹部ノ新銳化竝ニ在郷軍人ノ能力向上ニ付キマシテハ、今次事變ニ於キマシテ特ニ其ノ必要ヲ痛感セラレタ所デアリマシテ、是ガ爲ニ在學徵集延期制度及ビ召集制度ニ所要ノ改正ヲ加ヘナケレバナラスノデアリマス、尙ホ

現役兵徵集人員モ増加ヲ見ルコトナリマシタ結果、入營兵ノ體位低下ヲ極力阻止スルノ必要ヲ生ジ、是ガ爲メ兵員徵集法ニ付キマシテモ、其ノ目的ニ副フ如ク所要ノ改正ヲ致シタイト存ジマス

第二ハ短期現役兵制度ノ廢止デアリマス、現在ノ制度ニ於キマシテハ、師範學校ヲ卒業シタ者ハ五箇月ノ現役ノ後ハ、直チニ第一國民兵役ニ服スルコトト相成ツテ居リマスガ、近時軍ノ裝備ハ著シク機械化サレ、其ノ戰鬪法モ頗ル複雑ニナリマシタノデ、僅カ五箇月ノ期間デハ到底軍隊教育ヲ十分ニ施スコトガ出來ナイバカリデナク、

教員タル者ニ十分ニ軍隊教育ヲ體得セシメ、現役服役後ニ於テ之ヲ兒童生徒ノ教育ニ及ボシ、國民ノ必任義務ヲ完全ニ遂行セシメ、遺憾ナク皇運扶翼ノ任ヲ盡サシメマス

爲ニモ、現在ノ制度デハ適當デナイト存ズルノデアリマス、而モ一朝有事ノ際ニ於キマシテハ小學校教員ガ一般國民ト同様、直チニ國防ノ第一線ニ立ツコトハ國民教育上極メテ肝要デアルト思料致スノデアリマス、隨テ本制度ハ之ヲ廢止致サントスル次第デアリマス、本制度ノ廢止ニ依リマシテ、一層國民皆兵ノ實ヲ擧ゲ得マスコトハ、今更申スマデモナイト存ジマスガ、尙ホ本制度ノ廢止ニ依リ、國民教育ニ支障ヲ及ボサナイコトニ付キマシテハ、十分ナル確信ヲ有シテ居ル次第デアリマス

第三ハ日滿兩國一體ノ關係ヲ助長スル爲ノ改正デアリマス、即チ滿洲國ノ設立スル學校中、日滿兩國發展ノ爲、特種重大ナル關係ヲ有スルモノニ對シマシテハ、帝國ト致シマシテ其ノ充實發展ノ爲積極的援助ヲ爲スト共ニ、之ニ在學スル帝國臣民ニ對シマシテハ、其ノ修學ニ關シ、帝國ノ設立スル學校ニ於ケルト同様ノ便宜ヲ與フルノ必要ガアルモノト信ズル次第デアリマス、今回本法律案ヲ提出スルニ至リマシテ理由ハ以上ノ通りデゴザイマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラントラ希望致シマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——最上政三君

(最上政三君登壇)

○最上政三君 私ハ只今上程ノ本案ニ對

シ、四點政府ニ質疑ヲ試ミタイト思ヒマス 第一ハ短期現役制度ノ廢止ノ問題デアリマス、今回ノ改正案ハ只今陸軍大臣ヨリ申サレタル如ク服役、召集、徵兵延期等各項ニ互ル改正デアリマス、其ノ間ニハ色々重要問題モアリマセウガ、問題トナルノハ、短期現役制度ノ廢止デアルト思フノデアリマス、元來此ノ制度ハ我國獨特ノ制度デアツテ、是ガ爲メ今日マデ優秀ナル小學校教員ヲ得、又我が教育界ニ貢獻シタコトハ私ガ申スマデモアリマセス、此ノタビ此ノ制度ヲ改正シテ師範卒業者モ一般兵役者ト同ジク、二箇年服役トスルト云フヤウニ改正ニ相成ルノデアリマスガ、其ノ結果今後師範學校入學者ハ減少スルノデハナイカ、又小學校教育ニ對シ影響スル虞ナキヤ否ヤト云フ點デアリマス、是ガ實施ノ場合ニ於テハ、最近ノ狀況ヲ見テモ毎年二千五百名内外ノ入學者ガアリマス外ニ、男子教員一箇年ノ退職及ビ死亡者ハ約二万人ニ達シテ居リマス、之ヲ加ヘルト年ニ二萬數千人ノ小學校教員者ガ茲ニ不足ヲ生ズルコトニ相成ルノデアリマス、唯デサヘ今日軍需「インフレ」景氣ニ依ツテ、師範學校入學志望者ガ少イノデアリマス、若シモ本案施行ノ場合ニ於テ志望者ガ少クナリ、其ノ爲ニ小學校教員ノ素質等ニ於テ低下スルノデハナイカト云フコトヲ憂フル者デアリマス、又現在ノ短期現役制度ニ於テハ召集サレタ場合ニ、在役中

小學校ノ教員トシテ俸給ノ三分ノ一ヲ支給サレテ居リマス、勿論是ハ當然支給サルベキモノデアリマスガ、他ノ一般服役者ト權衡上ノ問題ハドウカ、現ニ今日官公署ニ在職スル者ガ、其ノ在職中召集サレタ場合ニ於テ、現役兵トシテ召集サレタキハ俸給ノ全部ハ貰ヘナイノデアリマス、是ガ充員召集デアルトカ、臨時召集ト云フヤウナ、所謂赤紙ノ召集ナラバ俸給ノ全額ガ貰ヘルノデアリマス、斯ウ云フ譯デ、此ノ事變ガ今後如何ニナルカハ存ジマセスガ、此ノ俸給額モ相當ノ額ニ達スルト思フ、勿論國家ノ爲ニ是等官公吏ノ人々ガ出征シタノデアルカラ、俸給ノ全額ヲ支給スルコトハ差支ナイガ、唯現役者デアアルカラ俸給ヲ呉レナイ、充員召集デアルトカ、臨時召集者ニハ俸給全額ヲ支給スル、ソレノミナラズ手當モ支給シ、俸給モ昇ルノデアリマス、斯ノキ如コトデアツテ、今後幾年續クカ分ラナイト云フトキニ、現役者ト、又赤紙召集者トノ間ニ、憂フル點ガナイカドウカラ心配スルノデアリマス、特ニ徵兵検査ノ際ニ補充兵トシテ決定シタ者ガ、一ハ現役ニ變更シテ召集サレテ俸給ガ貰ヘナク、一ハ補充兵トシテ充員召集トシテ召集サレテ俸給ガ貰ヘル、同ジ官廳ニ居ル人々ガサウ云フヤウナ待遇ヲ受ケテ居ル、此ノ點ハ如何デアルカ、私ハ陸軍當局其ノ他ノ國務大臣ニ伺ヒタイノデアリマス

第二ハ昨年來徵兵延期ノ學生ガ遽ニ増加シテ居ル問題デアリマス、我國ニ於テハ男子二十歳ニ達スレバ兵役ノ義務ニ服サナケレバナラヌコトハ、今更申スマデモナイトデアリマス、然ルニ國家ハ除外例トシテ、中等學校以上ノ指定サレタ學校ニ在學スル學生トカ、海外ニ在ル者ニ對シテハ徵兵延期ノ恩典ヲ與ヘテ居リマス、是ハ國家皆兵制度ノ國家トシテ、嚴格ナル意義カラ申シマスレバ如何カト思フ、併シナガラ私ハ此ノ制度ニ反對デアリマセス、又之ヲ否認シヨウトスル者デモアリマセス、唯國家非常時ノ際、此ノ恩典ニ預ツテ居ル所ノ學生諸君ガ如何ナル現狀ニアルカト云フコトヲ、特ニ荒木文部大臣ニ伺ヒタイノデアリマス、由來我國ノ壯丁ハ農村ノ子弟ガ大部分ヲ占メテ居リマス、彼等ハ中學校ニ入レズ、小學校ヲ卒ヘタ者バカリガ多イノデアリマス、其ノ中ニハ家貧シウシテ、本人ガ召集サレタ場合ニ於テハ、一家ノ生活スラ得ルコトガ出來ナイ人モ多イノデアリマス、是ガ爲ニ國家ハ兵役法第二十條、第四十條ニ於テ、兵役ヲ免除シ、或ハ徵兵延期ノ恩典ヲサヘ與ヘテ居ルノデアリマス、併シナガラ是等ノ人々ハ兵役免除、或ハ徵兵延期ノ恩典ニ預ルコトヲ潔シトシナイノデアリマス、特ニ今回ノ應召ニ對シテハ一家ノ働き者ガ多ク召集サレタノデアリマス、ソレガ爲ニ地方ノ農家ハ耕作ヲ休ミ、商家ハ家業ヲ疊ンデ

勇躍出征シテ居ル人々ガ多イノデアリマス、彼等ハ眼中ニ一家ナク、唯國家ニ御奉公申上ゲテ居ルヤウナ次第デアリマス、中ニハ入營ニ際シテ再検査ヲ受ケテ、身體ガ惡ク歸サレントスルヤ、徴兵官ニ採用方ヲ嘆願スル人ガ澤山アリマス、尙ホ若シモ容レラレナイ場合ニハ、何ノ顔アツテ郷黨ノ人々ニ見エシ乎ト、自殺シタ人サヘアルト云フコトハ、大臣モ御承知デアルト思フノデアリマス、此ノ氣慨、此ノ意氣アツテコソ、皇軍ガ到ル處ニ於テ連戰連勝シテ居ルノデアリマス、又我が國民ノ美點ハ茲ニ存スルノデアリマス、然ルニ事變下ノ我が高等教育ヲ受ケツツアル、猶豫ノ恩典ニ預ツテ居ル學生諸君ノ現狀ハドウデアるか、一度銀座街頭トカ盛リ場ニ行ツテ見レバ、感慨無量ノモノガアリマス、世間デハ徴兵延期ノ學生中、眞ニ學業中途ニシテ餘儀ナク延期シタ者ガドノ位アルカトサヘ噂サレテ居リマス、私ハ此ノ噂ヲ信ジタクハアリマセヌ、信ジタクハアリマセヌガ、併シ最近ノ徴兵検査ノ現狀ヲ見ルト、或ハ世間ノ噂ガ事實デアルノデハナイカトスラ疑ハレノデアリマス、今陸軍當局ノ調査ニ係ル過去數年間ノ學生ノ徴兵延期ノ人數ヲ擧ゲテ申上ゲテ見タイト思ヒマス、昭和九年ニハ九万一千百三十三人ノ徴兵延期ノ學生ガアリマシタ、十年ニハ九万七千八百六十六人デアリマス、十一年ニハ九万五千四百一十一人ト

云ウヤウナ數字デ、此ノ數年間ハ年々減少シテ居リマス、減少シテ居ルニモ拘ラズ、十二年ニハ九万二千三百九十七人ニ増加シテ居リマス、十三年ニハ更に増加シテ九万六千四百一十人ト云フ數字ニナツテ居リマス、之ヲ十二年ニ比ベテ見マスト約四千人ノ増加デアアル、又十一年度ニ比ベテ見マスト、昨年ハ約六千人ノ増加ヲ示シテ居ルノデアリマス、一方徴兵検査ノ人員ハ、私此處デハ數字ヲ承知シテ居リマスガ一々申上ゲマセヌ、徴兵検査ノ人員ハ最近甚ダ憂フベク年々減少シテ居ル、又學校數モ殖エテ居ラナイ、ソレニモ拘ラズ事變突發後徴兵ニ殖エルト云フノハドウ云フ結果デアるか、此ノ點ヲ荒木文部大臣ニ特ニ御伺シタイノデアリマス、斯ク申シマシテモ、私ハ荒木文部大臣ヲ問責スル者デハアリマセヌ、大臣ニ對シテ私ハ敬意ヲ拂ツテ居ルノデアリマス、ソレハ荒木文部大臣ノ御令息貞發君ガ昨年南支戰線ニ派遣サレ、最近歸郷シタト云フコトヲ新聞デ見タトキニ、實ニ文部當局ノ大臣トシテ、國民ノ儀表トシテ、最も好イ敎訓デアルト思ツタノデアリマス、國務大臣ノ御令息ガ一兵卒トシテ南支戰線ニ働クト云フ其ノ新聞記事ヲ見テ、私ハ荒木文部大臣ニ敬意ヲ拂ツタ一人デアリマス、故ニ私ハ文部大臣ニ對シテ決シテ問責スルノデハアリマセヌガ、斯様ナ數字ガドウシテ茲

ニ現ハレテ來タノデアるか、尙ホ事變勃發後徴兵延期ノ學生ガ國家ノ危急ヲ憂ヘテ自ラ延期ヲ取消シ、喜ンデ徴兵検査ヲ受ケテ勇躍出征シタ人ハ何人アルカ、其ノ數ヲ示シテ戴キタイノデアリマス

第三ハ徴兵再検査ノ問題デアリマス、是ハ一面カラ見ルト甚ダ不合理ノヤウデアリマスガ、只今陸軍大臣ガ此處ニ御述ニナツタ説明ニ依ツテモ、我國ニ於テハ現在ノ儘デハ、自然増加ニ待ツテハ陸軍トシテノ所要人員ヲ得ルコトガ困難デアルト言ハレテ居ルノデアリマス、今日世界各國ハ軍備ノ擴張ニ汲々タルモノガアリマス、我國モ之ニ伴ウテ所要人員ヲ増加スルノハ當然デアリマス、併シナガラ私ハ之ヲ解決スルニハ自ラ方法ガアルト思フノデアリマス、例ヘテ申セバ過去十年間位ノ壯丁ニシテ、徴兵検査ノ結果不合格トナツタ者ニ對シ、此ノ際政府ハ臨時的ニ徴兵再検査ヲスル意思ナキヤト云フコトデアリマス、サスレバ私ノ計算ニ於テモ優ニ百万位ノ優秀ナル壯丁ガ得ラレルノデアリマス、最近ノ徴兵検査ノ狀況ヲ見マスト、検査人員ノ約七割方ガ合格シテ居ルノデアリマス、之ヲ數年前ニ就テ見マスト、二三割方ノ合格率シカナイノデアリマス、此ノ間ノ狀況ヲ見マスト、當時ハ軍縮時代ニ於テ不合格トナツタ人モアリマセウ、又検査ノ當時病弱者デアツタ人モアリマセウガ、其ノ後癒ツタ人モアル

カラ、此ノ方法ヲ以テ再検査ヲ實施シタナラ、一時ニ相當多數ノ壯丁ガ得ラレルノデアリマス、此ノ聲ダケデモ蔣介石政權ハ勿論、英佛ノ迷夢ヲ醒マスコトハ易々タルモノデアルト思フノデアリマス、以上ハ甚ダ私ノ理想論ノ如クデアリマスガ、軍部ノ一部ニ於テモ斯ウ云フ意見ガアルト云フコトヲ、私ハ承知シテ居ルノデアリマス、ドウカ此ノ問題ニ付テハ十分御檢討アランコトヲ私ハ陸軍大臣ニ要望シ、同時ニ此ノ問題ニ付テ御意見ヲ承リタイト思フノデアリマ

第四、最後ノ問題ハ兵役稅ノ問題デアリマス、之ヲ言葉ヲ換ヘテ申シマスト、壯丁稅デアリマス、徴兵検査ノ結果不合格者トナツタ者ニ對シ兵役稅ヲ課スルト共ニ、兵役ニ應ズル男子ナク、婦女子バカリノ一家ニ對シ、兵役稅ヲ課スル意思ナキカ如何ト云フコトデアリマス、是ハ國民皆兵主義ノ國家トシテ眞ニ考究スベキコトデアツテ、現ニ獨逸ヲ初メ、其ノ他ノ二三ノ國ニ於テ行ツテ居ルノデアリマス、唯今回ノ事件ニ於テハ、第一線ニアル將士ノミナラズ、銃後ニアル國民モ亦勤勞奉仕等ニ依ツテ國家ニ御奉公申上ゲテ居ルカラ、其ノ必要ハナカラウト云フ論者モアルノデアリマス、併シナガラ銃後ニ於テ活動シテ居ル人々ハ、兵役免除者バカリカト言ヘバ、サウデハアリマセヌ、今ヤ我國ハ國ヲ擧ゲテ老若男女

悉ク銃後ニ於テ努力シテ居ルコトハ、既ニ御承知デアルト思フノデアリマス、又此ノ問題ハ本議場ニ於テモ屢々問題トナツタノデアリマス、即チ明治三十四年第十六議會ニ於テハ議員吉岡直一氏ガ本案ヲ提出シ、又大正四年第三十六議會及ビ三十七議會ニ於テハ議員矢島八郎氏ガ此ノ兵役税法案ヲ提出致シテ居ルノデアリマス、當時ノ内容ハ、兵役稅ハ徵兵適齡ニ達シタル翌年ヨリ七年間之ヲ納付シ兵役義務者ガ第三種所得納稅者ナルトキハ、所得金額ノ千分ノ二十ヲ徵シ、單ニ市町村ノ公民ナルトキハ五圓、公民ニアラザルトキハ三圓トナツテ居ルノデアリマス、當時此ノ案ハ兵役稅ヲ壯丁稅ト改メテ、其ノ他二三ノ箇所ヲ修正シテ衆議院ハ通過シタル歴史ガアルノデアリマス、偶々貴族院ニ於テ審議未了トナツタノデアリマス、兵役稅ニ對シテハ陸軍當局ニ於テハ、今日マデ反對ノ意向ノヤウデアリマス、其ノ理由トシテハ、兵役ノ義務ヲ税金ヲ以テ代ヘルト云フコトハ、軍人精神ニ反スルモノデアアル、或ハ又傭兵制度ニ墮スル虞ガアルト云フコトデ反對シテ居ルノデアリマス、是ハ一應御尤ノヤウデアリマスガ、假ニ傭兵制度ト誤ルト云フナラバ、徵收方法ニ依ツテ其ノ憂ヲ除去スルコトガ出來ルノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ此ノ兵役稅ヲ特別會計トスルノデアリマス、特別會計トシテ之ヲ實施シタ場合ニ於テハ、

或ハ此ノ誤解ヲ防ギ得ルコトト思フノデアリマス、今日軍事扶助料並ニ軍事援護費用ハ約一億圓ニ達シテ居ル情勢デアリマス、私ハ此ノ軍事費用及ビ援護費用等ニ充ツル爲特別會計ヲ以テ兵役稅ヲ課シテ宜イト思フ、其ノ兵役稅ヲ以テオ五ニ困ツテ居ル所ノ家族ヲ救フトシタナラバ、是ハ相互扶助デモアリ、又國民皆兵ノ趣意ニモ適シテ居ルト思フノデアリマス、ドウカ政府ハ斯ウ云フヤウナ意味ニ於テ、此ノ兵役稅ニ對シ御考慮ヲ願ヒタイ、又兵役ニ服セザル所ノ一家ニ於テハ、寧ロ今日ニ於テハ税金其ノ他ニ依ツテ、國家ニ御奉公ヲシヨウト考ヘテ居ルモノガ多數デアアルノデアリマス、現ニ此ノ問題ハ地方ニ於テ相當問題トナリ、群馬縣ノ縣會ニ於テモ、是ガ問題トナツタト云フ事例モアルノデアリマス、故ニ私ハ名稱トカ徵收方法ハドウデモ宜イカラ、ドウカ此ノ兵役稅ヲ創定シテ、サウシテ今日ノ軍事扶助料デアルトカ、其ノ他ノ費用ノ一部分ニ兵役稅ヲ用ヒル考ハナキカ、以上ノ四點ニ對シテ政府ノ御答辯ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス(拍手)

(國務大臣男爵荒木貞夫君登壇)

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 只今ノ最上君ノ御質疑ニ御答致シマス、第一ハ、師範學校ノ生徒ガ短期現役兵ノ廢止ニ伴ウテ減少シハシナイカ、過去ノ思想カラ或ハ左様ナ御心配ガ起ルカトモ存ジマス、併シナガ

ラ苟モ國民教育ニ任ズル此ノ重要ナ責務ヲ持ツテ居ル者ガ、兵役ノ長短ヲ交換トシテ入ツテ來ルト云フヤウナコトデアッタナラバ、是ハ非常ナ誤リデアアル、先ヅ其ノ根柢ヲ直ス必要ガアルト存ジマス(拍手)而シテ今提案ノ理由ニモアリマシタ如ク、私ハ國民教育ト軍隊教育トハ一貫シタル皇運扶翼ノ一ツノ大キナ教育デナケレバナラス、故ニ國民教育ニ任ズル者ハ義勇公ニ奉ズル此ノ考ヲ徹底セシムルコトガ、ヤハリ國民教育ノ最モ重要ナモノト存ジマス、故ニ之ヲ十分ニ體得シテ、幼少ノ頃カラ徹底セシムル爲ニハ、小學校ノ教員ガ過去ニ於テモ寧ロ自ラ進ンデ此ノ體驗ヲスルコトガ、必要デアツタト考ヘルノデアリマスルガ、事茲ニ至ラナカツタノハ、歐洲ノ總テノ制度ヲ受入レタ其ノ關係デアツタノデハナイカト存ズルノデアリマス、故ニ斯様ナコトニ付テハ、其ノ根本ヲ茲ニ考ヘテ行キタイ思ツテ居リマス、併シナガラ他方物質ノ問題其ノ他モアリマスノデ、自然人情トシテ御心配ノ點ニナラウト存ジマスカラ、此ノ國民教育ニ從事スル者ノ待遇、之ニ對シテハ將來大イニ考慮致シマシテ、此ノ神聖ナル任務ニ服スル人々ノ位置ノ向上ヲ圖ツテ、以テ之ヲ防ギタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

第二ノ募集ニ關シテノ問題デアリマスガ、是ハ十四年度ニ於キマシテ、地方ニ師範學校ノ第二部生ノ増募ヲ獎勵致シマシテ、其ノ増募ニ對シマシテハ、中央カラ之ニ補助ヲ與ヘルコトニナツテ、今年度ノ豫算二十萬圓ヲ計上致シマシテ、取敢ズ其ノ應急ノ措置ヲ講ジテ居ル次第デアリマス

第三ノ二年ニ互ツテ之ニ三分ノ一ノ俸給ヲ支給スル場合ニ、他ノ一般兵役義務者トノ均衡ガ取レナクハアルマイカ、斯様ナ御質問ノヤウニ存ジマシタガ、是ハ師範學校卒業生ノ重要ナ任務ニ鑑ミマシテ、過去ノ短期現役兵ト同一ナ考ヲ以テ、茲ニ特殊性ガアルト云フコトニ依ツテ、其ノ點ハ必要ナコトト考ヘルノデアリマス

第四ノ大學生ノ問題ニ付キマシテハ、大學生ノ中ニモ、若シ一タビ御用トアレバ必ズ進ンデ行ク者ガ多數ニアルト考ヘテ居ルノデアリマスルガ、假ニモ此ノ軌範トナルベキ大學生ガ時局ノ認識ヲ誤ツテ、只今御指摘ニナリマシタヤウナコトガアリマスルナラバ、洵ニ教育當事者トシテ相濟マヌコトデアリマスノデ、昨年來是等ノ振肅ニ對シテハ、多少ソレノ手段ハ盡シテ居リマスガ、今尙ホソコニ十分ニ至ラナイノデアリマス、全般ニ是等ノ軌範トナルベキ學生ニ付キマシテハ、十分獎勵ヲ致シマシテ、御期待ニ副フヤウニ致シタイト存ズルノデゴザイマス、以上ヲ以テ御答ト致シマス(拍手)

(國務大臣板垣征四郎君登壇)

○國務大臣(板垣征四郎君) 只今ノ御質問ノ徵集延期學生ノ狀態ノ件デアリマス、徵

集延期ノ學生ノ増加シテ參リマシタコトハ、御意見ノ通りデアリマス、此ノ原因ハ徵集延期ノ資格ヲ有スル學校ノ増加、又之ニ向ツテ入學スル者ノ人員ノ増加、又一方ニ於テ優良學校ヘノ入學難ニ伴ヒマシテ、徵集延期ヲ更ニ又延引スル者ガ増加シテ來タ、斯ウ云フヤウナ原因デアルト判斷ラシテ居ルデアリマス、而シテ此ノ學生ノ中ニ、或ハ徵兵忌避トデモ疑ハルベキ證據ハナイカト云フ次ノ御質問デアリマスガ、只今ノ所ニ於キマシテハ、徵兵ノ検査其ノ他ノ結果ニ依リマシテモ、其ノ確證ハゴザイマセス(拍手)又斯ノ如キコトハ學生ニ於テ斷ジテアルベキコトデハナイト確信スルデアリマス(拍手)又徵集延期中ノ學生デ、今回ノ時局ニ鑑ミテ進ンデ徵兵検査ヲ受ケテ召集ニ應ジタ者ハ、昨年度中百三十一名ゴザイマス(拍手)

徵兵検査ニ於キマスル再検査ノ問題デアリマス、一タビ徵兵検査ヲ受ケマシテ、終結處分ガ決定致シマスレバ、ソレノ所要ノ兵役ニ就クコトニナルデアリマス、隨テ更ニ再検査ヲ行ツテ、此ノ終結處分ヲ覆シテ別ナ兵役ニ還元セシムルト云フコトハ、現行ノ兵役法ノ體制ヲ覆スモノデアリマシテ、法規上カラ致シマシテモ、又徵集技術上カラ致シマシテモ、實行ガ至難ナコトデアルト考ヘルデアリマス、尤モ徵兵検査ニ際シテ疾病中ノ者、或ハ又病後期間

モナイト云フヤウナ壯丁デアツテ、甲種デアルカ、或ハ乙種デアルカト云フコトヲ判定スルコトモ出來ナイ、又其ノ判定ハ翌年ニ俟タナケレバナラヌト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、此ノ再検査ノ方法ハ現ニ實行シツアルデアリマス、又尙ホ補充兵役又ハ國民兵役ニアル者ト雖モ、志願ニ依ツテ從軍スル途ノ開カレテ居リマスルコトハ御承知ノ通りデアリマス

其ノ次ノ問題ハ兵役稅ト申シマスガ、其ノ問題デアリマスガ、本問題ハ兵役義務ノ本質ニ鑑ミマシテ、非服役者ノ課稅ニ付テハ御同意ガ出來難イト考ヘテ居リマス、之ニ課稅スルト致シマスレバ、各種ノ不合理ノ事態ヲ生ズルコトモ考ヘラレルデアリマス、併シ一方ニ於キマシテ、此ノ兵役義務者ノ待遇ニ付キマシテハ、當局ニ於テモ特ニ意ヲ用ヒテ居ル所デアリマシテ、曩ニ兵役義務者及癈兵待遇審議會ヲ設ケマシテ、此ノ答申事項ニ付キマシテハ、著々之ヲ實行シツアルデアリマス、又最近ニ於キマシテハ、更ニ軍事救護法ヲ改正シテ軍事扶助法ト致シマシテ、此ノ扶助ノ擴充ヲ圖リツツアルノミナラズ、目下入營官吏ノ身分保障、或ハ入營者ノ職業保障ノ強化等ニ付キマシテモ鋭意研究中デゴザイマス、是ダケ御答致シマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 伊東岩男君(伊東岩男君登壇)

○伊東岩男君 私ハ只今提案ニ相成ツテ居リマスル所ノ、兵役法中改正法律案ノ國防上ノ重要性ニ鑑ミマシテ、本案ニ直接關係アル事項竝ニ本案ト關聯致シマスル事項ニ付テ簡單ニ陸軍大臣、文部大臣、厚生大臣ニ御尋シタイト思フデアリマス

先ヅ第一ハ只今陸軍大臣カラ色々本案提出ノ理由ノ御説明ヲ拜聽致シマシタガ、無論微温的デハアリマスケレドモ、此ノ戰時下ニ於キマシテ、ドウシテモ必要ナル改正デアルコトハ勿論デアリマス、私ノ見ル所ニ依リマス、斯ル消極的ナ改正デ、此ノ變轉極リナキ國際情勢ノ變化ニ即應致シマス所ノ、新作戰上ノ兵力確保ニ十分ナル確信ガアルカドウカト云フ點デアリマス、何故ニ此ノ際モウ一步ヲ進メテ積極的ナ大改正ヲ御斷行ニナラナカツタノデアルカト云フ此ノ點デアリマス、而シテ我國ニ於キマシテハ精兵第一主義ヲ採ツテ居ルデアリマ

スガ、此ノ見地カラ適齡年齡ノ低下ヲ主張スルモノデアリマス、軍ノ御考ハドウデアルカ、即チ我國ハ精兵主義ヲ第一義トスルノハ勿論デアリマス、國際情勢、國防上ノ現狀カラ致シマシテ、皆兵主義ヲ併セテ必要トスルコトハ言フマデモアリマセス、而シテ私ハ第一ニ精兵主義ヲ絕對ニ堅持セネバナラスト考ヘルモノデアリマス、此ノ觀點カラ致シマシテ、第一徵兵ノ年齡ヲ低下スルコトガ非常ニ適切ダト思フデアリマ

ス、然ルニ軍ニ於テハ年齡ノ低下ニハ御反對ニナツタ結果トシテ、今回ノ御提案ニモ此ノ實現ヲ見ナイコトハ洵ニ遺憾トスル所デアリマス、第一軍ノ精否ハ將兵ノ體力、氣力ニアルト思フデアリマスガ、勇猛氣銳ヲ活力ハ若キ血潮ニノミ流レテ居ルト私ハ思フデアリマス、然ルニ年齡低下ハ體力ガ十分デナイカラ、飽クマデ軍ハ滿二十歲制度ヲ主張サレテ居ルヤウデアリマスケレドモ、現在ノ日本ノ志願兵ニ依ツテ之ヲ見マスルト何等ノ缺點モナイデアリマス、又外國ニ於テモ、米國、英國、佛國、何レモ十八歲、露西亞ハ十九歲デ入營セシメテ居ルノ御承知ノ通りデアリマス、更ニ青年學校ヲ義務制度ニ致シマシタノデ、私ハ青年學校カラ引續キ兵役ニ服セシメテサウシテ教育ヲスルコトガ必要ダト思フデアリマス、サウシテ早く入營セシメテ、早く兵役義務ヲ終了セシメ、三十七八歲ト云フ中年層ノ時代ニナツタ時ニハ、是ガ地方デ一番活躍スル階級デアリマスカラ、ゾレ等ノ者ヲバ生産事業其ノ他ニ活躍セシムルコトガ必要ダト考ヘルデアリマス、私ハ左様ナ見地カラ致シマシテ、軍ノ反對スル理由ハ少シモナイト考ヘテ居リマスケレドモ、ドウモ軍ハ之ニ反對サレテ居ルヤウデアリマスガ、軍トシテハ別ニ何等カ反對シナケレバナライ、即チ低下スルコトノ出來ナイ理由ガアルナラバ、其ノ理由ヲ伺ヒ

タイノデアリマス

次ハ農村ハ強兵ノ源泉デアリマス、兵農一體、和戰兩全ノ強化ニ付テ、軍ノ所信ハドウカト云フ問題デアリマスガ、私ハ都會ノ兵ガ必ズシモ弱イトハ斷ジテ考ヘテ居リマセヌ、然ルニ支那事變ニ依ツテ、敵兵ノ言ヲ所ニ依レバ、某々師團ニ最モ恐レヲナシテ居ル事實ガアルノデアリマス、農村ガ強兵育成ノ道場デアルコトハ、蓋シ疑フ餘地ガナイノデアリマス、支那事變處理ノ對策ノ一ツトシテ、日滿支ヲ一體トスル農業「ブロック」ノ結成、是ハ當然デアリマシガ、其ノ結果トシテ少クモ内地ノ農村ヲ壓迫シテ、是ガ原因トナツテ内地農村ニ不安ヲ招カシムルヤウナコトガアツテハ斷ジテ相成ラナイノデアリマス、内地農村ノ維持發展ニ依ツテノミ勇猛ナ軍隊ヲ得ラレルノミナラズ、兵食其ノ他軍需品ノ大部分ヲ生産スル農村デアリ又道場デアルノデ、寧ロ直接ノ國防事業デアルト云フ不可分關係ニ於テ、兵農一體ト云フ立場ヨリ、農村問題ニ對シテ軍ノ深キ理解ト關心ヲ喚起スルモノデアリマス、軍ト農村ノ問題ニ付テハ尙ホ論及致シタイノデアリマスケレドモ、之ヲ省略シテ、唯軍ノ農村ニ對スル關心ニ付テ御所信ヲ承リタイノデアリマス

次ハ出征兵ノ俸給給與ハ絕對ニ公平ナルコトガ原則デナケレバナリマセヌ、然ルニモ拘ラズ、現在ノ狀態ヲ見テミマスト其ダ

不公平デアルガ、軍ハ何等カ之ニ對シテ對策ヲ講ズルノデアルカ、又此ノ儘放任スル方針デアルヤ否ヤト云フ點デアリマス、即チ官公吏、會社員及ビ職工ガ應召サレタ場合ハ、其ノ俸給ノ金額若クハ大部分ヲ支給サレルコトニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ農民又ハ商工業者ガ召集サレテモ、依然定メラレタ俸給、即チ上等兵デアリマスタラバ八圓八十錢デアアル、假ニ農村ヨリ或ル會社ハ職工トシテ出テ居ル者ガアツタト致シマシテ、是ガ召集サレタ場合ハ、其ノ當時ニ給料百圓若クハ百五十圓貰ツテ居ル者ハ、其ノ儘ニ支給ヲ受ケルコトガ出來ルヤウニ相成ツテ居ル、此ノ事實カラ考ヘマシテ、私ハ此ノ點ガ非常ニ不公平デアルト思フノデアアル、同じ出征兵ノ間ニコシテ不公平ナ事實ガアツテハ、是ハ精神的ニ、思想的ニ及ボス影響ハ決シテ少クハアリマスマイ、長期作戰ノ上ニ軍ハ當然此ノ點ニ付テハ顧慮シナケレバナラヌ重大ナル問題ダト思フノデアリマスガ、此ノ善後對策ニ付テ確信アル陸軍大臣ノ御答辯ヲ得タイト思フノデアリマス

問題デアリマス、只今陸軍大臣ノ御答辯ニ依リマス、御反對ノ御意見ノヤウデアリマスケレドモ、是ハ少クトモ大キナ問題デアリマス、假ニ全國ノ戸數ヲ千五百萬戸ト致シマシテ、三百萬戸ノ兵役關係家庭ガアツタト致シマシテモ、残りノ千二百萬戸ノ家庭ト云フモノハ、何等兵役上ノ義務負擔ヲ受ケテ居ラナイノデアリマス、併シ兵役稅トカ、徵兵稅トカ、左様ナ名前ノ付ク課稅ヲ致シマスコトハ、是ハ國民皆兵ノ本義ニ則ツテ適切デナイト思フノデアリマシテ、此ノ點ハ陸軍大臣ト同様ノ意見ヲ持ツテ居リマスケレドモ、之ニ代ルベキ公平ナル負擔ヲ、兵役ニ服セザル家庭カラ適當ナル方法デ徵收スルヤウナ方針ヲ執ツテ行クト云フコトハ、ドウ致シマシテモ唯戰時下ニ於ケル間ダケデモ必要デアルト私ハ思ヒマスノデ、特ニ此ノ點ニ御再考ヲ得タイト思フノデアリマス

次ニ壯丁ノ體位ガ非常ニ低下致シテ居リマスルコトハ、長期作戰ノ上ノ一大缺陷ダト思フノデアリマス、人的資源ノ確保強化策ニ付テ、ドウ云フ御考ヲ持ツテ居ラレルカ、更ニ銃後對策ノ十全、負傷兵ノ失業問題等ニ付キマシテ、御尋シタイト思フノデアリマスガ、精銳主義ノ第一要件ハ、精神ト身體ノ健全性ニアルノデアリマス、皆兵主義ハ國民全體ノ體位向上ニ依ツテ、初メテ其ノ目的ヲ達スルノデアリマス、然ルニ現時ノ徵兵検査ノ狀況ハ如何、又學生及ビ青年ノ體位低下ハ洵ニ寒心ニ堪ヘマセヌ、勞働過勞ニ因ル所ノ健康ノ惡化、農村衛生ノ破壊、殊ニ人的資源ノ基本タル出生率ノ減少ニ鑑ミマシテ、出征兵ノ交代問題等ニ付テハ、十分ナル考慮ヲ拂フベキコトヲ痛感スルノデアリマスルガ如何、銃後對策ニ付テハ最善ノ施設ヲサレツツアリマスルガ、第一線ノ勇士ニ後顧ノ憂ナカムシムルコトガ最モ肝要デアリマス、殊ニ名譽ノ負傷ヲシタリ、又ハ疾病ニ罹ツタ多數ノ失業者ニ對シテハ、特段ノ注意ヲ拂フベキ問題ダト思フノデアリマスルガ、此ノ點ニ付テ敢テ厚生大臣ニ質問スルモノデアリマス

最後ニ青年學校振興強化ノ問題ト、短期現役制度ノ廢止ニ伴フ小學教育ニ支障ナカラシムル對策如何ト云フ問題デアリマス、軍關係ノ國家施設ノ中、青年學校ノ役割ハ最も重大デアリマス、而モ軍ノ各般ニ頗ル影響ガアルノデ、其ノ施設ニ付テハ萬全ヲ期セナケレバナリマセヌ、然ルニ十四年度ヨリ愈々青年學校ノ義務制ガ實施サレマスルガ、義務ダケヲ負ハセテ、國家ハ一部分ノ經費ヲ負擔ハスルケレドモ、其ノ義務負擔モ大部分ハ國民ニ之ヲ負ハシテ居ルノデアリマス、左様ナ青年學校ノ現在ノ制度ニ對シテハ、私ハ非常ナル不滿ヲ持ツテ居ル一人デアリマス、青年學校ハ兵營ノ一部分デアリマス、兵ノ八割ハ此ノ青年學校ヨリ

出テ居ルコトニ思ヒラ及ボシマシタ時、兵營ト同様、國家自ラガ之ヲ負擔シテ、寧ロ國營青年學校ト爲スベキコトヲ熱望シ、特ニ要求スルモノデアリマス、第一、軍事教練ノ徹底ノ爲ニ將校若クハ下士ノ配屬、次ハ優良教員養成ノ機關、教員給ノ全額負擔、學校建設費、設備費ノ負擔、生徒費ノ補給ヲ爲シ、訓練學習ノ時間ヲ増加シテ、サウシテ十全ヲ期セナケレバナラナイト思フノデアリマス

尙ホ最後ニ御尋シタイコトハ、短期現役兵制度ノ廢止問題デアリマス、之ニ因ツテ生ズル幾多ノ教育上ノ缺陷ガ現ハレテ來ルト私ハ信ズルノデアリマス、先ヅ教員ノ不足ニ對スル缺陷、其ノ他教育全面的ニ及ボス支障ニ對シテ、政府ハ如何ナル對策ヲ持ツテ居ルカ、特ニ文部大臣ノ御答辯ヲ得タイノデアリマス、以上ノ質問ニ對シテ、信念ト熱意アル所ノソレノ御答辯ヲ要求スル次第デアリマス(拍手)

〔國務大臣板垣征四郎君登壇〕

○國務大臣(板垣征四郎君) 只今ノ御質問ノ第一ハ、壯丁ノ年齡低下ノ問題デアルト承知ヲ致シタノデアリマスガ、現行ノ兵役法ニ於キマシテハ、滿二十歳ヲ以テ諸般ノ兵業ニ服セシムルト云フ見地カラ、此ノ年齡ガ最モ適當デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、隨テ今直チニ之ヲ改正スル考ハナイノデアリマスガ、之ヲ改正スル致シマシ

テ儲テ十九ガ宜イカ、或ハ十八ガ宜イカト云フヤウナコトハ、是ハ最モ慎重ニ研究ヲシナケレバナラヌ問題デアルト考ヘルノデアリマス、尙ホ一方ニ於キマシテ厚生省ニ於カレマシテハ、徵兵前ノ若イ十五六歳ノ者ニ、豫備檢診ヲ實行スルト云フ御考ガアルヤウデアリマス、是ハ洵ニ結構ナコトデゴザイマシテ、此ノ結果ヲ徵兵檢査ニ十分ニ利用スルト云フコトニ付テ考ヘテ居リマス

第二ノ問題ハ負擔ノ公正ヲ期スル見地カラ、官公吏並ニ大會社、大銀行等ニ於テハ、出征前ト同様ノ給與ヲ致シ居ルケレドモ、其ノ他ノ中小商工業者等ニ至ツテハ其ノ給與ヲ受ケテ居ラナイ、洵ニ御話ノ通りノ事實ガアルト存ズルノデアリマス、併シナガラ之ヲ全部ニ互リマシテ給與致シマスコトハ、諸般ノ事情カラシテ困難デアルト考ヘルノデアリマス、軍ト致シマシテハ、從來支給致サレマシタ所ノ者ハ、依然其ノ支給ヲ繼續サレンコトヲ希望スル次第デアリマスルシ、又支給ヲ受ケテナイ者ニ對シテハ、目下軍事扶助法ノ適用ニ依ツテ遺憾ナキヲ期シテ居ル次第デアリマス、尙ホ今後トモ銑後ノ負擔ノ公正化ニ付キマシテハ、他ノ政府當局トモ連絡ヲ致シマシテ、十分ニ研究ヲ致ス考デアリマス、兵役稅ノ問題ニ付テハ先程御答申上ゲマシタ通りニ、御同意致シ兼ネル所デアリマス

〔國務大臣男爵荒木貞夫君登壇〕

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 青年學校ノ教育ニ關スル國營ノ問題デアリマシタ、青年學校ノ制度ハ我國ノ劃期的ノ試ミデアリマシテ、私共青年學校ノ教育ニ將來ノ國運ノ消長ヲ大イニ期待シテ居ル者デアリマス、故ニ出來得レバ之ヲ地方ノ負擔トスルコトナク、國營トスルコトガ理想トシテハ適當デアルト思ヒマスルガ、御承知ノヤウニ只今ノ狀態ニ於テ、直チニ之ヲ實現スルコトハ困難デアリマシテ、甚ダ十分デハアリマセヌガ、總テノ問題ヲ考慮致シマシテ、此ノ程度ニ於テ取敢ズ青年學校ノ義務制ヲ施行致シマシテ、此ノ中堅青年ニ將來ヲ期待スル方法ヲ執ルコトガ、今日切要ト考ヘテ居ル次第デアリマス、御説ハ洵ニ御尤デアリマスガ、出來得ル限り地方ノ負擔ヲ十分輕減シツツ、此ノ效果ヲ舉ゲルコトニ努力ヲ致シマス、ソレカラ師範學校ノ短期現役兵ノ廢止ニ伴ウテノ減少ノ問題ハ、先程最上君ニモ御答ヲシタノデアリマスルガ、物質ト精神の方面トノ兩方ノ作用ニ依リマシテ、十分ニ待遇ヲ改善スルコト同時ニ、此ノ重要ナル任務ニ服スル國民教育ノ任ニ當ル方ノ氣構ヘト、國家ガ之ニ對スル待遇トヲ考慮致シマシテ、此ノ現象ヲ減ズルヤウニ努力致ス次第デアリマス(拍手)

〔國務大臣廣瀨久忠君登壇〕

○國務大臣(廣瀨久忠君) 先ヅ第一ニ國民

體位ノ低下ニ關スル御質問ニ對シテ御答シマスガ、國民體位ノ低下ニ付キマシテハ、以前ヨリ心配セラレテ居ツタ所デアリマシテ、厚生省モ斯ウ云フ問題ヲ取扱フ爲ニ生レタヤウナ次第デアリマス、吾々ト致シマシテハ文部省當局ト連絡ヲ取リマシテ、各般ノ衛生行政或ハ體力向上、矯正等ニ十分ノ努力ヲ致シマシテ、此ノ方面ニ力ヲ致シテ、立派ナ成績ヲ將來ニ期シタイト思ツテ居リマス、尙ホ出生率ノ問題、人口ノ問題等ニ付テ御心配ニナツテ居ルコトハ洵ニ御尤ニ存ジマス、殊ニ今回ノ事變ニ依リマシテ出生率ノ減少ガ相當ニアルノデハナイカ、恐ラク毎年二百萬近クノ出生ガ、三四十萬ノ減少ヲ來スノデハナイカト云フコトヲ心配致シテ居リマス、隨ヒマシテ是等ノ生レタ子供ニ付テハ、之ヲ完全ニ育テ上ゲルベク、吾々ノ方ニ於テモ特別ノ豫算ヲ以テ、乳幼児ノ保護ヲ完全ニ致ス積リデアリマス、尙ホ出生率ノ増加、此ノ問題ハ非常ニ重要ナ問題デアリマシテ、一朝一夕ニハ解決ノ出來ナイ問題デアリマスガ、人口問題ノ研究ノ一端トシテ、十分ニ研究ヲ致シタイト思ツテ居リマス

次ニ國策ニ關係シテ生ズル所ノ失業者ノ問題ニ付テ御心配ノ點、洵ニ御尤ニ存ジマス、物資動員計畫ノ爲ニ不振ナ産業ガ生ズル、之ニ依ツテ失業者ヲ生ズル、之ニ對シテ如何ニスルカ、是ハ非常ニ重要ナ問題デ

アツテ、私共ト致シマシテモ昨年來非常ナ
努力ヲ拂ツテ居リマス、先ヅ申スマデモナ
ク軍需工業、殷賑産業ニ出來得ル限リ轉職
ヲセシメル、紹介ノ勞ヲ取ル、其ノ外或ハ職
業ヲ授ケル爲ニ職業ノ輔導ヲスル、或ハ授
産ヲスル、或ハ内職ヲ與ヘルト云フヤウナ
各方面ノ施設ヲ十分ニ講ジテ居リマス、是
ガ爲ニハ相當ナ多額ノ豫算ヲ計上致シマシ
テ、商工省ト連絡ヲ取リマシテ、總テ違算
ナキヲ期スベク最善ノ努力ヲ致シテ居ル次
第デアリマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 是ニテ質疑ハ終了
致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員
ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、軍用自動
車検査法案委員ニ併セ付託サレンコトヲ望
ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程
第七、滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止
ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——
外務政務次官清水留三郎君

第七 滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ
廢止ニ關スル法律案(政府提出、貴族
院送付) 第一讀會

滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止ニ
關スル法律案

第一條 明治三十二年法律第七十號第六
條乃至第十七條ノ規定ハ滿洲國ニ駐在
スル領事官ニハ之ヲ適用セズ

第二條 本法施行ノ際現ニ滿洲國ニ駐在
スル領事官ノ管轄權ヲ有スル訴訟事件
及非訟事件ニ關スル事務並ニ登記事務
ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ朝鮮總督府裁
判所又ハ關東法院之ヲ管轄ス

第三條 本法ニ定ムルモノヲ除クノ外滿
洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止ニ關
シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行
ス

本法施行ノ際現ニ滿洲國ニ駐在スル領事
官ノ取扱ニ係ル訴訟事件及非訟事件ニ關
スル事務並ニ登記事務ハ第二條ノ規定ニ
依ル各相當ノ裁判所ニ移ルモノトス

本法施行前滿洲國ニ駐在スル領事官ノ爲
シタル訴訟事件及非訟事件ニ關スル行爲
並ニ登記ハ第二條ノ規定ニ依ル各相當ノ
裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

明治四十一年法律第五十二號及明治四十
四年法律第五十一號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前前項ノ法律ニ依リ朝鮮總督府
裁判所又ハ關東法院ニ於テ受理シタル訴
訟事件及非訟事件ニ關シテハ仍從前ノ例

ニ依ル但シ第三項ノ規定ヲ適用ヲ妨ゲズ
(政府委員清水留三郎君登壇)

○政府委員(清水留三郎君) 只今上程サレ
マシタ滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止
ニ關スル法律案ニ付キマシテ、提案理由ヲ
御説明申上ゲマス、昭和十二年十一月新京ニ
於テ調印セラレマシタル滿洲國ニ於キマス
ル治外法權ノ撤廢及ビ南滿洲鐵道附屬地行
政權ノ移讓ニ關スル日本國滿洲國間條約ニ
依リマシテ、滿洲國ニ於キマスル帝國ノ領
事官ハ、一定ノ訴訟事件及ビ非訟事件ニ
關スル事務ニ付キマシテハ、條約實施後モ
尙ホ之ヲ處理シ得ルコトトナツテ居ル次第
デアリマスガ、今日ノ實情ト致シマシテハ、
右事務ハ特ニ領事官ヲシテ之ヲ取扱ハシメ
ル必要モナイヤウニナリマシタノデ、右ノ
領事官ガ管轄權ヲ有シマスル是等ノ事務
ハ、今後ハ一切之ヲ舉ゲテ朝鮮總督府裁判
所又ハ關東法院ノ管轄ニ移サントスルモノ
デアリマシテ、是レ本案ヲ提出致シマシタ
所以デアリマス、何卒宜シク御審議アラ
ンコトヲ御願致シマス

○副議長(金光庸夫君) 本案ノ審査ヲ付託
スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出人事調停法
案委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、是ニテ
議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日
程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是
ニテ散會致シマス
午後五時三十八分散會